

別紙

第三號樣式 (木質適宜)



是ヨリ何尺通(東)へ何十間露店開設地

岐阜縣何警察署

別紙

第四號樣式

指定年月日	指定地	指定區間	指定地管理者	備考

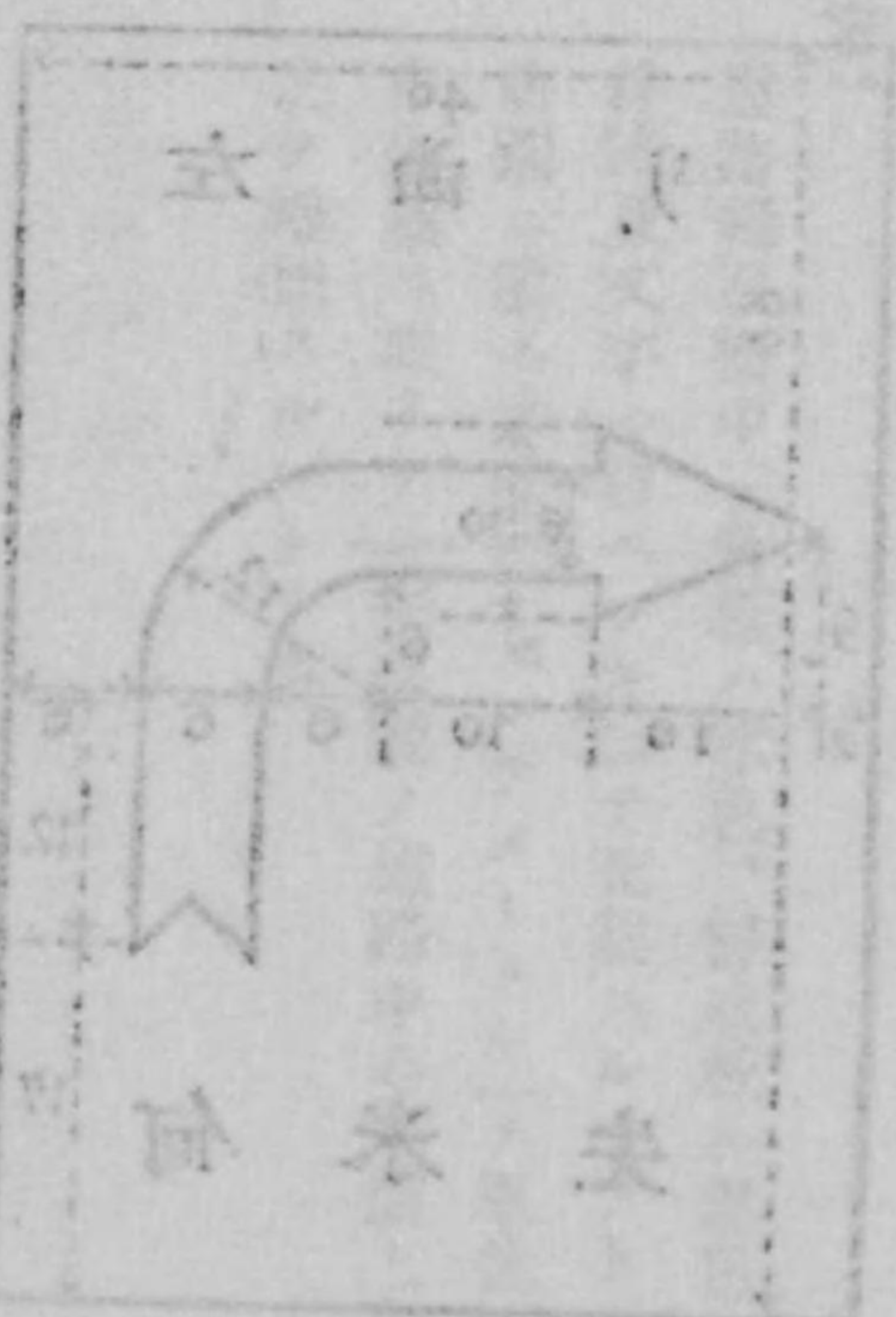
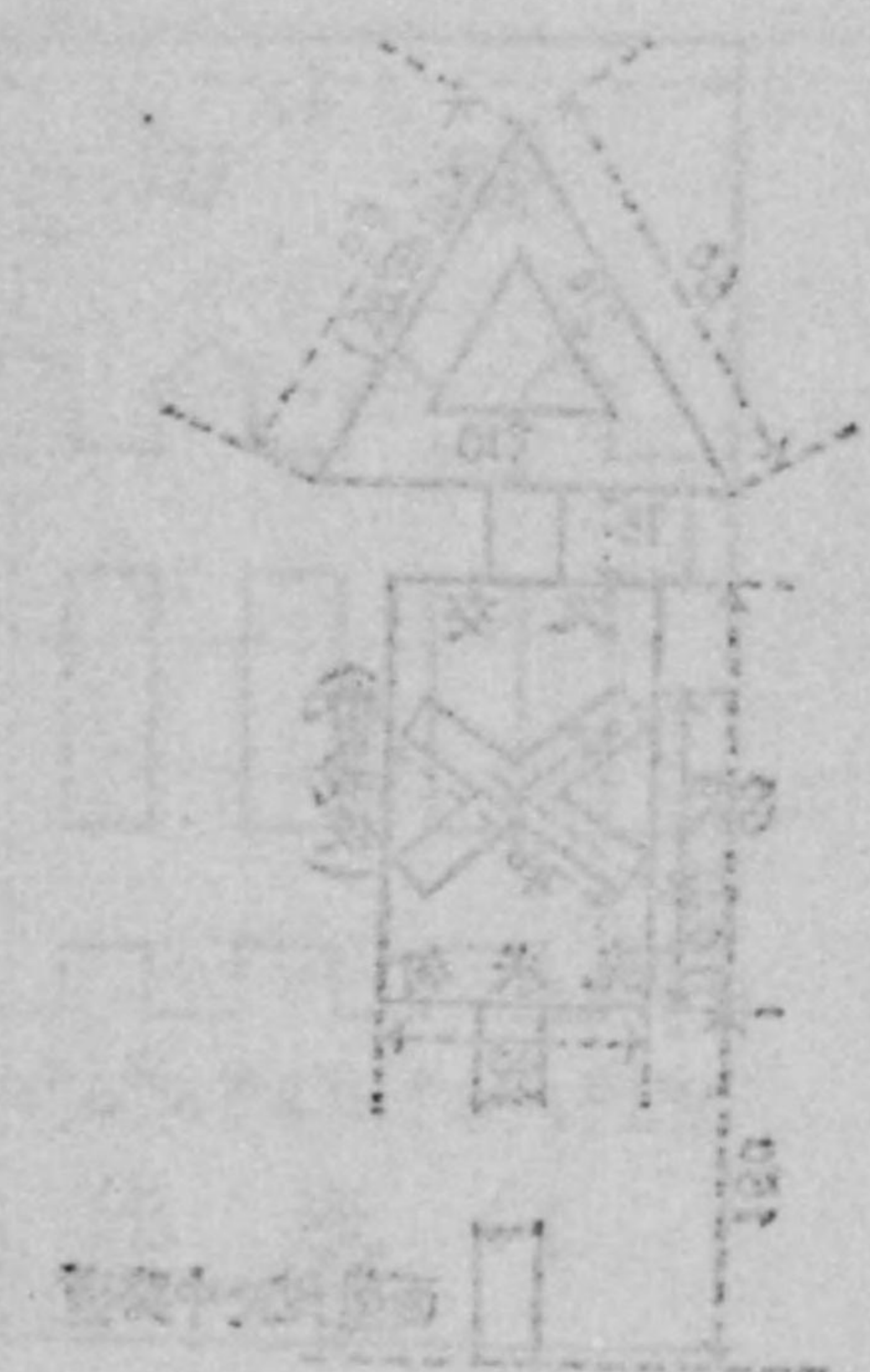
●道路警戒標及道路方向標

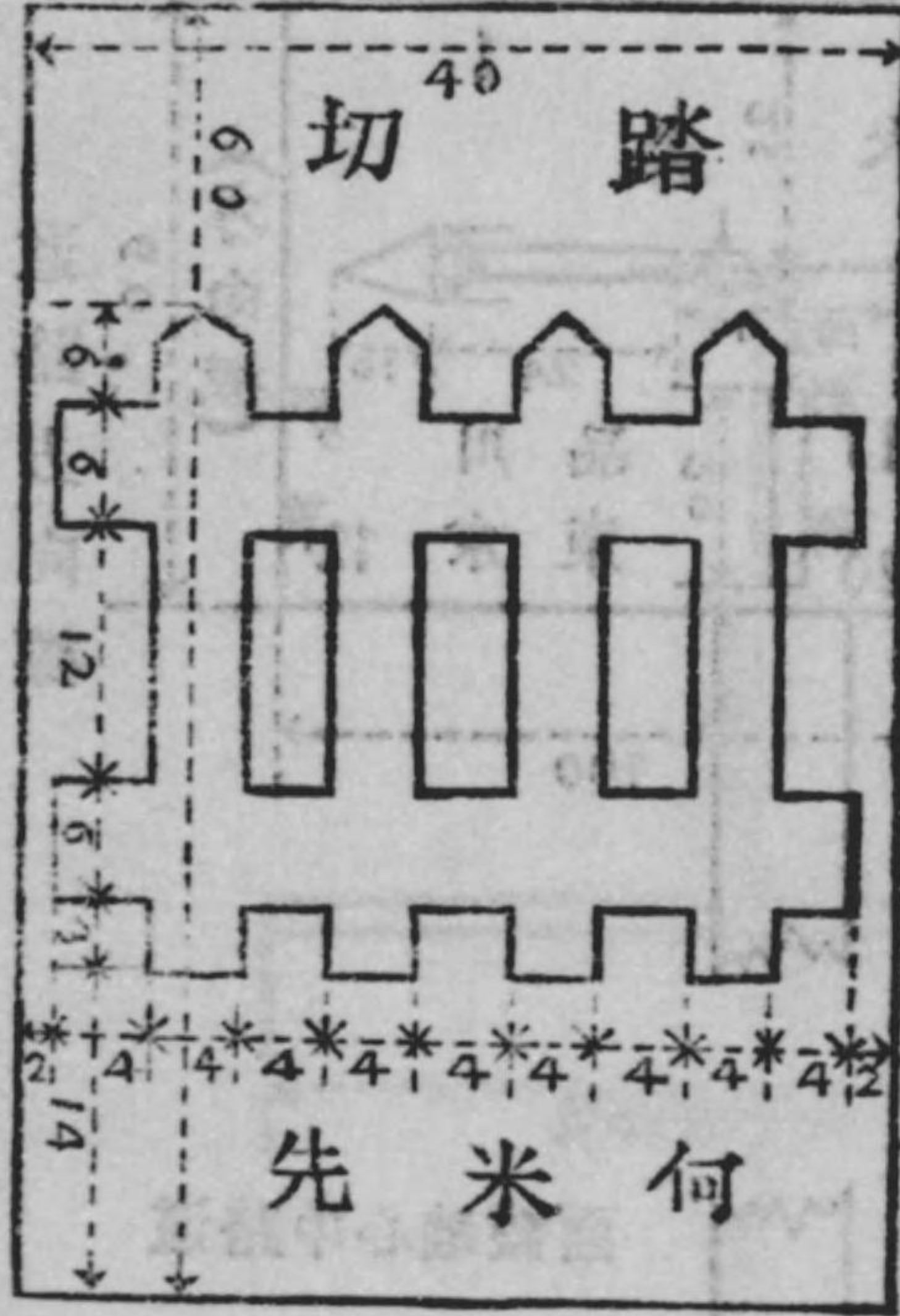
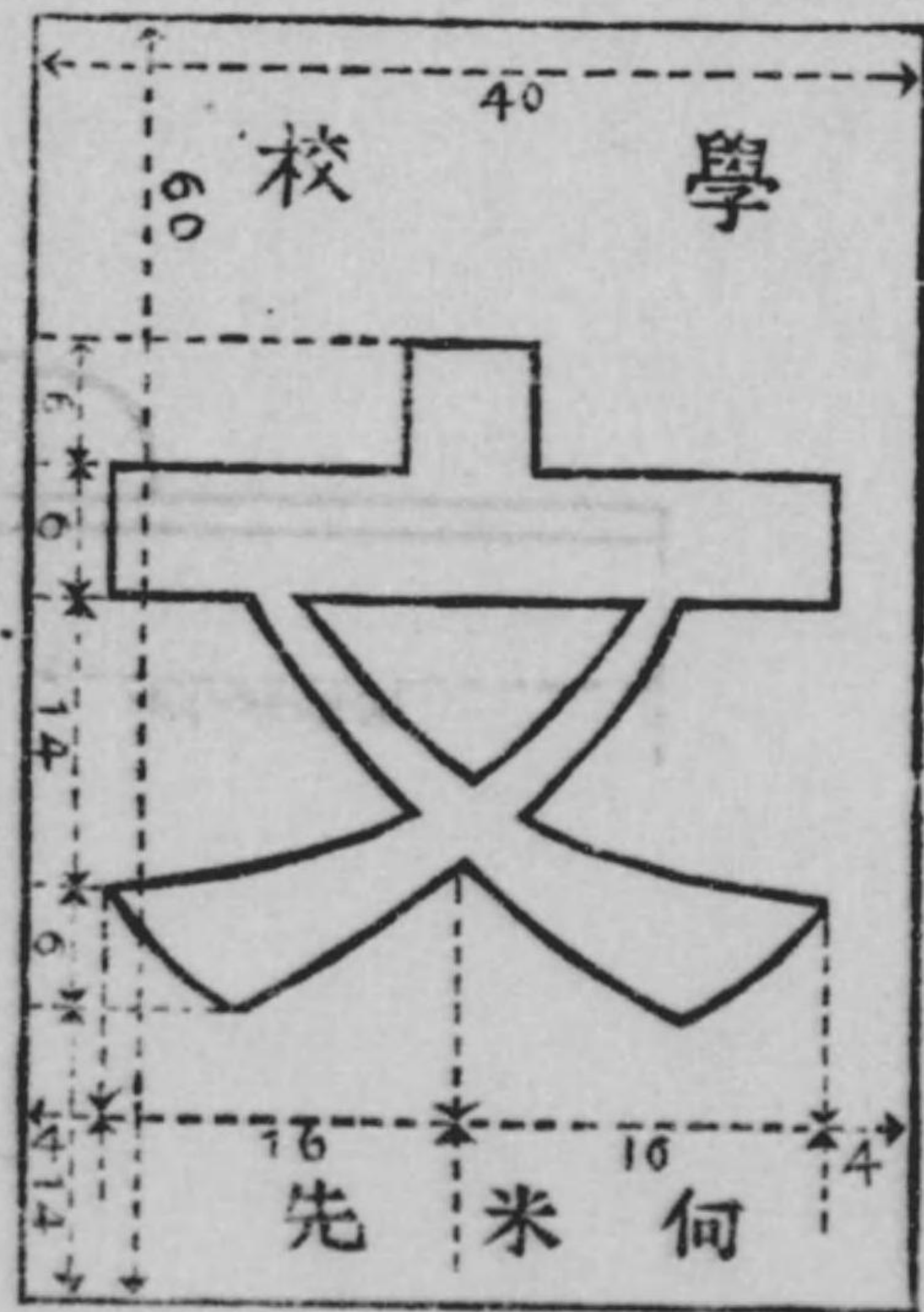
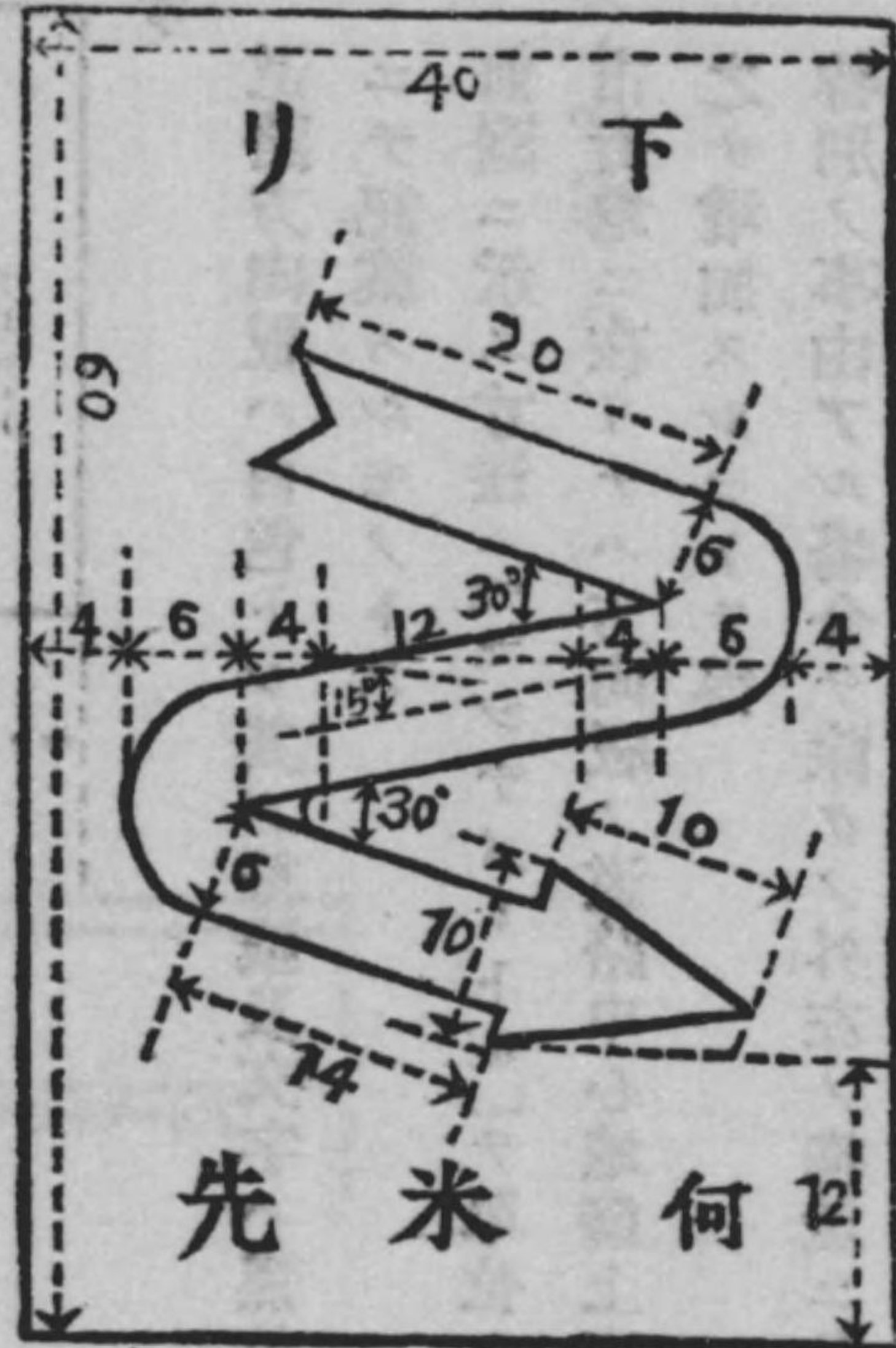
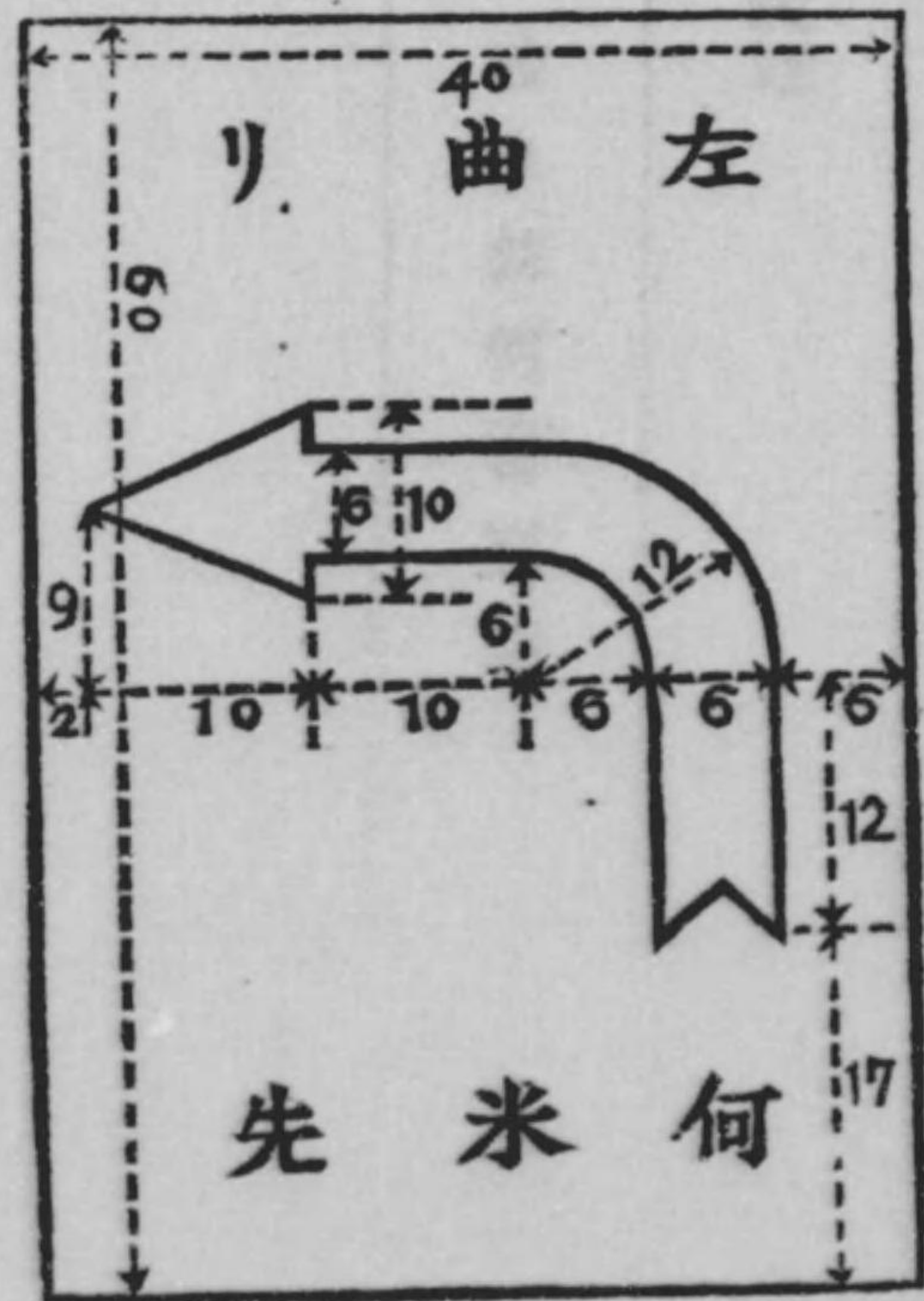
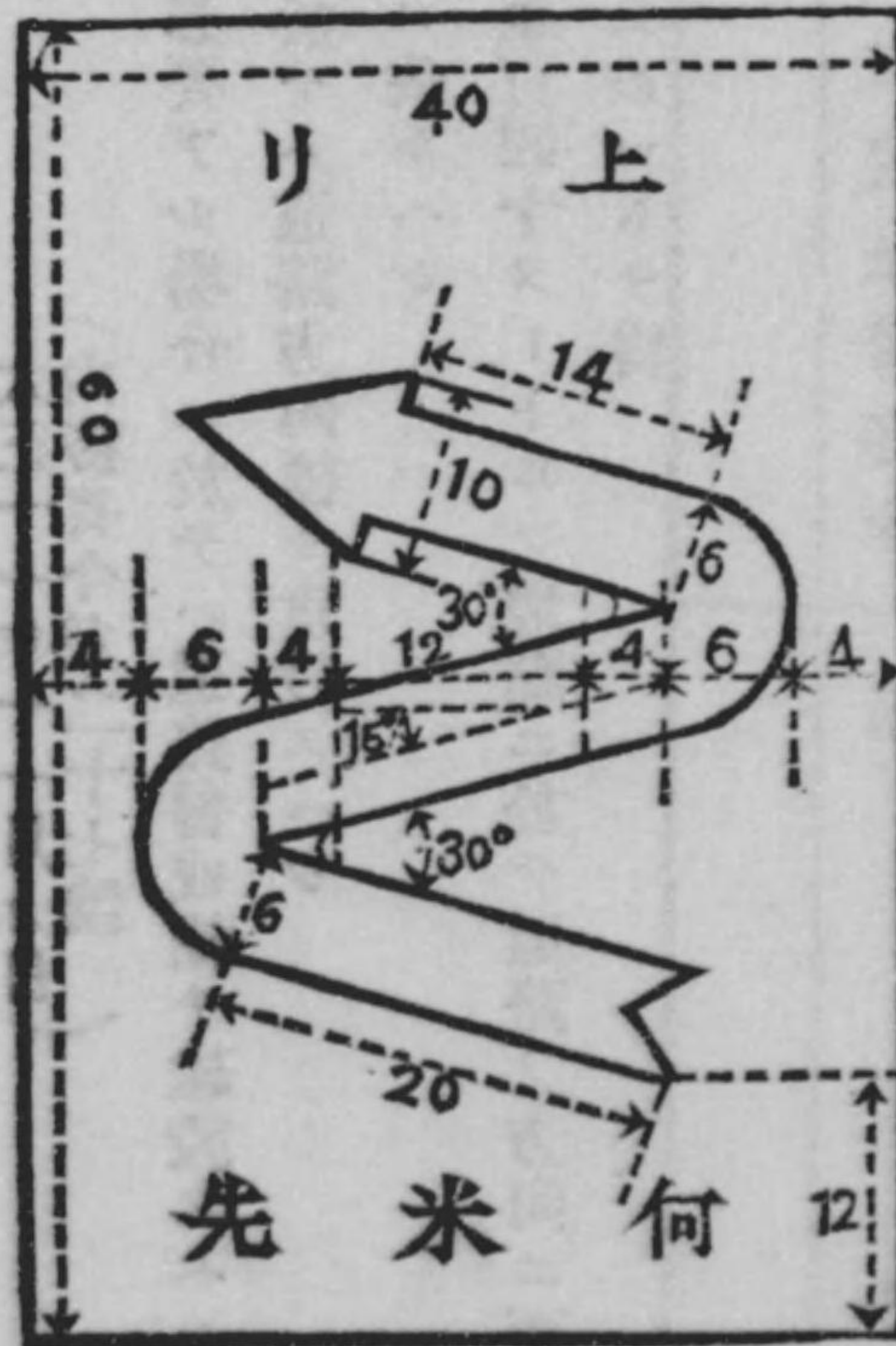
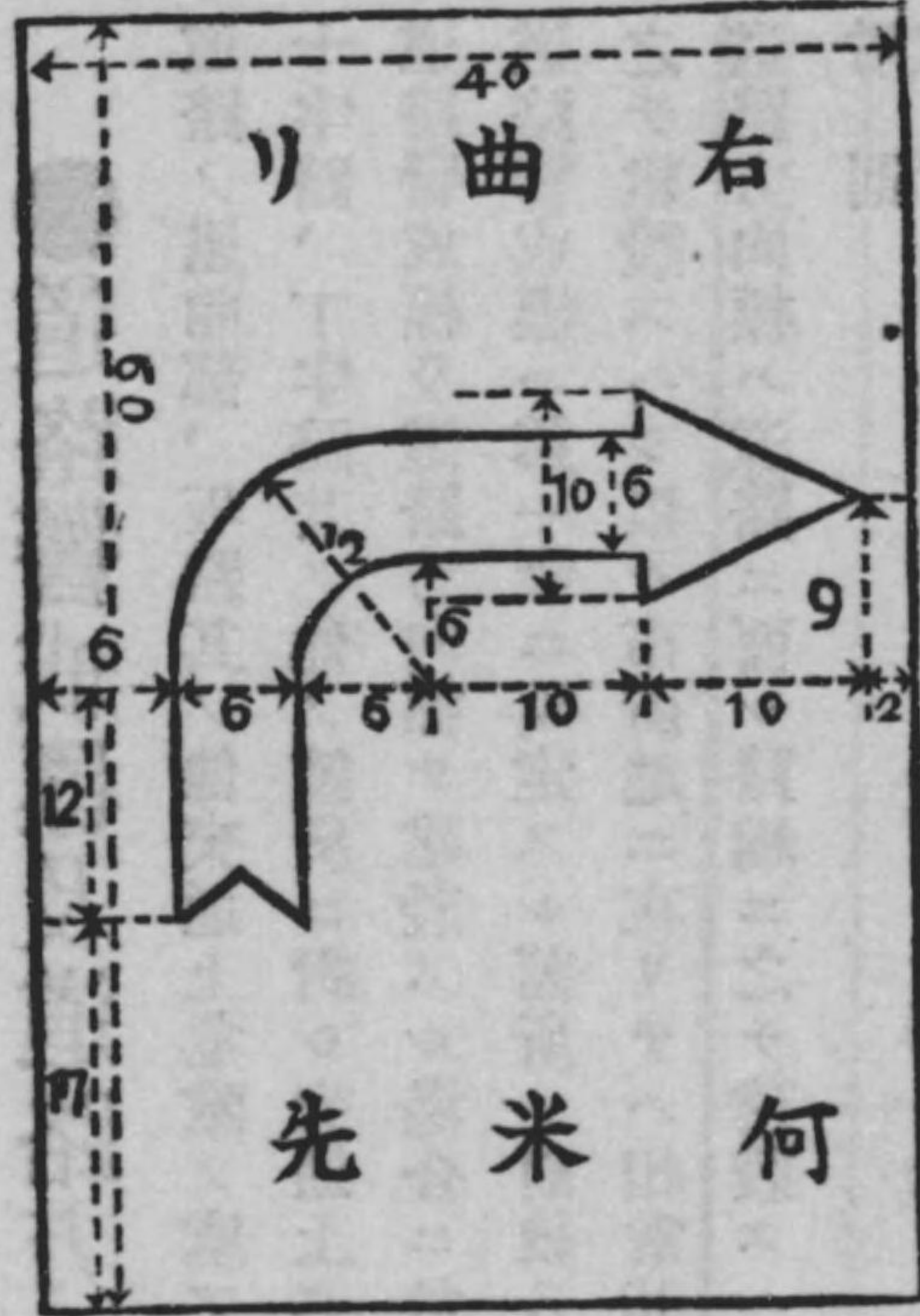
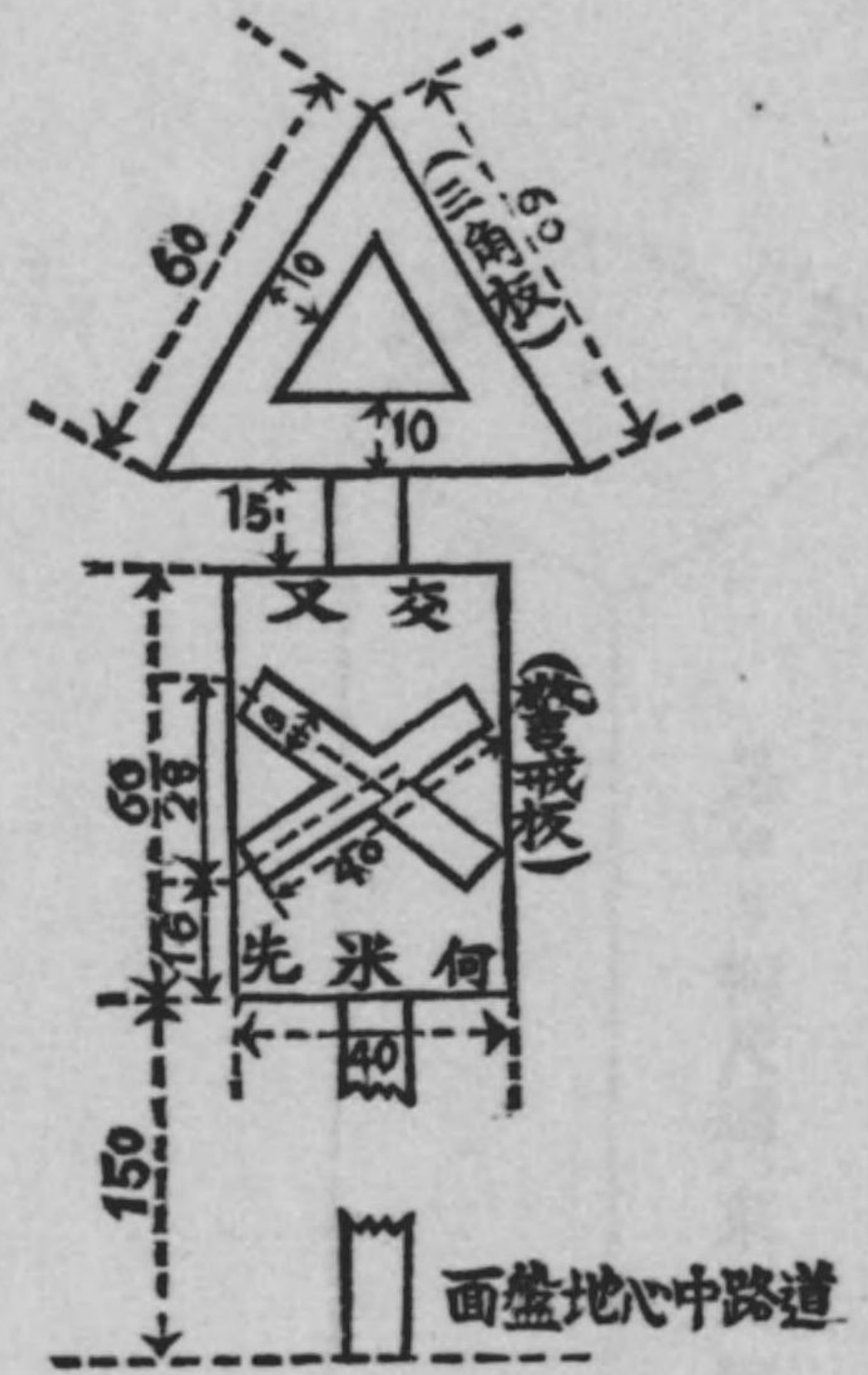
大正十一年十一月九日
內務省令第二十七號

- 第一條 道路ノ屈曲部、坂路其ノ他交通上危險ノ虞アル箇所ニ對シ必要アル場合ニ於テハ道路警戒標ヲ建設スヘシ
- 第二條 十字路、丁字路其ノ他ノ箇所ニ對シ交通上必要アル場合ニ於テハ道路方向標ヲ建設スヘシ
- 第三條 道路警戒標及道路方向標ヲ建設スル場合ニ於テハ別記樣式ニ依ルヘシ
- 第四條 道路警戒標ハ第一條ニ規定スル箇所ノ前後八十メートル乃至百四十メートルノ地點ニ於テ道路ノ方向ニ面シ左側路端ニ之ヲ建設スヘシ但シ市街地ニ在リテハ相當其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得
- 第五條 道路方向標ハ道路ニ面シ路端ニ之ヲ建設スヘシ

附則

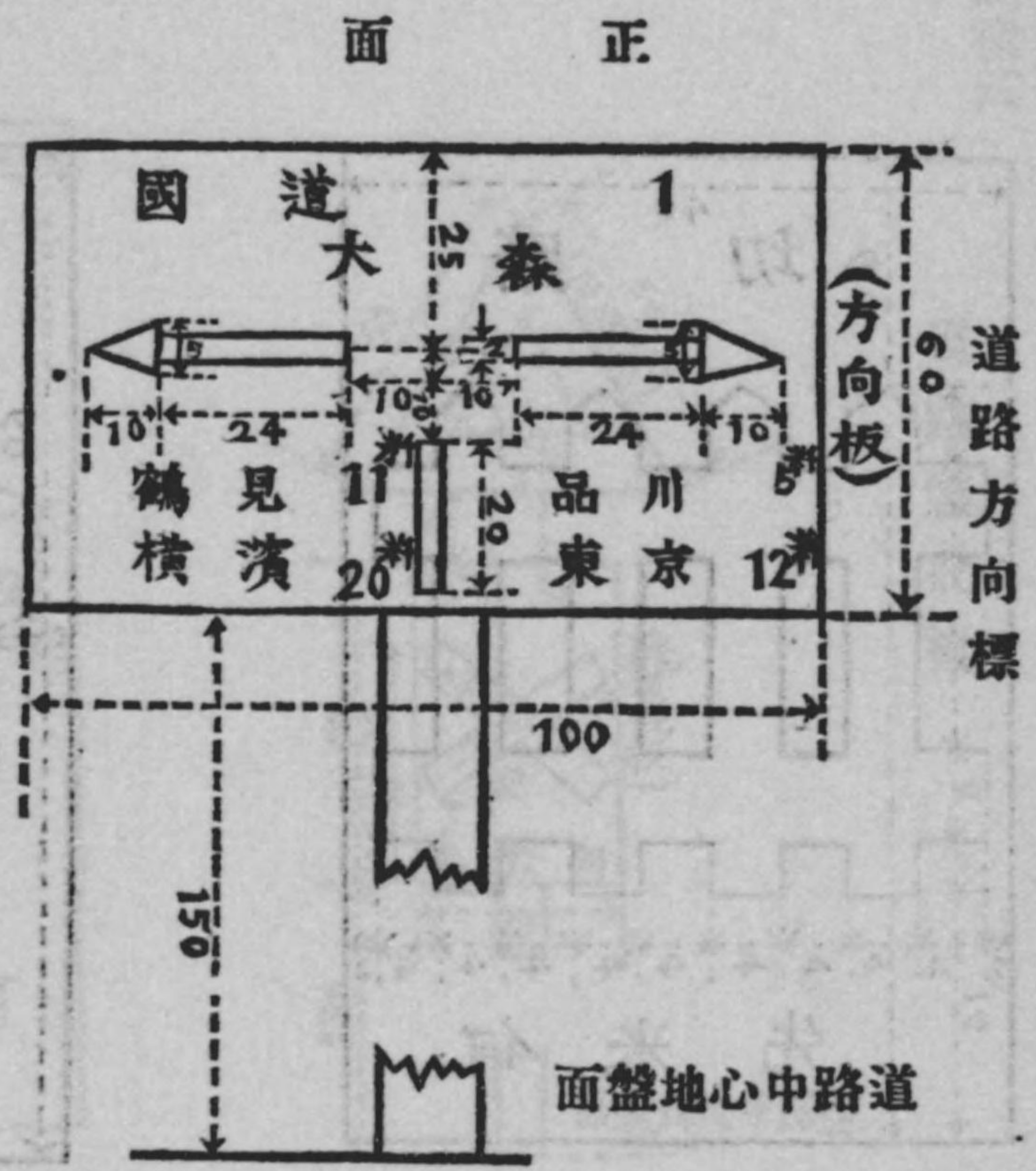
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



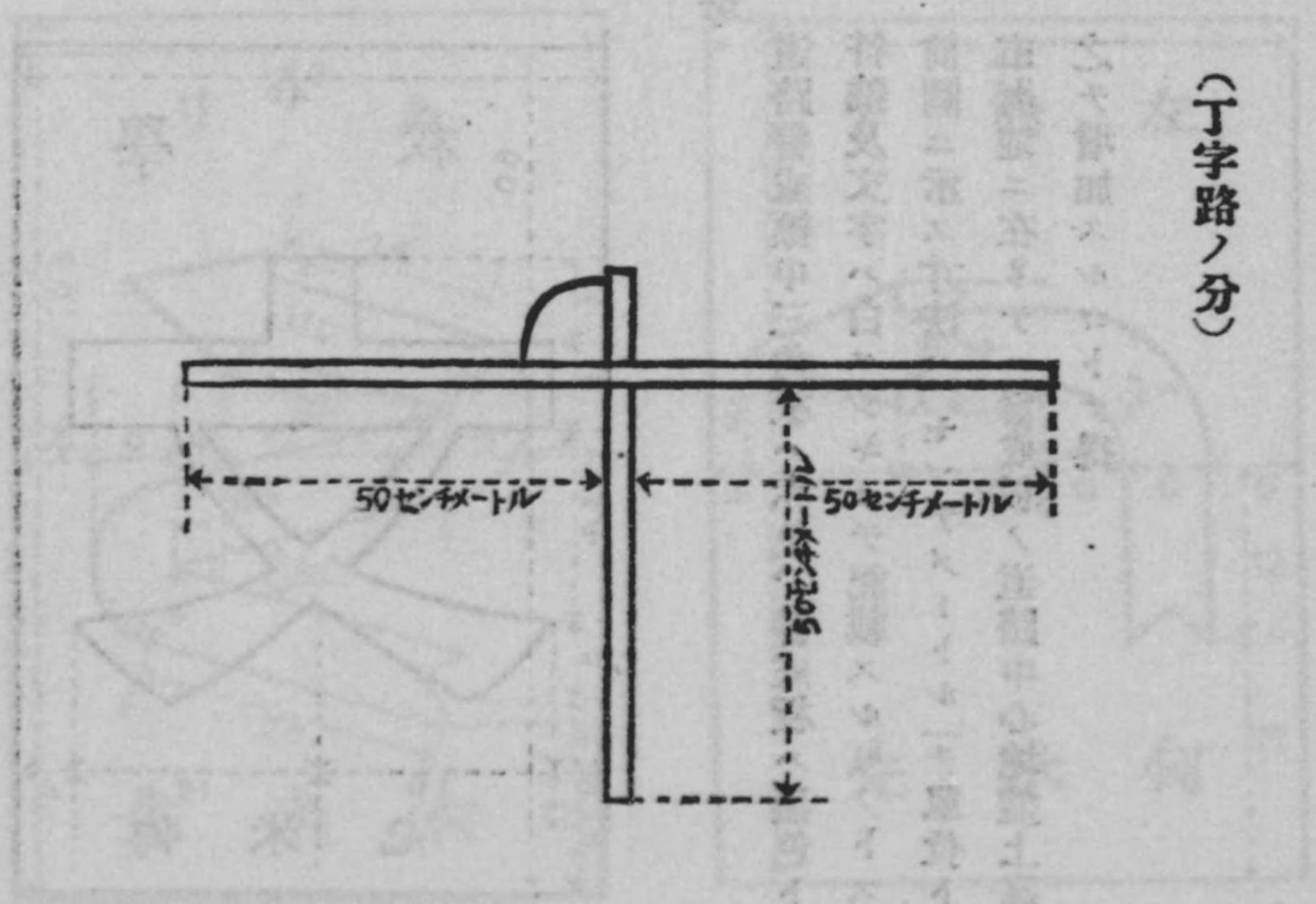


備考

- 一 道路警戒標中三角板ハ赤色、警戒板ハ黒色トシ其ノ符號及文字ハ白ペンキニテ記載スルモノトス
- 二 前圖ニ示ス寸法ハ「センチメートル」ヲ單位トス
- 三 市街地ニ在リテハ警戒板ノ道路中心地盤上高ハ相當之ヲ増加スルコトヲ得

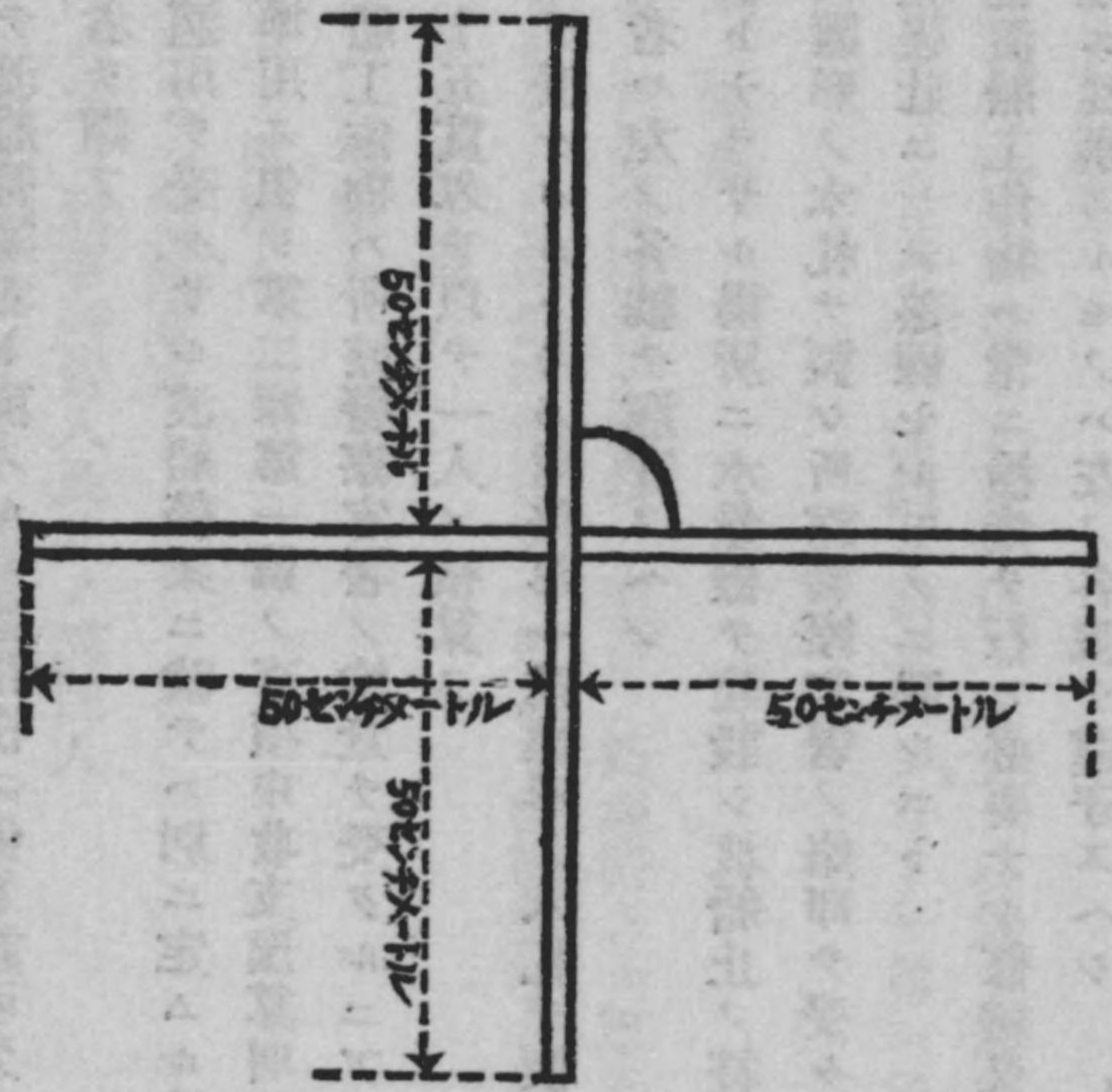


- 備考
- 一 道路方向板ハ白色トシ其ノ符號及文字ハ黑色ペンキニテ記載スルモノトス
 - 二 前圖ニ示ス寸法ハ「センチメートル」ヲ單位トス
 - 三 市街地ニ在リテハ方向板ノ道路中心地盤上高ハ相當之ヲ増加スルコトヲ得
 - 四 特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外左ノ構造ニ依ルモノトス



(丁字路ノ分)

(十字路ノ分)



● 渡船營業取締規則

(大正九年十二月二十二日)
岐阜縣令第六十五號

第一條 本則ニ於テ渡船營業者ト稱スルハ道路法ニ依リ許可又ハ承認ヲ受ケ渡船場ヲ設置シタルモノ及道路法ノ適用ヲ受ケサル渡船營業者ヲ謂フ

第二條 道路法ノ適用ヲ受ケサル渡船營業ニ就テハ別ニ定ムル渡船場設置ニ關スル取扱規則第二條乃至第六條、第八條及第九條ノ規定ヲ準用ス但シ第二條第一號ノ事項中收支豫算明細書及元資銷却年次表ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條 船體並渡船工作物ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス但シ乗船人員ハ一坪ニ付八人以内トシ貨物ハ十五貫匁ヲ以テ一人ニ積算ス

前項船體ノ検査ヲ受ケタルトキハ附條第一號雜形ノ木札ヲ製シ所轄警察官署ノ烙印ヲ受ケ船體内部ニ釘付ケシ置クヘシ

第四條 渡船營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
一 水利ノ障害トナラサル場所ニ水量標ヲ建設シ渡船止ノ符合ヲ明記シ置クコト

二 附條第二號雜形ノ木札ヲ製シ所轄警察官署ノ烙印ヲ受ケ乗客ノ見易キ場所ニ揭示シ置クコト

三 舟夫ハ身體強壯ニシテ熟練セルモノニ限ルコト

四 船體其ノ他渡船工作物ハ常ニ検査ヲ行ヒ必要ナル修繕又ハ改造ヲ怠ラサルコト

第五條 渡船營業ニ従事スルモノハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
一 保護人ナキ瘋癲人及亂醉者ハ乗船セシメサルコト

二 正當ノ事由ナクシテ出船ヲ拒ミ又ハ之ヲ遲延セサルコト

三 定員以外ニ乗船セシメサルコト

但シ十二歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人トシ四歳未滿ノ者ハ定員ニ算入セス

四 何等ノ名義ヲ以テスルモ定額外ノ金員ヲ請求セサルコト

五 船體其ノ他渡船工作物ハ常ニ検査ヲ行ヒ危險ト認メタルトキハ之カ使用ヲ停止スルコト

六 渡船發着ノ場所ハ特ニ通行ヲ便ナラシムルコト

七 渡船止ノ水量ニ達シタルトキ又ハ水勢、風勢等ニ依リ危險ト認メタルトキハ渡船ヲ停止シ其ノ旨速カニ所轄警察官署巡查駐在所又ハ派出所ヘ届出ヘシ之カ停止ヲ解キタルトキ亦同シ

第六條 渡船營業ニ従事スル舟夫一時他人ヲシテ自己ノ業務ヲ代理セシムル場合ニ於テ其ノ代理者ハ身體強壯ニシテ熟練セルモノナルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ代理者ノ爲シタル行爲ハ本人ノ行爲ト看做ス

第七條 左ニ掲クルモノニ付テハ渡船錢ヲ請求スルコトヲ得ス但シ他ニ法令ノ規定アルモノハ之ニ從フヘシ

一 軍隊

二 演習中ノ軍人軍屬

三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人

四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人

五 徵發ニ關スル令書配達人

六 徵發人夫及其ノ引率人

七 徵發物件及其ノ運搬人

八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏

九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人

十 水火災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫

十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童

第八條 道路法ノ適用ヲ受ケサル渡船營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトヲア

第三編 保安 第五章 交通、通信 第一款 道路、橋梁、渡津

七百五十七

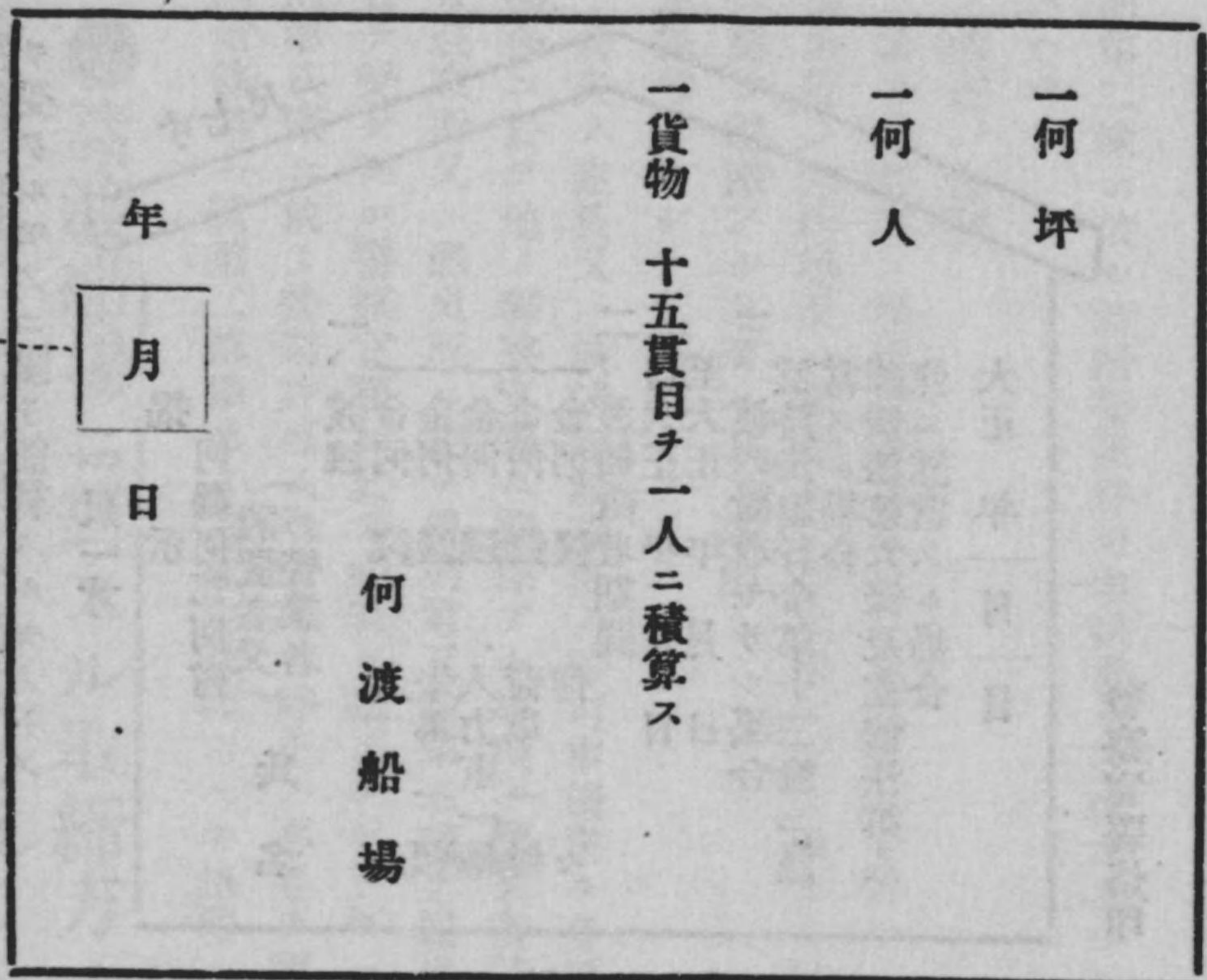
- ルヘシ
- 一 許可ヲ受ケタル後故ナク三箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキ
 - 二 故ナク三箇月引續キ休業シタルトキ
 - 三 本則ニ違反シタルトキ
 - 四 水利ノ障害又ハ水勢ノ變更等ニ依リ渡船營業ノ繼續ヲ不適當ト認メタルトキ
 - 五 其ノ他渡船營業者トシテ不適當ト認ムルニ至リタルトキ
- 第九條 警察官吏ハ隨時渡船場ニ臨檢シ必要ト認メタルトキハ渡船發着場所船體其ノ他渡船附屬工作物ノ改修又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 前項ノ外警察官吏ニ於テ必要ト認メタルトキハ一時從事者ノ變更増員又ハ渡船ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 本則第二條乃至第七條ニ違反シタル者又ハ第九條ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ第八條、第九條ノ命令ニ従ハサル者ハ科料ニ處ス
- 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ之ヲ幫助シタル者ハ前項ニ照シ罰スルコトアルヘシ

附則

- 第十一條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十二條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ願届書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第十三條 道路法ノ適用ヲ受ケサル渡船營業ニシテ既ニ許可ヲ受ケタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

○附錄第一號 雜形

四寸



六寸

警察官署烙印

○附錄第二號雛形

(揭示事項中二、三ノ事項ハ道路法ノ適用ヲ受クルモノニ限リ記載スルモノトス)

一、渡津	金何何何	人馬一	頭人
二、渡船	金何何何	人馬一	頭人
三、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十二、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十三、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十五、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十一年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十四年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十六年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十七年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十八年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
二十九年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
三十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
四十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
五十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
六十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十二、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十三、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十五、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
七十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
八十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十一、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十二年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十三年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十四、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十五年、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十六、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十七、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十八、渡路	金何何何	人馬一	頭人
九十九、渡路	金何何何	人馬一	頭人
一百、渡路	金何何何	人馬一	頭人

●渡船營業取締規則取扱手續

(大正九年十二月二十二日) 岐阜縣訓令甲第七十五號

警察署

第一條 規則第二條ニ依ル渡船營業許可申請書ヲ受理シタルトキハ願書記載事項ノ外左記事項ヲ調査シ意見ヲ附シ警察部長ニ進達スヘシ

- 一 願人ノ性行、經歷
- 二 願人ノ資力、信用ノ程度並營業遂行ノ見込アルヤ否ヤ
- 三 上下流最近ノ渡船場又ハ橋梁トノ距離並ニ之ニ及ボス影響
- 四 出願ニ對シ故障アルトキハ其ノ事由
- 五 其ノ他參考トナルヘキ事項

常備船數、舟夫ノ定員又ハ渡錢定額變更ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ
 前二項ノ場合ニ於テ他ノ警察官署ニ關係アル事項ハ豫メ當該警察官署ト協力ヲ途ケタル上進達スヘシ
 第二條 巡查駐在所又ハ派出所ニ於テ規則第五條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ速カニ所屬警察署ニ報告スヘシ
 前項ノ報告ヲ受ケタル警察官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ更ニ關係警察官署ニ通報スヘシ
 第三條 規則第八條ニ依リ營業許可ノ取消又ハ停止ノ必要ヲ認メタルトキハ事實ヲ詳具シ警察部長ニ報告スヘシ
 第四條 規則附錄第一號第二號雛形ノ木札ニ押捺スヘキ烙印ハ警察官署ノ印ヲ用フヘシ

●諸渡船場ニ對スル取締方ノ件

(明治六年五月七日) 大藏省布達第七十五號

諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ請取越立候儀ニ付警へ一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニ及候迄行旅ヲ留置候弊害有之趣相聞ヘ以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候様川場へ揭示可致候事

第三編 保安 第五章 交通、通信 第一款 道路、橋梁、渡津

第二款 鐵道、軌道、索道

●地方鐵道法

(大正八年四月十日
法律第五十二號)

附則

大正一〇年四月法律第三八號改正

第一條 本法ハ軌道條例ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス

道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ社債ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

鐵道ノ附屬物件ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ貸渡又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第九條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業者ヲ營ムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業自論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り第十二條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

ニ 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ從事スル鐵道係員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要スル土地

第十六條 道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ接斷シテ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ヲ造設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ共用又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事ニ著手セサルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ發着時刻及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ發着時刻及度數ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ハ發着員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ状態、會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事、運輸保線ノ状態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアル

トキハ監督官廳ハ其ノ改善又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備

使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

監督員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證券ヲ携帯スル者ヲ無賃

ニテ乗車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命

スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務

大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業者ハ運輸ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲

スコトヲ得ス

營業又ハ運輸ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任

ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得

ス

地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰地ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條 政府ハ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之

ヲ拒ムコトヲ得ス

地方鐵道ノ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ該線

路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 買收價格ハ最近ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケ

ル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額トス

前項ノ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末

ノ開業總建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノ

ヲ謂フ

營業收入及營業費ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 買收ノ日ニ於テ運輸開始後前條第一項ニ規定スル三年ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ前條第一項ノ金

額ヲ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價格トス

第三十三條 地方鐵道業者カ鐵道若ハ其ノ附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リ改築若ハ改

造ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ補修ニ要スル金額ハ之ヲ營業費ニ加算シ改築又ハ改造ニ要スル金額ハ之ヲ

買收價格ヨリ控除ス

第三十四條 買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價格ハ協定ニ依ル

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年內ニ償還スヘキ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十六條 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ並行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補修スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ依リテ算出シタル價額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル金額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

前條ノ規定ハ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受ケル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歳出豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ七ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル每營業年度ノ開業總建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ

第三十一條第三項ノ規定ハ前二項ノ益金、營業收入及營業費ニ、地方鐵道補助法第六條及第七條ノ規定ハ第一項ノ補償ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス

第三十八條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ科料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虛偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ科料ニ之ヲ準用ス

第四十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年八月勅令第三百七十四號ヲ以テ同年同月十五日ヨリ施行)

第四十二條 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス
 第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看做ス
 第四十四條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第四十五條 軌道又ハ專用鐵道チ地方鐵道ニ變更セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

●鐵道營業法 (抄錄)

(明治三十三年三月十六日) 法律第六十五號

附則 明治四三年四月法第五〇號、大正八年四月同第五四號改正

第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依ルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス
 附添人ナキ重病者ノ乘車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ釀スノ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乗込マシメタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レシメタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三章 旅客及公衆

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタルトキ

二 乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乘リタルトキ

三 乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐偽ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二 前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發發貨危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 列車運轉中乘車シタルトキ

二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ

三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條 制止ヲ肯セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ

二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入りタルトキ

第三十五條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシメタル者

- 第八十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第三十七條 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄ニ立入りタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第三十八條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス
- 第三十九條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス
- 第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乘車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス
- 第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公眾ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得
 - 一 有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ
 - 二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ
 - 四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス
- 第四十三條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罰金、拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ現行犯アリタルトキ被告人カ其ノ住所氏名ヲ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

●鐵道停車場取締規程

(明治三十九年三月三十一日) 岐阜縣訓令第十六號

第一章 取締巡查心得

- 第一條 鐵道停車場取締巡查ハ場内乘客待合乘車券發賣所、乘車券改所等ヲ巡邏シ諸般ノ取締ヲ爲スヘシ
- 第二條 汽車發着ノ際ハ停車場内公眾ノ見易キ場所ニ出張スヘシ
- 第三條 停車場内ニ於テ盜難其ノ他ノ被害アリタル場合ニ於テ若シ犯人汽車内ニ在リト思料シタルトキハ該汽車ニ乗込ミ又ハ便宜ノ方法ニ依リ次驛ノ出張巡查ニ通知スル等便宜ノ處置ヲ爲スヘシ
- 前項搜查ノ結果ハ直ニ所轄警察官署長ニ報告スヘシ

第二章 鐵道乘車勸合證

- 第四條 鐵道乘車勸合證ハ汽車沿道警察官署ニ配附シ汽車乗込出張巡查ニ交附セシム
- 第五條 汽車乗込出張巡查ハ鐵道乘車勸合證ニ名刺ヲ添ヘ驛長ニ交附シ乘車券ヲ受取ルヘシ
- 第六條 汽車沿道警察官署ハ鐵道乘車勸合證受拂簿(第一號樣式)ヲ調製シ其ノ收支ヲ記載スヘシ
- 第七條 汽車沿道警察官署ハ鐵道乘車勸合證ノ收支ヲ詳記(第二號樣式)シ翌月五日マテニ第四部長ニ報告スヘシ

○第一號樣式 (用紙半界紙)

鐵道勸合證受拂簿

年 月 日		番 號	受 拂 號	摘 要	受 取 人 氏 名 印
明治 年 月 日	自第 號	第 號	何々	第四部ヨリ受	巡查 氏 名 印
明治 年 月 日	至第 號				

○第二號様式 (用紙半野紙)

明治 年 月 日 鐵道乘車動合證受拂報告

何警察署

年	月	日	摘	要	受	拂	殘
明治	年	月	日	第四部ヨリ受	一〇		
明治	年	月	日	巡查何某ニ交付ス			一〇
							九

鐵道線路警邏ノ際危害アルトキ合圖ノ件

(明治三十八年三月十五日)
指示保第四號

鐵道線路警邏ノ際線路上危害アリト認メラルル場合ハ進行中ノ汽車ニ對シ鐵道信號規定第十五條及第十六條ノ合圖ヲ爲スヘシ

参照附記

- 第十五條 信號機ヲ設ケサル場所若ハ之ヲ用フル事能ハサル場合ニ於テ列車ニ向ヒ危害又ハ注意信號ヲ現示セントスルトキハ左ノ方式ニ依リ手合圖ヲ爲スヘシ
- 危害信號(列車停止スヘシ)
- 晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定則トシ己ムヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フ

夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 綠色旗ヲ現示スルヲ定則トシ己ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク舉ケ之ニ代フ

夜間 綠色燈

第十六條 何色ノ燈ニテモ又如何ナル物體ニテモ之ヲ急激ニ振り廻ハストキハ危害信號ヲ示スモノトス

鐵道事故報告ノ件

(明治三十三年十月)
鐵甲第一二二五號

鐵道局長ヨリ本縣知事へ通牒

鐵道事故御報告ノ儀ニ付テハ去ル三十年八月二十七日附當省大臣ヨリ訓令相成居候處今般遞信省令第二十九號鐵道事故届出ニ關スル規定施行相成候ニ就テハ貴管内私設鐵道地内ニ於テ同規定第二條ニ列舉セル事故發生ノ際ハ御調査ノ上巨細御報告相成度依命此段及通牒候也

追テ官設鐵道ニ於ケル事故ニ付テモ本文ニ準シ御報告相成度候也

鐵道事故報告方

(明治四十二年一月二十六日)
保第三四一號

附註 大正三年一〇月保第七一九一號改正

貴署部内軌道條例ニ依ル軌道ニ於テ左記ノ事故發生シタルトキハ調査ノ上即時詳細報告相成度候

- 追テ第一項ニ係ル事故ハ書面報告ノ外電信ヲ以テ即報相成度候
- 一 車輪ノ衝突顛覆等重大ナル事故ニシテ死傷者ヲ生シタルモノ
- 二 二十四時間以上運轉ヲ廢止セル事故

●鐵道地内立入者取締方

(明治三十三年十二月六日)
保安課長通牒

鐵道地内ニ立入ルモノニ付テハ從來鐵道作業局ニ於テ相當取締來候處今般鐵道營業法ノ實施ニ伴ヒ右違犯者ハ同局ニ於テ一々告發ノ手續ヲ可爲致害ニ候モ場所ニ依テハ自然鐵道地内ニ立入ルチ怪マサル風習モ有之旁取締行届兼候場合ハ鐵道沿線地ノ警察署ニ於テモ配慮相成度旨鐵道作業局長ヨリ照會有之候條精々御注意相成度依命此段及通牒候也

●軌道法

(大正十年四月十四日)
法律第七十六號

- 第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之ヲ適用ス
- 一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ敷設スヘシ
- 第三條 軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌道敷設ニ要スル道路ノ占用ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル道路ノ占用料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
- 第六條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路ニ關スル工事ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ
- 第七條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムヘシ
- 第五條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第八條 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第九條 道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ道路敷地ト爲スコトヲ得

第十條 軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第十一條 軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金並運輸時刻ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金又ハ運輸時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 軌道經營者ハ軌道間ノ全部及其ノ左右各二尺ヲ限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノニ付テハ第一項ノ維持及修繕ハ道路管理者之ヲ爲スヘシ

第十三條 主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、書類及圖面ヲ提出セシメ又ハ

監査員ヲ派遣シテ軌道ノ設備、事業ノ狀況並會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條 軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會計ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十六條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第十七條 軌道經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ軌道ノ附屬物件ノ讓渡又ハ貸渡ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 國又ハ公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 公共團體ニ於テ前項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 公共團體ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

第二十一條 地方鐵道法第三十一條乃至第三十五條ノ規定ハ國ニ於テ前條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

公共團體カ前條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額ハ協定ニ依ル協議調ハサルトキハ申請ニ因リ前項ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十條 公共團體カ第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル營ニ必要ナル貯藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

公共團體カ第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テハ軌道經營者ハ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ノ買收ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十一條 軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第二十二條 軌道會社ハ株金ノ全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十三條 軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 事業廢止ノ許可ヲ受ケサルトキ

四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

第二十五條 軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ回復スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十六條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十七條 地方鐵道法第七條第二項第三項、第八條第一項、第十條第二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條、第二十二條、第二十三條第三項、第二十五條、第二十七條、第三十條第二項及第三十六條ノ規定ハ軌道ニ之ヲ準用ス

但シ地方鐵道法第七條第三項及第八條第一項中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス

第二十七條 軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三 特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セララルコトヲ得ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責任ス

第二十八條 特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若ハ使用人チ十圓以上千圓以下ノ料料ニ處ス

一 前條ノ場合チ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可チ受クヘキ事項チ許可又ハ認可チ受クスシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行チ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製チ怠リ又ハ虚偽ノ届

出、報告若ハ記載チ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ料料ニ之チ準用ス

第三十條 前二條ノ規定ハ公共團體力軌道チ經營スル場合ニ之チ適用セス

第三十一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之チ準用ス

前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令チ以テ之チ定ム

第三十二條 國ニ於テ軌道チ敷設シテ運輸事業チ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議チ爲スヘシ其ノ工事施

行ニ付亦同シ

國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及第二十四條第一項ノ規定チ除クノ外本法チ適用セ

ス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議チ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定チ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令チ以テ之チ定ム(大正十二年十二月勅令第五百八號チ以テ同十三年一月一日ヨリ施行)

軌道條例ハ之チ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之

チ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力チ失フ

他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

●電氣鐵道取締規則

(明治三十九年十一月十九日 岐阜縣令第四號)

附則 明治四十二年七月縣令第二七號改正

第一章 總則

第一條 本則ハ軌道條例ニ依リ特許チ得テ一般運輸ノ業ニ供スル電氣鐵道ニ適用ス

第二條 本則ニ於ケル電車トハ客車及貨車チ併稱ス

第二章 營業者ニ對スル規定

第三條 電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ廳屬ノ検査ニ合格シ検査證印チ受ケタルモノニアラサレハ使用スルコトチ得ス

其ノ修繕チ加ヘタルトキ亦同シ

第四條 電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ毎年一回縣廳ノ指定シタル日時場所ニ於テ検査チ受クヘシ但シ縣廳ニ於テ必要

ト認ムルトキハ臨時検査チ行フコトアルヘシ

第五條 電車ニハ左ノ設備チ爲スヘシ

一 電車ニハ制動器、避難器、避雷器、音響器及車掌、運轉手間ニ通スル信號器チ裝置スヘシ

二 客車ニ在リテハ其ノ内外貨車ニ在リテハ其ノ外部ニ車輛ノ番號チ明記スヘシ

三 客車ニハ行先チ示ス爲其ノ前後ニ畫向ハ標札チ掲ケ夜間ハ標燈チ點スヘシ

四 電車内見易キ場所ニ検査證、乘客定員表、乘車賃表及車掌、運轉手ノ氏名チ記シタル標札チ揭示スヘシ

五 客車内ニハ本則第十八條第十九條ノ事項チ揭示シ置クヘシ

六 客車内ニハ電燈チ點シ且ツ豫備トシテ他ノ燈火チ點シ得ヘキ設備チ爲スヘシ

七 電車ニハ前後五町以上ノ距離ニ於テ認め得ヘキ光力チ有スル燈火ノ裝置チ爲スヘシ

第六條 營業者ハ營業開始前所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ左ノ各號ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ其ノ變更セムトスルトキ亦同シ

一 乗降ノ場所

二 車掌、運轉手、轉轍手、信號人ノ資格及採用方法並制服、服務ニ關スル規定

三 信號人配置ノ場所

四 乘客ノ定員、貨物ノ制限、乘客及貨物ノ運賃並運輸ニ關スル規定

五 發車及營業時間

第七條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

一 車掌、運轉手、轉轍手、信號人ヲ雇入又ハ解雇シタルトキ但シ雇入ノ場合ハ其ノ履歷書ヲ添付スヘシ

二 車掌、運轉手、轉轍手、信號人死亡又ハ逃走シタルトキ

三 電車ノ使用ヲ廢シタルトキ

第八條 營業者ハ車掌、運轉手、轉轍手、信號人ニ其ノ證標ヲ交付シ常ニ携帯セシムヘシ

第九條 電車線路ノ樞要ナル場所ニハ信號標又ハ信號人ヲ置キ且ツ線路ニハ轉轍手及線路番人ヲ附シ常ニ看守セシムヘシ

第十條 電車運轉上ヨリ生シタル危害事故ハ直ニ其ノ顛末ヲ發生地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第三章 就業者ニ對スル規定

第十一條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人ハ就業中制服ヲ着用スヘシ

第十二條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人ハ自己ノ職務ヲ他人ニ委託スヘカラス

第十三條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人ハ乘客並公眾ニ對シ懇切ニ接遇シ侮慢ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第十四條 車掌、運轉手ハ線路又ハ車輛ニ故障アルカ又ハ交通上危險ノ虞アリト認ムルトキハ運轉ヲ停止スヘシ警察官吏ニ於テ擧手其ノ方法ヲ以テ停車ノ意ヲ示シタルトキ亦同シ

第十五條 車掌ハ特ニ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 定員外ニ客ヲ乗セ又ハ客定額外ノ運賃ヲ請求セサルコト

二 運轉手臺ニ客又ハ貨物ヲ乗載セサルコト

三 運轉全ク止メタル後ニアラサレハ客ヲ乗降セシメサルコト

四 客ノ乗降全ク終リタル後ニアラサレハ行車信號ヲ爲ササルコト

五 客ノ乗降場所ハ丁寧ニ告知スルコト

六 老幼婦女乗降ノトキハ厚ク保護スルコト

七 降車シタル客ニ對シテハ電車前進ノ方向ヲ横斷通過セシメサルコト

八 第十八條ニ掲クル者ヲ乗車セシメサルコト

九 第十九條ニ掲クル行爲ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止シ尙ホ肯セサルトキハ其ノ乗車ヲ拒絕スルコト

第十六條 運轉手ハ特ニ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 制限ノ速度ヲ超過シテ進行セサルコト

二 道路ノ交叉部、街角、橋梁、坂路又ハ往來雜沓ノ場所ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ特ニ徐行スルコト

三 消防機械又ハ郵便車通行ノトキハ其ノ通行ニ障礙ヲ與ヘサル様徐行シ又ハ運轉ヲ停止スルコト軍隊學生々徒ノ隊伍及葬儀其ノ他ノ行列通過スルトキ亦同シ

四 行車ノ前途約三十間以内ニ牛馬諸車若ハ歩行者アルトキハ音響器ヲ鳴ラシ警告スルコト

五 同一ノ方向ニ進行スル車輛ハ各車間六十間以上ノ距離ヲ保ツコト

六 軌道交叉ノ場所ヲ通過セムトスルトキハ交叉部ヨリ約十間前ニ停止シ無難信號ヲ認メタル後進行スルコト

七 乗降場以外ノ場所ニ於テ猥リニ停車セサルコト

八 停車シタル場合ニ於テハ車掌ヨリ行車信號アルニアラサレハ運轉ヲ始メサルコト

九 信號標又ハ信號人設置ノ場所ハ無難信號ヲ認メタル後ニアラサレハ進行セサルコト

十 運轉中ハ運轉手臺ヲ離レサルコト

十一 運轉停止中運轉手臺ヲ離レムトスルトキハ制動器ノ把手ヲ外シ攜帶スルコト

第十七條 轉轍手及信號人ハ就職中濫リニ受持場所ヲ離ルヘカラス

第四章 乘客及公眾ニ對スル規定

第十八條 左ニ掲ケル者ハ乘車スヘカラス

一 酩酊シタル者

二 同乗者ニ嫌厭ノ感ヲ起サシムヘキ疾病アル者

三 同乗者ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲ爲シ居ル者

四 同乗者ノ迷惑トナルヘキ物件ヲ攜帶シタル者

第十九條 乘客ハ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス

一 肢體ヲ車外ニ出シ又ハ電氣裝電ヲ爲シタル機械器具ニ手ヲ觸ルルコト

二 降車シタルトキハ電車前進ノ方向ヲ橫斷通過セサルコト

三 放歌喧噪其ノ他同乗者ノ妨害トナルヘキコト

第二十條 軌道車輛其ノ他ノ工作物ヲ毀損シ又ハ電線ニ物ヲ觸レシムヘカラス

第二十一條 何等ノ方法ヲ問ハス電車ノ進行ヲ妨害スヘカラス

第二十二條 牛車馬車及重量ノ荷車ハ軌道外ニ相當ノ餘地ヲ存スルトキハ軌道ヲ通行スヘカラス

第二十三條 電車運轉ノ爲テニ設ケタル專用軌道數ハ已ムテ得サルニアラサレハ踏切ノ外立入ルヘカラス

第五章 罰則

第二十四條 本則第一條第二條ヲ除ク外各條ニ違反シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第二十五條 電氣鐵道事業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ科料ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス

但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル科料ノ刑ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

●軌道假設願取扱方ニ關スル件

(大正五年十一月十四日 保第一〇六六四號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

明治三十三年三月三十日指示第七號ニ據リ稟申ノ上許否相成居候軌道假設願ニシテ其郡道及里道及是等兼用ノ堤塘ニ關スルモノニ對シテハ從來其管理者ノ使用許可書ヲ添付セシムルコトニ取扱ヒ居候處爾今右願書ハ其管理者ヲ經由セシメ管理
者ニ於テ異議ナキモノト認メラレ候モノハ別ニ許可書ノ添付ヲ要セサルコトニ相成候條右ニ依リ取扱ハルヘク此旨及通牒
候也

(參照)

軌道假設願取扱方ノ件

(明治三十三年三月三十日 指示第七號)

軌道條例ニ依ラサル軌道ニシテ土砂運搬等ノ爲メ一時假設セントスルモノハ街路取締規則第七條第一項ニ依リ處置セラ
ルヘキハ勿論ナリト雖モ其國道縣道ノ堤塘ヲ包含スニ關スルモノハ調査上必要有之爾今願書ニ意見ヲ付シ申請指示ヲ待
テ許否セラルヘシ

街路取締規則

(明治二十一年四月 縣令第三九號)

第七條 左ノ諸件ニ係ルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ請クヘシ但圖面ヲ要スル場合ハ差出サシムルコトアルヘ
シ

一 工事ノ爲メニ一時道路ニ竹木土石類ヲ置き若ハ板圍繩張足代等ヲ設ケ其他道路ヲ使用セムトスルモノ

第三編 保安 第五章 交通、通信 第二款 鐵道、軌道、索道

● 索道取締規則

(大正三年三月四日 岐阜縣令第十三號)

- 第一條 本則ニ於テ索道ト稱スルハ貨物運搬ノ爲索條ヲ架空スル工作物ヲ謂フ
- 第二條 索道ヲ架設セムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ關係事項ノ外之ヲ具スルコトヲ要セス
 - 一 本籍、住所、氏名、年齢、法人ニ在リテハ其ノ組織、名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、氏名、年齢
 - 二 起業ノ目的
 - 三 架設區域
 - 四 原動力ノ種類及設計
 - 五 貨物積載量
 - 六 工事設計書
 - 七 平面圖、断面圖、構造圖
 - 八 工費概算書
 - 九 營業上ノ收支概算書
 - 十 索道使用時間
 - 十一 運賃額
 - 十二 貨物積卸所ノ位置、構造及圖面
 - 十三 資本金ノ總額及其ノ出資ノ方法
 - 十四 索道建設ニ關係アル地主ノ承諾書又ハ敷地使用許可書寫
 - 十五 工事落成期日

營業ノ目的ニ非サル場合ノ願書ニハ前項第九號第十一號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス

第三條 本則ニ依リ當廳ニ提出スヘキ願屆書ハ索道架設地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第四條 當廳又ハ所轄警察官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ工事中検査ヲ行フコトアルヘシ

工事ヲ竣リタル索道ハ當廳ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス之ヲ改築、變更若ハ修繕シタル場合亦同シ

索道ヲ相續シタル者ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第五條 索道ノ所有權ヲ讓渡シタル者ハ讓渡契約書ノ謄本ヲ添ヘ當事者連署ノ上當廳ニ届出ヘシ

前項ニ依リ讓受ケタル索道ヲ使用セムトスル者ハ第二條第一號第二號第五號第九號第十號第十一號第十三號ノ事項ヲ具シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

索道ヲ借受ク使用セムトスル者ハ前項事項ノ外貸借契約書ノ謄本ヲ添ヘ當事者連署ノ上當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ營業ノ目的ニ非サルモノハ第二條第九號第十一號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ許可ヲ取消シ若ハ使用ヲ停止シ又ハ修繕ヲ命シ其ノ他必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 許可ノ日ヨリ一年以内ニ工事ニ著手セサルトキ
 - 二 落成期日迄ニ竣功セサルトキ
 - 三 休業一年以上ニ及ヒタルトキ
 - 四 改築、變更又ハ修繕ヲ怠リタルトキ
 - 五 危険豫防、公安保持又ハ公益上必要ト認メタルトキ
- 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ
- 一 事業者ノ本籍住所氏名ヲ變更シタルトキ、法人ニ在リテハ其ノ組織、名稱、事務所所在地、代表者ノ住所氏名ニ異動ヲ生シ若ハ代表者ヲ變更シタルトキ

- 二 會社成立シタルトキ
- 三 事業ヲ開始シ又ハ之ヲ廢止シタルトキ但シ讓渡又ハ貸渡ニ依リ廢止シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 事業ヲ休止シ又ハ復業シタルトキ
- 五 索道ヲ相續シタルトキ
- 六 事業者死亡シタルトキ
- 七 禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 八 準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

前項第一號乃至第四號ノ場合ハ事業者ヨリ第五號ノ場合ハ相續人ヨリ第六號ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ第七號ノ場合ハ後见人ヨリ第八號ノ場合ハ保佐人ノ同意ヲ得テ本人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 索道ノ設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建造物、架空電線路、道路、橋梁、鐵道、軌道、社寺、公園等ヲ横斷シ又ハ之ニ接近シテ架設スヘカラサルコト
- 二 貨物又ハ運搬器ノ最低部ハ地表上十五尺以上ノ距離ヲ保有スヘキコト
- 三 索條ノ勾配ハ三十度ヲ超ユヘカラサルコト

前項ノ規定ハ工事上止ムヲ得サル場合ニ於テ危險豫防上特別ノ施設ヲ爲スモノニ限リ斟酌許可スルコトアルヘシ

第九條 事業者ハ毎月二回以上索道其ノ他附屬機械器具ヲ検査シ破損其ノ他ノ故障ヲ發見シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フヘシ

前項検査ノ狀況ハ毎年一月四月七月十月ノ各十日迄二前三箇月分ノ狀況ヲ索道架設地所轄警察官署ニ届出ヘシ
當廳又ハ所轄警察官署ハ臨時索道其ノ他附屬機械器具ノ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十條 索道ノ使用ニ付テハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 運搬ノ速度ハ特ニ當廳ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外一分間五百尺ヲ超過スヘカラサルコト

二 爆發質物品ハ特ニ當廳ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外運搬スヘカラサルコト

三 貨物ハ脫漏飛散又ハ破損漏洩等ノ虞ナキ様緊纏スヘキコト

四 許可ノ重量ヲ超過スヘカラサルコト

五 索道使用時間外ニ運搬スヘカラサルコト

但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ索道建設地所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滞ナク所轄警察官署又ハ巡查駐在所巡查派出所ニ届出ヘシ

- 一 索條ノ切斷シタルトキ

二 索道其ノ他ノ工作物ニ大破ヲ生シ又ハ運搬不能ニ至リタルトキ

三 落貨其ノ他ノ事故發生シタルトキ

第十二條 當廳ニ於テ必要ト認メタルトキハ信號人ノ配置又ハ通信器ノ設備ヲ命シ若ハ特別ノ命令ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 營業ヲ目的トスル事業者ハ毎決算期ニ於テ決算報告書ヲ作成シ決算期後一月内ニ當廳ニ届出ヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ一年毎ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 本則ハ渡川其ノ他交通ノ用ニ供スル索道ニ之ヲ準用ス

第十五條 第二條第一項第四條第二項第五條第一項乃至第三項第七條第九條第一項第二項第十條第十一條第十三條ニ違反シタル者第四條第一項第九條第三項ノ検査ヲ拒ミ第六條ノ停止、修繕、設備ノ命令及第十二條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シテ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第十六條 事業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ之ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 事業者ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ従業者ニシテ業務上本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサル場合ト雖其ノ責ニ任ス

第十八條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ従業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テハ科料以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

附則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前ノ架設ニ係ル索道ニシテ現ニ之ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ本則第二條第一項第一號乃至第十三號ノ事項ヲ當廳ニ届出ヘシ但シ營業ノ目的ニ非サルモノハ第九號第十一號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス

● 索道取締規則取扱手續

(大正三年三月四日 指示第二號)

第一條 警察官署ニ於テ索道取締規則(以下單ニ規則ト謂フ)第二條第五條第二項第三項ノ願書ヲ受理シタルトキハ規定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ付シ當廳ニ進達スヘシ但シ他ノ所轄ニ渉ル場合ハ調査報告方關係警察官署ニ移牒スヘシ

第二條 規則第四條第九條ノ検査又ハ第六條第十二條ニ依ル處分又ハ命令ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ詳具シ當廳ニ報告スヘシ但シ警察官署長ノ職權ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條 規則第四條第二項第五條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ當廳ニ進達スヘシ

第四條 規則第十一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ當廳ニ報告スヘシ

第五條 警察官署ニ於テハ索道ニ關スル必要事項ヲ臺帳ニ記入整理スヘシ

第六條 規則施行前ノ設置ニ係ル索道ニシテ現ニ使用スルモノハ詳細調査ヲ遂ケ規定ノ期間内ニ手續ヲ爲サシムヘシ

第三款 人力車、馬車

● 人力車營業取締規則

(明治二十八年一月二十三日 岐阜縣令第二號)

沿道 明治二十九年七月縣令第二一號、三〇年五月第三九號、三六年一月第八號、四一年六月第二七號、四二年七月第四一號、四四年九月第二九號、四五年七月第三一號改正

第一章 總則

第一條 人力車營業トハ自ラ人力車ヲ輓キ又ハ輓子ヲシテ輓カシムルヲ云フ

營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ例ニ據ル

第二條 營業ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

自ラ車ヲ輓キ若クハ輓子ヲシテ輓カシメントスルトキハ前項ニ據リ届出各鑑札ヲ受クヘシ

第三條 車體屬其服裝携帶品及ヒ鑑札ハ毎年四月十月兩度所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

新造改造又ハ讓受ヲ爲シタルトキハ其都度前項ニ據リ検査ヲ受クヘシ

本條ノ検査ヲ受ケタルトキハ検査證ニ其證印ヲ受クヘシ

第四條 警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時前條ノ検査ヲナスコトアルヘシ

第五條 検査ヲ受ケタル車體ト雖モ破損若クハ不潔ニ至リタルトキハ其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 轉居改氏名又ハ鑑札及検査證ヲ遺失毀損シ若クハ文字不明ニ至リタルトキハ所轄警察官署ニ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但所轄ヲ異ニスル地ニ轉居シタルトキハ其警察官署ニ書換ヲ請ヒ前住地警察官署ニ届出ヘシ

第七條 營業者又ハ輓子ニシテ廢業失踪逃亡死亡シタルトキハ鑑札若クハ検査證ヲ返納スヘシ

第八條 検査證及賃表ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第九條 營業者ハ營業上便宜ノ爲メ總代人ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ其族籍住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二章 車體ノ構造及屬具

第十條 車體ハ堅牢清潔ニシテ其構造及屬具ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 一人乗ハ横巾内法二尺未満二人乗ハ二尺以上トス
- 二 車體ハ黒漆塗中張ハ革、天鵝絨、羅絲等他物ヲ汚損セサルモノヲ用ユヘシ
- 三 車體ニハ泥除チ設クヘシ
- 四 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣、前掛及清潔ナル布團膝掛チ備フヘシ
- 五 車體ノ背面左下部ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ所轄警察官署所在地ノ地名及番號ヲ判明ニ朱記スヘシ

第三章 輓子ノ資格及服裝携帶品

第十一條 輓子ハ年齢十六年以上ニシテ身體強壯ナル者ニ限ル

第十二條 輓子ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 被服ハ清潔ナル法被筒袖股引
- 二 冠物ハ帽子、饅頭笠、菅笠
- 三 雨具ハ桐油製ゴム引製羅紗製
- 四 雨具又ハ法被筒袖ノ襟ニハ右ニ所轄警察官署所在地ノ地名左ニ輓子鑑札番號ヲ縫著若クハ染込ムヘシ

第十三條 輓子就業中ハ前條ノ地名番號ヲ記シタル標帶ヲ携帶スヘシ

第四章 輓子就業制限

第十四條 輓子就業中ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 鑑札ヲ携帶スヘシ
- 二 乘客ノ承諾ヲ得スシテ途中他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

三 乘客ノ指定セサル場所ニ輓入ルヘカラス

四 駐車場ノ外濫リニ人力車ヲ置クヘカラス但乘客用便ノ爲メ通行妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

五 同業者ノ稼業ニ故障スヘカラス

六 行人ニ對シテ強テ乗車ヲ勸メ若シクハ侮慢ノ言行チナスヘカラス

七 削除

八 乘客降車ノ際ハ遺留品ナキ様注意スヘシ

九 頬冠リ鉢巻其他不體裁ノ形装チナスヘカラス

十 削除

十一 傳染病者ヲ乗載シタルトキハ警察官吏ニ届出消毒法ヲ行フニアラサレハ其車體ヲ使用スヘカラス

十二 夜半燈火ナクシテ行車スヘカラス

第五章 賃錢及乗載制限

第十五條 賃錢ハ一定ノ額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

但渡船賃ハ別ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス賃錢以外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第十七條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス

但十年未満ハ定員外トス

第六章 駐車場

第十八條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場

一般營業人ノ駐車スル處トス

一 私設駐車場

一人又ハ數人共同設立シテ其專用ニ屬スル處トス

第十九條 公設駐車場ハ所轄警察官署ニ於テ撰定標示ス

私設駐車場ヲ設ケムトスルモノハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第二十條 私設駐車場ニハ(私設人力車駐車場)ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第二十一條 賃錢表ハ駐車場暗易キ場所ニ掲示スヘシ

第二十二條 認可額以上ノ賃錢ヲ請求シテ出車ヲ拒ミ正當ノ事由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第二十三條 駐車場ハ常に清潔ニスヘシ

第二十三條ノ二 本則ニ依リ處罰ヲ受ケ猶ホ改悛ノ情ナキトキハ營業ヲ停止シ若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第七章 罰則

第二十四條 本則第二條第三條第六條第八條第十二條乃至第十七條第十九條第二項第二十條乃至第二十三條ニ違反シタル

者及第五條第二十三條ノ二ノ命令ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違犯行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第八章 附則

第二十五條 本則ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

從來ノ營業者ハ本則ノ規定ニ從ヒ繼續營業スルニトテ得ス

●人力車營業取締規則執行順序

(明治二十八年一月 指示第五號)

明治三十九年一月指示第二六號、四二年八月第八號、四三年五月第六號、四四年九月第三號、大正二年九月第一

〇號、八年八月第六號、一四年三月第一號改正

(本順序第一項第二項第三項ハ乗合馬車取締規則執行ニモ之ヲ準用ス)

第一項 規則第二條ノ認可證ハ白半紙三ツ切ヲ用ユヘシ

其書例左ノ如シ

明治 年 月 日 人力車營業願ノ件認可ス又ハ認可シ難シ

年 月 日

岐阜縣警部 氏

名 印

何警察(分)署長

國郡市町村族籍

名

第二項 規則第二條腕子ノ鑑札ハ左式ニ依ル但シ營業者自ラ車ヲ轆クトキハ(何誰腕子)ヲ自腕ニ改ムヘシ

表

○

人力車營業

何誰腕子

族籍住所

氏

年 名 齡

幅一寸六分
木品適宜

裏

○

第 何 第

號 何 號

日 月 年 治明

印 烙 署

堅曲尺二寸三分

第三項 規則第三條檢査證ハ左式ニ依リ營業者ヨリ差出サシメ檢印スヘキモノトス

第三編 保安 第五章 交通、通信 第三款 人力車、馬車

第何號
何人乗人力車
明治年月日 検査
何年月日 檢
署烙印

竪三寸八分
幅二寸七分
木品適宜

第四項 前第二項ノ木札ハ警察署ノ經費定額金ヲ以テ調製スヘシ但不用ニ屬シタル鑑札検査證ハ刪リテ再用スルコトヲ得

第五項 規則第四條ノ臨時検査ヲ行ヒタル場合ハ検査ノ年月日ヲ記入スルニ及ハス

第六項 規則第五條車體使用ノ停止中ハ検査證ヲ引上ケ置クヘシ

第七項 規則第十條第五項ノ地名ハ假令岐阜第何號江吉瓦第何號ト記スルカ如シ

第八項 規則第十一條年齡身體ハ必シモ市町村長及醫師ノ證明ヲ要セス警察官ノ認定ニ任ス但疑ハシキモノハ證明セシムルヲ得

第九項 規則第十三條ノ標燈ニハ其兩側面ニ地名及番號ヲ別記セシムヘシ

細長提燈又ハ左式ノ人力車ロソク用燈以外ノ標燈ヲ使用セシムトスルトキハ豫メ警務長ニ稟議シ指揮ヲ受クヘシ



第十項 規則第十九條公設駐車場ハ官有ノ道路中適宜ノ地ヲ選定シ(公設人力車駐車場)ト記シタル長サ地上四尺五寸方三寸ノ標木又ハ三寸巾ノ木板標示ヲ設クヘシ

第十一項 規則第十五條ニ依リ賃錢額ノ認可ヲ申出テタルトキハ關係各署ト協議ノ上左ノ標準ニ據リ額ヲ定メテ認可スヘシ(大ニ四、三、指示第一號改正)

一 市街地一里金六拾錢以内

一 市街地外一里金六拾錢以内

一 但山間僻地ニアリテハ六拾五錢以内ニ増加スルコトヲ得

一 一日雇金參圓以内

一 半日雇金貳圓以内

一 客待一時間三拾錢以内

一 二人乗ハ一人乗ノ五割以内ヲ増ス

一 二人輓ハ一人輓ノ八割以内ヲ増ス

一 歸路ハ往路ノ六割以内

一 但往復客ヲ異ニスル場合ハ本號ニ據ルヲ要セス

一 降雪ノ爲メ道路泥濘ノ場合ハ三割以内ヲ増ス

一 山間僻地トシテ増額ヲ認ムル路線ハ豫メ所轄警察官署長ニ於テ調査決定シ置クコト

一 特別ノ事由ニ依リ此標準額以上ノ賃錢ヲ認可セムトスル場合ハ豫メ警察部長ニ稟議指揮ヲ受ケ處理スヘシ

一 營業者ニ對シ賃錢ヲ認可シタル時ハ其ノ都度賃錢額及認可年月日ヲ報告スヘシ

● 縣稅檢查吏員及市書記人力車々體檢査ノ際立會 ニ付期日通知方ノ件

(明治四十年七月二十六日)
警第八六一三號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

人力車定期檢査ノ際〔郡〕市書記及縣稅檢査吏員ヲ檢査場ヘ派遣立會セシメ縣稅逋稅者ノ調査ヲ爲致度旨內務部長ヨリ照會有之候條爾今定期檢査期日確定ノ上ハ其旨所轄郡市長ヘ通知相成度此段及通牒候也

● 人力車先曳キ犬取締方ノ件

(大正五年三月十日)
指示保第一號

警察部長ヨリ各警察官署長宛

人力車ニ對スル犬ノ先キ曳キ取締方ニ付テハ爾ヘ左記各項ニ依リ處理セラルヘシ

左記

- 一 坂路又ハ長途ニ於テ營業スル者ニ對シテハ犬ノ先キ曳テ默許スヘキコト
- 二 停車場及其ノ附近ニ於テハ犬ヲ使用セシメサルコト
但シ一時通過スルハ此限ニ在ラス
- 三 岐阜市 加納町、長良村ノ連擔地域ニ於テハ犬ヲ使用セシメサルコト
但シ一時通過(一時通過トハ他地方ヨリ來レル營業者カ一時以上ノ各地ヲ通過シ又ハ以上各地ノ營業者カ他ノ地方ニ旅行スル爲メ一時往復スル場合ヲ云フ)スルハ此限ニ在ラス
- 四 犬ノ先キ曳テ附シタル營業者ニ對シテハ喧噪、不潔、危險、交通妨害、動物虐待等ニ涉ルカ如キコト無之樣特ニ留意セシムヘキコト

● 乘合馬車營業取締規則

(明治三十六年七月十五日)
岐阜縣令第二十四號

明治三十六年一月縣令第三三號、四〇年一月第三四號、四二年七月第四六號、大正五年一月第一號、同年四月

第一五號改正

第一章 通則

- 第一條 乘合馬車營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ駐車場又ハ通行スヘキ線路ヲ增設、變更セムトスルトキ亦同シ
但駐車場ニシテ借地ニ係ルモノハ地主ノ承諾書(官有地ニ係ルモノハ其ノ借地許可書ノ寫)ヲ添付スヘシ
 - 一 出願者ノ族籍、住所、氏名、生年月日
 - 二 通行スヘキ線路
 - 三 駐車場ノ圖面並仕樣書
 - 四 會社ニ係ルモノハ其ノ社則
- 前項ノ出願者ニシテ未成年ナルトキハ法定代理人連署シ法人ナルトキハ其ノ代表者ヨリ出願スヘシ
- 第二條 營業者ハ車馬使用前左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ檢査證ノ下付ヲ請ヒ且馬蹄ニ烙印ヲ受クヘシ車體ヲ改造シ又ハ車體、馬匹ノ買受、讓受ヲ爲シタルトキ亦同シ
 - 一 車體及馬匹ノ數並馬匹ノ年齡
 - 二 車體ノ構造及乘客ノ定員
 - 第三條 通行線路ハ幅二間以上ノ道路ニ限ルモノトス
 - 第四條 營業者ニ於テ車掌、馭車、馬丁ヲ雇入レタルトキハ族籍、住所、氏名、生年月日ヲ記シ履歷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ免許證ノ下付ヲ請ヒ之ヲ本人ニ渡シ置クヘシ營業者自ラ車掌、馭車、馬丁ノ業ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第五條 検査證ハ車體ノ見易キ所ニ掲クヘシ

第六條 車馬ハ常ニ清潔ニシ破損又ハ汚染シタルモノハ使用スヘカラス

第七條 車體又ハ其附属品及車掌、馭車、馬丁ノ免許證並服装ハ毎年二月八月ノ二回馬匹ハ隔月一回所轄警察官署ノ指定シタル日時、場所ニ於テ検査ヲ受クヘシ其ノ合格セサルモノハ指定ノ日時内ニ検査證又ハ免許證ヲ納付シ若ハ馬匹ニ消印ヲ受クヘシ但合格セサル馬匹ハ滿六ヶ月ヲ経過スルニアラサレハ再ヒ検査ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ外必要ト認ムルトキハ臨時検査ヲ行フコトアルヘシ

第八條 検査ヲ受ケタル車馬ト雖トモ其車體、附属品ノ破損若ハ不潔ニ至リ或ハ馬匹ニ疾病、衰弱其ノ他ノ異狀ヲ認ムルトキハ所轄警察官署ハ期日ヲ定メ改造、修繕、掃除若ハ治療、休養ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ更ニ検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ免許證、検査證ノ書換、再渡若ハ馬匹ノ烙印ヲ請フヘシ

一 免許證又ハ検査證面ニ異動ヲ生シタルトキ

二 免許證又ハ検査證ヲ遺失、毀損シ又ハ其ノ文字不分明ニナリタルトキ

三 馬蹄ノ烙印消滅シタルトキ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出免許證又ハ検査證ヲ返納スヘシ但死亡ニ係ルトキハ其ノ相續者ヨリ届出ツヘシ

一 廢業シ死亡シ又ハ車馬ノ使用ヲ廢止シタルトキ

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

三 所轄警察官署管外ニ轉居シタルトキ

四 車掌、馭車、馬丁ヲ解雇シ又ハ車掌、馭者、馬丁ノ失踪若ハ死亡シタルトキ

第十一條 營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ開業セス若ハ一ヶ月以上休業シタルトキ

二 營業上不適當ナリト認ムルトキ

第十二條 無免許證者ニ免許證ヲ貸與シ若ハ検査證ヲ轉用スヘカラス

第十三條 馬車運轉中ハ馭車馬丁ヲ附スヘシ但シ營業線路ノ狀況ニ依リ一頭立ニ限り營業所所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ馬丁ヲ附セサルコトヲ得

馬丁ヲ附セサル場合ニ於テ街角橋上坂路險崖墜道其ノ他雜沓狹隘又ハ危險ノ虞アル場所ヲ通過スルトキハ馭者馭者臺ヲ下リ口綱ヲ執リ相當合圖ヲ爲シツツ徐行スヘシ

第二章 車體及附属品並馬匹

第十四條 車體附属品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ノ泥除及駐車器ヲ備ヘ其ノ齒幅ハ二寸以上トシ左右兩車ノ間隔ハ四尺五寸以内トス

二 車體ハ無地漆塗又ハ「ワニス」塗ニシテ木質堅牢ノモノヲ用フヘシ

三 車ノ心棒ハ鐵製エシテ堅牢ナルモノヲ用フヘシ

四 彈條ハ鋼鐵ノ重層セルモノヲ用フヘシ

五 屋根ハ客室ト同一ノ大サトシ重量ヲ輕減セシムル様適當ナル裝置ヲ爲スヘシ

六 客室ノ兩側ニハ開閉自在ナル落シ込ミ硝子戸ヲ設クヘシ

七 乘客ノ昇降口ハ開閉自在ナル開戸ニシテ上部ニ硝子窓ヲ設クヘシ

八 日覆ハ白綿布類ヲ用フヘシ

九 車室内ノ腰掛ハ籐編製ノ類ニシテ高サ一尺二寸以上一尺四寸以下トシ屋根ノ高サハ腰掛ノ表面ヨリ三尺五寸以上トシ客座ハ幅一尺以上ニシテ一人ノ座席一尺二寸以上トス

十 客座ノ寄掛リ又ハ布團ハ彈力ヲ有スル絨毛又ハ綿類ヲ入レタル天鵞絨若ハ革製ノモノヲ用フヘシ

- 十一 取車臺ハ偏寄セサル構造トシ中央ニ設クヘシ
- 十二 發條、力革、手綱及其ノ他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ
- 十三 轡ハ普通製且頭絡ハ革製ニシテ腰際ノ附著シタルモノヲ用フヘシ
- 十四 鞍ニハ三個ノ腹帶留ト桐棒ヲ附著スヘキニ條ノ強靱ナル革ヲ備ヘ且腹帶ハ麻絲編ニシテ兩端三條トナリ留金アルモノヲ備フヘシ
- 十五 車室ノ前後ニ車室ノ内外ヲ照スニ足ルヘキ燈ヲ備ヘ且行先地名ヲ記シタル札ヲ掲クヘシ
- 十六 車臺後方ニ車體番號(左側面ニ方)ヲ漆ニテ明記スヘシ
- 前項ノ制限ハ體裁ヲ損セス且危險ナシト認メタルモノニ限り斟酌スルコトヲ得
- 第十五條 馬匹ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノニ限ル
 - 一 年齡三才以下身長四尺六寸以下ノモノ
 - 二 兩眼若ハ扁眼明チ失フモノ
 - 三 跛行又ハ肢勢ニ著シキ異狀アルモノ
 - 四 傳染病若ハ皮膚病アルモノ
 - 五 頸環傷其ノ他外傷アルモノ
 - 六 營養不良又ハ衰弱ノモノ
 - 七 狂猛惡癖アルモノ
 - 八 去勢チナササル馬匹
- 第三章 車掌、取車、馬丁ノ資格及服裝
- 第十六條 車掌、取車、馬丁就業中ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ但破損又ハ汚染シタルモノハ著用スルコトヲ得ス
 - 一 帽ハ大黒帽子若ハ饅頭笠

- 二 著衣ハ羅紗又ハ紺小倉筒袖、「ヅボン」但雨雪ノ際ハ外套又ハ護謨引桐油製ノ雨具ヲ用ヒ夏季ハ帽ニ白ノ日覆ヲ用ヒ若ハ麥明葉並白服ヲ用フルコト得
- 三 馬丁ハ前各號ノ外紺法被、股引及雨雪、泥濘並炎暑ノ時ハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ
- 第十七條 車掌、取車及馬丁ノ資格ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 取者ハ滿二十年以上ニシテ身體強壯取術ニ熟達シタル者
 - 二 車掌、馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者
- 第十八條 前條ノ資格ニ適合スル者ト雖トモ就業上不適當ト認ムルトキハ免許セサルコトアルヘシ
- 第四章 車掌、取車、馬丁就業
- 第十九條 車掌、取車、馬丁就業中ハ免許證(取者ハ馬匹ノ検査證)ヲ携帯シ警察官吏若ハ乘客ノ請求アルトキ之ヲ示スヘシ
- 第二十條 車掌、取車、馬丁ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ改悛ノ狀ナシト認ムルトキハ免許ヲ取消シ又ハ免許セサルコトアルヘシ
 - 一 強盜、強姦又ハ幼者略取、誘拐ノ罪ヲ犯シタル者
 - 二 醉狂又ハ粗暴ノ癖アル者
 - 三 遺失物、埋藏物ニ關スル罪ヲ犯シタル者
 - 四 監視中ノ者
- 第二十一條 取者就業中ハ本則第十三條第二項第二十九條ノ場合ヲ除ク外取者臺ヲ離ルヘカラス但シ止ムヲ得サル事故アルトキハ車掌又ハ馬丁チシテ車馬ヲ管守セシメ若ハ奔逸又ハ妨害トナラサル様繋留其ノ他適當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ與フヘシ
- 第二十三條 乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十四條 取者運ニ客ヲ乗セ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘカラス

第二十五條 強ヒテ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十六條 馬四チ殘虐ニ使役スヘカラス

第二十七條 駐車場外ニ濫リニ車馬ヲ置キ又ハ客待ヲ爲スヘカラス

第二十八條 雜沓又ハ狹隘ナル場所及街角、橋上ヲ通行スルトキハ徐行シ號鐘ヲ鳴ラシ又ハ喇叭ヲ吹ク等相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ

第二十九條 險崖、墜道、其ノ他危險ノ場所又ハ坂路ヲ行車スルトキハ馭者ハ車側ニ寄り車掌、馬丁ハ口綱ヲ取り徐行スヘシ

第三十條 二車以上連續進行スルトキハ前車ト後車トノ間十間以上ノ距離ヲ保ツヘシ前車急ニ車ヲ停メムトスルトキハ後車ニ對シ相當ノ合圖ヲ爲スヘシ

第三十一條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラル

第五章 乘載制限

第三十二條 乘客定員ハ馬車一臺ニ付一頭立ニハ六人二頭ニハ十人以下トシ定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス但十歳未満ノ者ハ二人チ一人ト看做シ三歳未満ハ定員外トス

前項ノ定員ハ車内見易キ所ニ掲ケヘシ

第三十三條 左ニ記載シタルモノハ乘載スヘカラス

- 一 傳染病其ノ他厭忌スヘキ疾病アル者
- 二 瘋癲者及亂醉者
- 三 汚穢物其ノ他惡臭ヲ發シ若ハ汚染ノ虞アル物品又ハ咬噬ノ憂アル獸類

第六章 乘車賃錢

第三十四條 乘車賃錢ハ相當ノ額ヲ定メ所轄警察官署ニ願出認可ヲ受クヘシ其ノ改定ヲ要スルトキ亦同シ
前項ノ定額ハ車内見易キ所ニ掲ケヘシ

第三十五條 何等ノ名義ニ拘ラス乘客ニ對シ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第七章 駐車場

第三十六條 駐車場ノ位置構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 駐車場ハ道路ニ面シタル場所ニシテ前面又ハ側面ニ三間以上ノ空地ヲ存スヘシ
但其ノ地ノ狀況ニヨリ此制限ヲ斟酌スルトコトヲ得
- 二 駐車場ハ車體一輛ニ付キ二坪ノ割合ヲ以テ構造スヘシ
- 三 駐車場ノ地盤ハ石、煉瓦、漆喰若ハ「セメント」敷トシ又ハ厚板敷ト爲シ適當ノ勾配ヲ付シ汚汁ノ排出ニ便ニシ別ニ尿溜若ハ糞溜ヲ設ケヘシ

第三十七條 發著所ノ外線路途中ニ駐車場ノ必要ヲ認ムルトキハ期日ヲ定メ之ヲ設置ヲ命スルトコトアルヘシ但他ノ同業者ト共同使用スルトコトヲ得

第三十八條 駐車場ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受クルニアラサレハ營業上使用スコルトコトヲ得ス其ノ改造修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三十九條 駐車場ニハ乗合馬車駐車場ト記シタル標札ヲ掲ケ且賃錢定額ヲ表示スヘシ

第四十條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ニスヘシ

第八章 罰則

第四十一條 本則第一條乃至第十條第十二條第十三條第十六條第十九條第二十一條乃至第三十五條第二十八條乃至第四十條ニ違反シタル者及第三十七條ノ命ニ從ハサル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ貳拾圓未満ノ科料ニ處ス
本則ニ規定シタル違犯行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルトコトヲ得

第四十二條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ科料ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本則第二十一條乃至第三十一條ヲ除クノ外各條ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ科料ノ刑ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

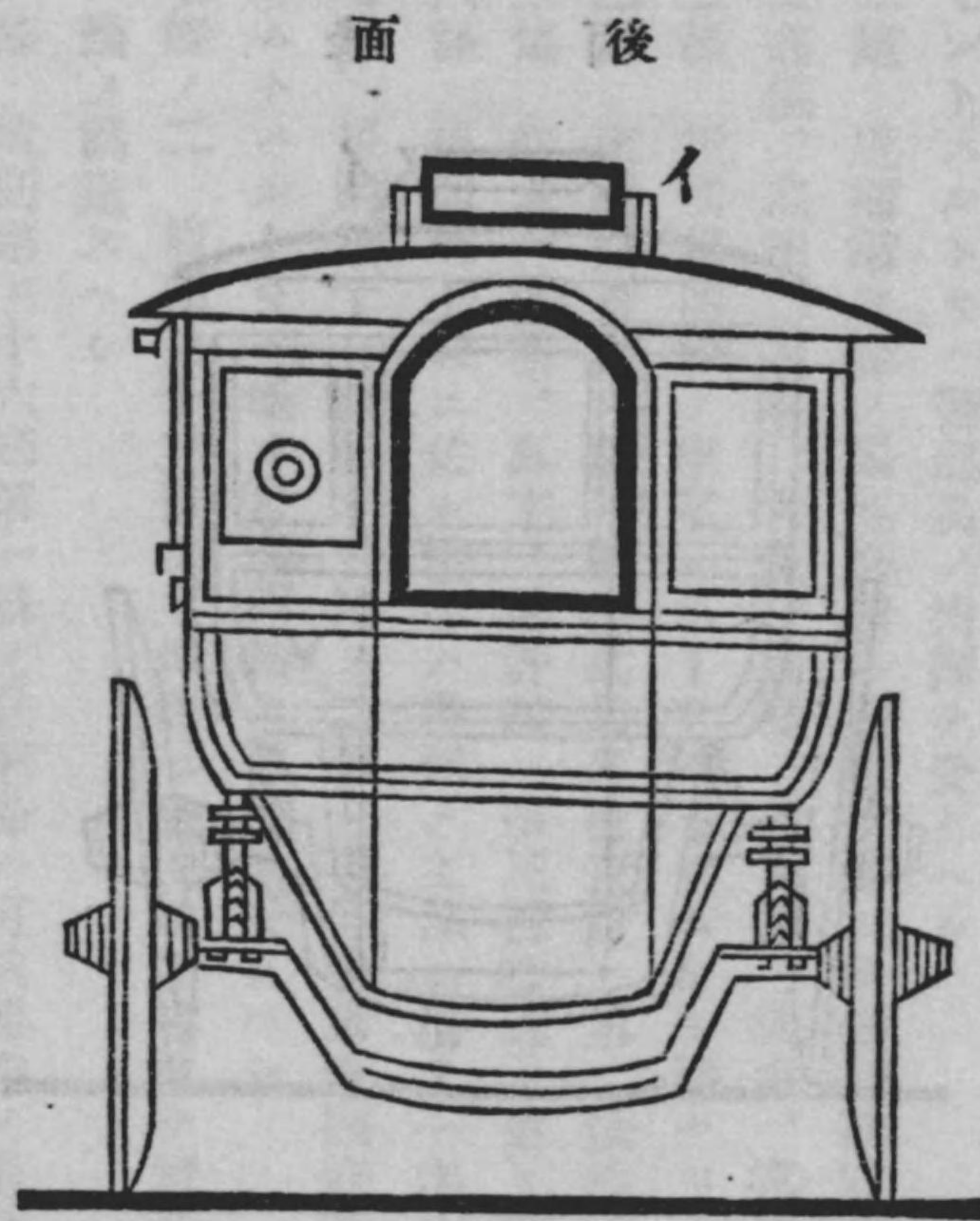
第四十三條 本則第四章第十九條及第三條乃至第三十一條ヲ除ク外ハ馭者馬丁ノ處爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

附則

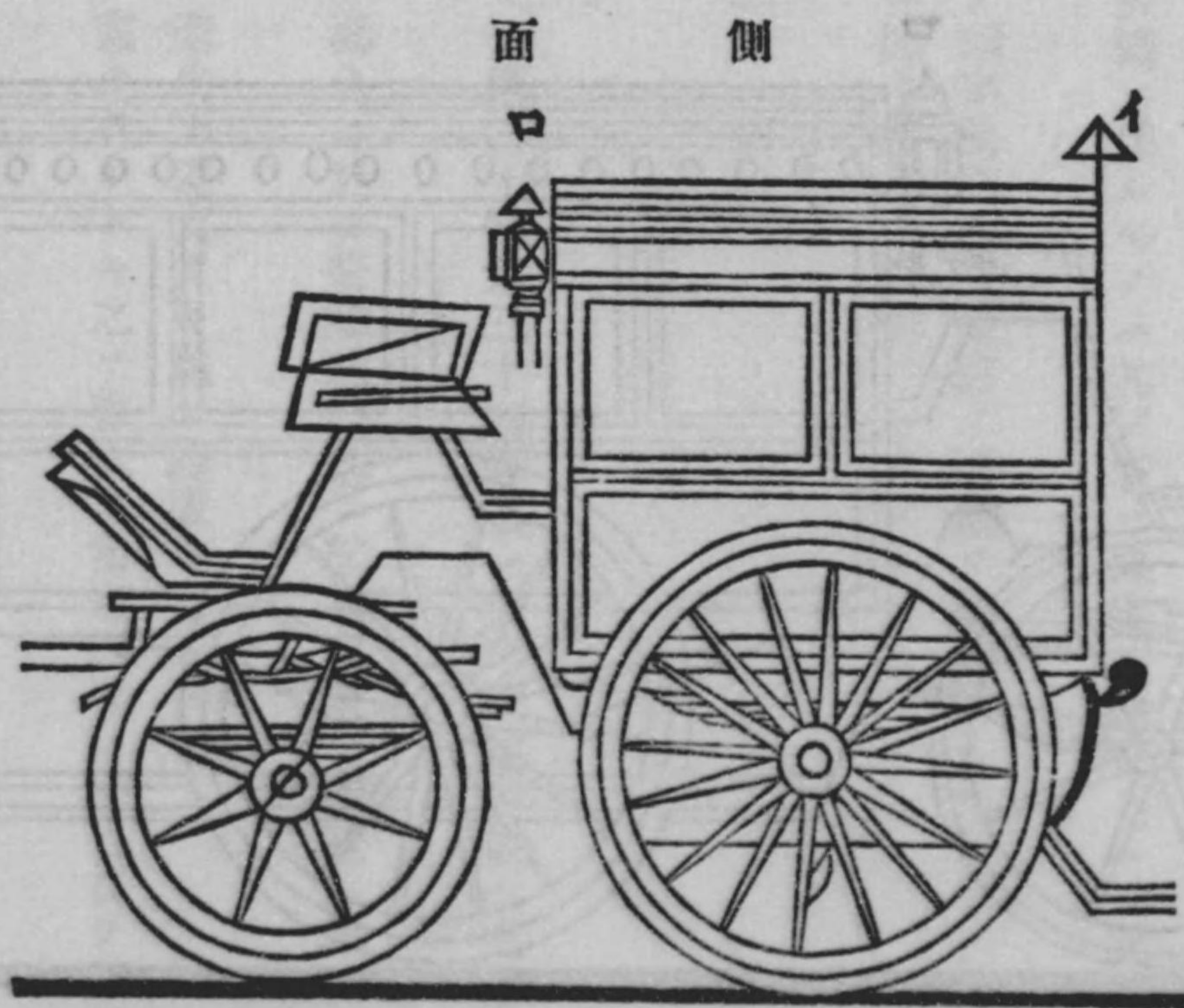
第四十四條 從來所轄警察官署ニ於テ検査ヲ受ケ現在乗合馬車ニ使用シ居ル去勢未濟ノ馬匹ハ明治四十二年十二月三十一日迄繼續使用スルコトヲ得

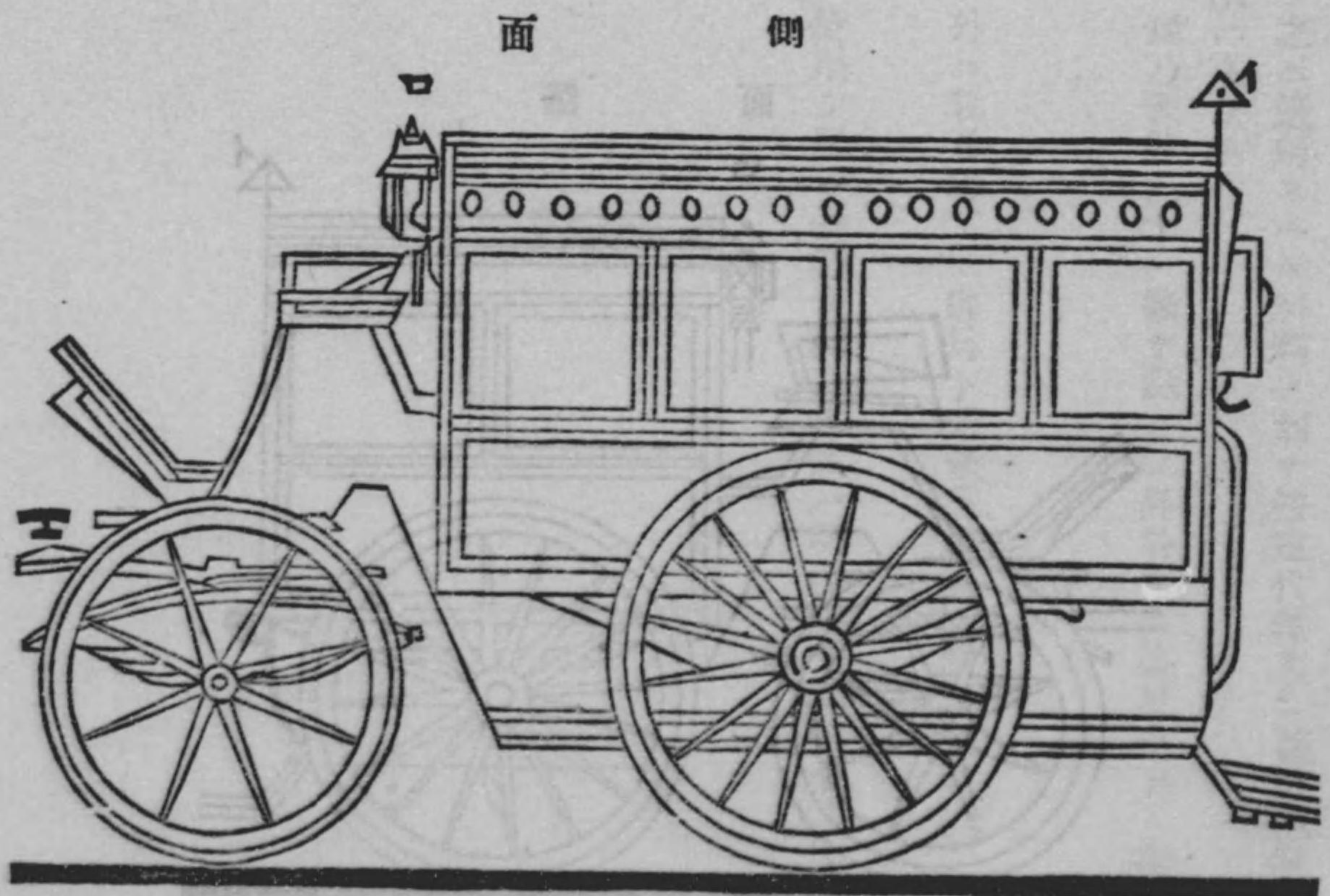
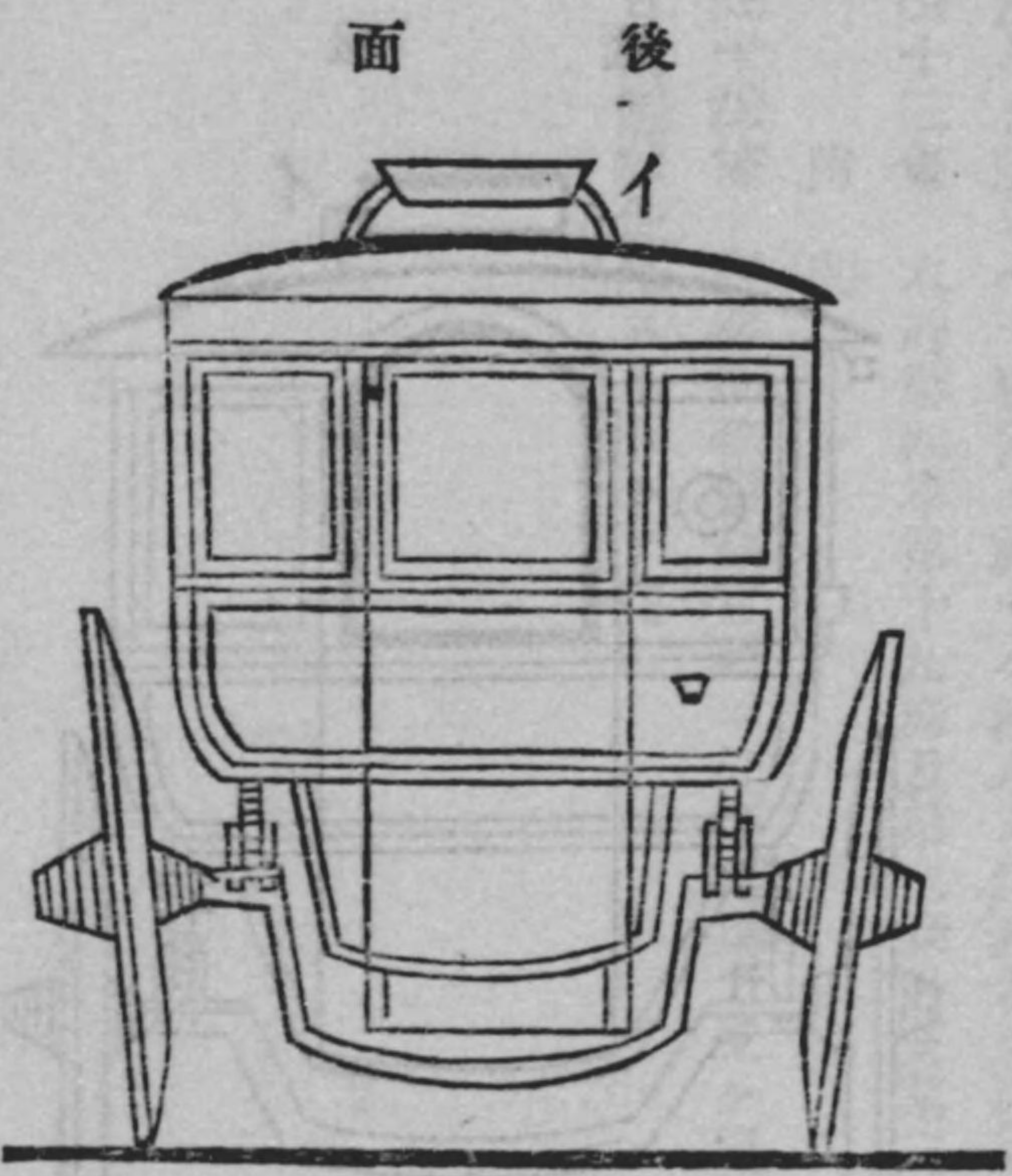
第三十條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ必要ナル事項ハ其ノ營業所ニ於テ之ヲ公告スルコトヲ得
第三十一條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ必要ナル事項ハ其ノ營業所ニ於テ之ヲ公告スルコトヲ得
第三十二條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ必要ナル事項ハ其ノ營業所ニ於テ之ヲ公告スルコトヲ得
第三十三條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ必要ナル事項ハ其ノ營業所ニ於テ之ヲ公告スルコトヲ得
第三十四條 營業者ハ其ノ營業ニ關シテ必要ナル事項ハ其ノ營業所ニ於テ之ヲ公告スルコトヲ得

車體構造示例



イ印ハ 行先地ヲ記シタル札
ロ印ハ 硝子燈





● 乗合馬車營業取締規則執行手續

(明治三十六年九月二十三日 岐阜縣訓令第五十四號)

附註 明治三十八年三月縣訓令第一一號、大正五年一月縣訓令甲第四號改正

- 第一條 規則第一條ニ依リ營業ヲ出願シタルトキハ通行線路ノ他ノ所轄ニ係ルモノハ其ノ署ニ協議シ許否スヘシ其ノ否認セントスルトキハ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二條 規則第二條ノ馬匹烙印ハ右足前蹄ニ所轄警察官署所在地名ノ頭字及馬匹検査證ノ番號ヲ烙印スルモノトス但高須、高田、大垣、大藏、高富、八百津、大井、高山、八幡、ニ限り地名ヲ押捺スルモノトス
- 第三條 規則第四條ノ車掌ハ馬丁ヲ兼ネシムルモ妨ナシ
- 第四條 車體検査證ハ第一號様式馬匹検査證ハ第二號様式ニ依リ記載スヘシ
- 第五條 馭者、車掌、馬丁ノ免許證ハ第三號様式ニ依リ記載スヘシ
- 第六條 規則第七條ニ依ル消印ハ番號ノ上部ニ消ノ一字ヲ烙印スヘシ
- 第七條 規則第十一條第十三條ノ二第一項但書第十四條第二項第十八條第二十條第三十四條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ警察部長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第七條ノ二 規則第十三條ノ二但書ニ依リ馬丁省略ヲ認可セムトスル場合ニ於テ營業線路他ノ警察官署ノ所轄ニ跨ルトキハ豫メ協議スヘシ
- 第八條 規則第三十六條第一號ノ駐車場ハ可成連擔ノ場所ヲ避ケ且ツ衛生上差支ナキ處ニ設置セシムヘシ
- 第九條 車體検査證並車掌、馭車、馬丁ノ免許證ハ檢印スヘキ餘地ノ盡キタルトキ之ヲ書改メ當初授與ノ年月日ヲ記入シ當期ノ檢印ヲ押捺スヘシ (檢印ハ朱印ヲ打込ムコト)
- 第十條 免許證及検査證ニシテ亡失ニ係ルモノハ再渡ノ年月日ヲ記入シ族籍氏名ノ變更ニ係ルモノハ其異動ヲ生シタル部分ノミヲ改メ毀損又ハ文字ノ磨滅ニ係ルモノハ從前ノ通記載シ且其ノ免許證ニシテ定期ノ検査ヲ經ルモノハ最近ノ検査

第三編 保安 第五章 交通、通信 第三款 人力車、馬車

ニ係ル檢印ヲ押捺下付スヘシ
第一號 六寸 木質適宜以下同シ

車體檢査證
住所
營業者 氏 名
車體番號第(何)號
乘客定員(何)人
明治 年 月 日
署名 署印
三前三后三前三后 六檢六檢七檢七檢

打込

第二號

二寸五分

番 號
○ 馬 檢 査 證
烙 印

裏

乘合馬車營業
○ 何 之 誰
明治 年 月 日 生年月日

第三號

二寸五分

番 號
○ 免 許 證
烙 印
三前三后三前 六檢六檢七檢

裏

乘合馬車營業何誰雇人 何縣士族平民
○ 車 掌 (馬丁) 何 之 誰
明治 年 月 日 授與 生年月日

第三編 保安 第五章 交通、通信 第三款 人力車、馬車

● 乗合馬車検査ニ屠畜技手ヲ立會セシムル件

(明治四十年十二月二十一日)
指示警第一五號

乗合馬車營業取締規則第七條ニ依リ乗合馬車ノ検査ヲ行フトキハ其署所轄受持ノ屠畜技手ヲシテ馬匹ノ検査ニ立會セシメラルヘシ但検査日ハ關係各署ト協定シ屠畜技手ノ立會上支障ナキ様注意セラルヘシ

● 乗合馬車馬蹄ニ烙印ヲ用ユル件

(明治二十五年二月二十七日)
指示第六號

乗合馬車取締規則第五條ニヨリ馬匹ノ検査ヲ爲シタルトキハ所轄警察官署ノ頭字及馬匹検査證番號ヲ馬蹄ニ烙印スヘシ
追テ明治三十二年指示第三〇號ハ之ヲ取消ス

例

右蹄右方ヲ横ニ烙印スヘシ (右 25)

● 乗合馬車馬匹検査烙印方

(明治三十五年三月)
保收第一〇〇一號保安課長通牒

乗合馬車馬匹検査烙印ノ儀ニ付キ本年二月二十七日所轄警察署ノ頭字ヲ用ユヘキ旨指示相成候處其頭字同一ノ箇處ニ限り左記之通烙印相成可然依命及通牒候也

高須、高田、大垣、御壽、高富、八百津、御嵩、大井、高山、八幡
追テ先キノ示例中假名ヲ以テセト記シタルハ關ノ誤リニ有之候

● 乗合馬車車體構造ニ關スル件

(大正四年七月十七日)
保第五二四八號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

乗合馬車車體ノ構造ニ付テハ乗合馬車營業取締規則第十四條ノ規定ニ依ルヘキハ勿論ノ義ニ有之候處社會進步ノ趨勢ニ伴ヒ諸般ノ点ニ改善ヲ加ヘ優良ノ車體ヲ新調セムトスル當業者漸ク増加ノ傾向アルニ至レルヲ以テ此際規定改正ノ内儀有之候ニ付テハ今後改造修補又ハ新調セムトスルモノニ對シテハ多少斟酌ヲ加ヘラルル見込ニ有之候條右願出ノ場合ニ於テハ事情詳具指揮ヲ待ツテ處理相成候様致度此旨及通牒候也

● 工女ヲ荷馬車ニ乗車セシムルモノノ取締ニ關スル件

(大正十年十一月五日)
保親第四七四號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

飛驒各地ヨリ中央線各驛ニ至ル區間ニ於テ荷馬車ヲ以テ工女ヲ運搬スルモノアルヤニ聞及ヒ候處右ハ其ノ名義ノ如何又ハ賃錢ヲ何人ニ於テ負擔スルヲ問ハス荷モ一定ノ報酬ヲ得テ運搬スルモノハ縱令其ノ期間力臨時的ナリトスルモ乗合馬車營業取締規則ヲ以テ律スヘキモノト認メラルルモ尙該路線ニハ時々多數ノモノヲ運搬スル適法ノ機關ナク特別ノ事情アルモノト認メラレ候ニ付テハ大體左記標準ニ依リ弊害豫防上充分ト認メラルルモノニ限り當分默認相成差支無之候條此段及通牒候也

記

一 一般制限

- 一 女工供給組合ノ委託ヲ受ケテ工女ヲ運搬スル場合ニ限ル
 - 二 女工供給組合ニ於テ付添人ヲ附スルコト
 - 三 運搬時間ハ日出後日没前ナルコト
- 車體
- 一 車體ハ堅牢ナルコト

二 車體ノ周圍ニハ高一尺五寸位ノ堅牢ナル手摺ヲ設ケ腰板ノ類ヲ附スルコト
三 適當ノ屋根及敷物ヲ設ケルコト

馬 四

一 去勢ヲ爲シ且狂噪ノ無辨ナキモノナルコト
二 轡ハ普通製且頭絡ハ革製ニシテ眼穩ノ附着シタルモノヲ用ヒ口綱ハ強靱ナルモノヲ附スルコト
三 滿二十年以上ニシテ身體強壯、馭術ニ熟達シタル者ヲシテ口綱ヲ把ラシムルコト
但シ口綱ハ三尺以内ヲ把持スルコト

一 乘車人員ハ一尺二寸平方ニ一人ノ割合トスルコト

●荷馬車取締ニ關スル件

(大正六年四月五日
保第三一八六號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

荷牛馬車ノ四輪車ニ在リテハ左右齒幅ノ中心距離前部ト後部トノ差四寸以上ヲ保有スヘキコトハ荷車取締規則第四條ノ規定スル所ニシテ各署ニ於テハ其々取締方勵行相成居候コトトハ相信シ候處中ニハ右規定ニ適合セサル車臺ヲ使用スル者有之前車輪ト後車輪ト同一ノ箇所ヲ通過スルノ結果道路ヲ破損スルコト甚ク延ヒテハ交通運輸上ニ不便ヲ來スコト至大ナルモノ有之候條此際一層之カ取締ヲ嚴行スルト共ニ其製造業者ニ就キ調査諭示ヲ加ヘ若シ制規ニ反スル荷牛馬車使用ノ者ヲ發見シタルトキハ直ニ改造修理ヲ命スルハ勿論場合ニヨリテハ相當處分ノ方針ニ出テ之カ取締ノ趣旨ヲ貫徹候様措置相成度此旨及通牒候也

第四款 自轉車、自動車

●自轉車取締規則

(大正十一年五月二十二日
岐阜縣令第二十八號)

第一條 本則ニ於テ自轉車ト稱スルハ交通ノ用ニ供スル足踏自轉車並原動機ヲ裝置シタル二輪ノ車輛ヲ謂フ但シ電氣自轉車「オートヘッド」ノ類ハ車輪ノ數ニ拘ラス之ヲ自轉車ト看做ス

第二條 自轉車ニハ適當ナル制動機、音響器及泥除ヲ裝置スヘシ
原動機ヲ裝置セル自轉車ニハ前項ノ外左記各項ノ裝置ヲ爲スヘシ

一 排氣管ニ適當ナル防響器ヲ備フルコト

二 車體ノ前方二十間以上並車輪ノ部番號ヲ照射スヘキ適當ナル燈火ノ設備ヲ爲スコト

三 乗用者踏易キ箇所ニ速度計ヲ備フルコト

第三條 自轉車ニ容器又ハ荷臺ヲ裝置セムトスルトキハ三輪車ニアリテハ縱二尺五寸以内、横二尺以内、二輪車ニ在リテハ縱一尺五寸以内、横一尺三寸以内、高サハ地上四尺以内タルヘシ
自轉車ニ連結スル容器又ハ荷臺ノ大サハ前項三輪車ノ例ニ依ル

第四條 自轉車(商品ヲ除ク)ノ所有者ハ其ノ住所、氏名、年齢(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地、代表者ノ氏名)及車輛ノ種類、名稱、箇數ヲ具シ主タル使用地所轄警察官署ニ届出記番號ノ指示ヲ受ケヘシ自轉車ノ賃貸ヲ營業トスル爲メ之ヲ所有スル者亦同シ

前項車輛記番號ヲ他ノ車輛ニ轉用シ又ハ之ト異リタル記番號ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 前條車輛記番號ハ別記雜形ノ番號札ニ明記シ車輛ノ後部踏易キ箇所ニ標示スヘシ

第六條 記番號ノ指示ヲ受ケタル者ニシテ左記各號ノ一二該當スルトキハ五日以内ニ主タル使用地所轄警察官署ニ届出ヘ

第三編 保安 第五章 交通、通信 第四款 自轉車、自動車

一 第四條第一項ノ届出事項ニ異動ヲ生シタルトキ
 二 主タル使用地ヲ變更シタルトキ
 三 自轉車ヲ讓渡又ハ使用ヲ廢止シタルトキ
 前項第一號ノ場合ニ於テ所轄警察官署ヲ異ニスル場合ハ第四條第一項ノ事項ヲ具シ後ノ使用地所轄警察官署ニ届出新ニ車輛記番號ノ指示ヲ受ケヘシ

第七條 道路ニ於テ自轉車ヲ使用スル者ハ左記事項ヲ遵守スヘシ

- 一 第二條及第三條ノ規定ニ適合セス又ハ記番號ノ標示ナキ自轉車ヲ使用セサルコト
 - 二 速度ハ市街地ニ在リテハ一時間十二哩其ノ他ニ在リテハ一時間十六哩夜間ニ在リテハ一時間八哩ヲ超過セサルコト
 - 三 長大、過重又ハ危險物件ヲ携帯若ハ搭載シテ乘車セサルコト
 - 四 裝置シタル容器ノ外側ニ物品ヲ出シ又ハ地上四尺以上ノ高サニ積載セサルコト
 - 五 適當ノ裝置ヲシテ一車二人以上乗車セサルコト
 - 六 下リ「ハンドル」及「逆ハンドル」ヲ使用セサルコト
 - 七 乘車中同時ニ兩手ヲ「ハンドル」ヨリ離シ又ハ曲乘等ヲ爲ササルコト
 - 八 連續シテ進行スルトキハ後車ハ前車トノ距離二間以上ヲ保チ適宜音響器ヲ鳴ラスコト
 - 九 乘車スルトキハ袴又ハ股引ノ類ヲ穿ツコト
 - 十 原動機ヲ裝置セル自轉車ハ夜間第二條第二項第三號ニ依ル燈火ヲ點スルコト
 - 十一 警察官吏ニ於テ擧手其ノ他ノ方法ニ依リ停車ヲ命シタルトキハ其指揮ニ從フコト
- 第八條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ道路ニ於テ自轉車ニ乘車スルコトヲ得ス
- 一 酩酊セル者

二 乘車不熟練ナル者

三 原動機ヲ使用スル自轉車ハ十八歳未満、容器又ハ荷臺ヲ連結スル二輪車若クハ之ヲ裝置スル三輪車ハ十四歳未満、其ノ他ニ在リテハ十二歳未満ノ者

第九條 自轉車ニ依リ人畜ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ直チニ停車シ被害者ノ救護其ノ他必要ナル措置ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏現場ニ在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

第十條 警察官吏ニ於テ危險豫防上必要アリト認ムルトキハ自轉車ノ修繕ヲ命シ又ハ之ヲ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 第四條乃至第六條ニ違反シタル者ハ料料ニ處ス

第十二條 第七條乃至第九條ニ違反シタル者又ハ第十條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ料料ニ處ス

第十三條 十四歳未満ノ者(第十五條ノ從業者ヲ除ク)本則又ハ本則ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス

第十四條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第四條乃至第六條又ハ第十條ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ罰則ハ之ヲ其ノ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十五條 自轉車ノ所有者ハ其代理人、戶主、家族、同居者其ノ他從業者ニシテ第四條乃至第六條又ハ第十條ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

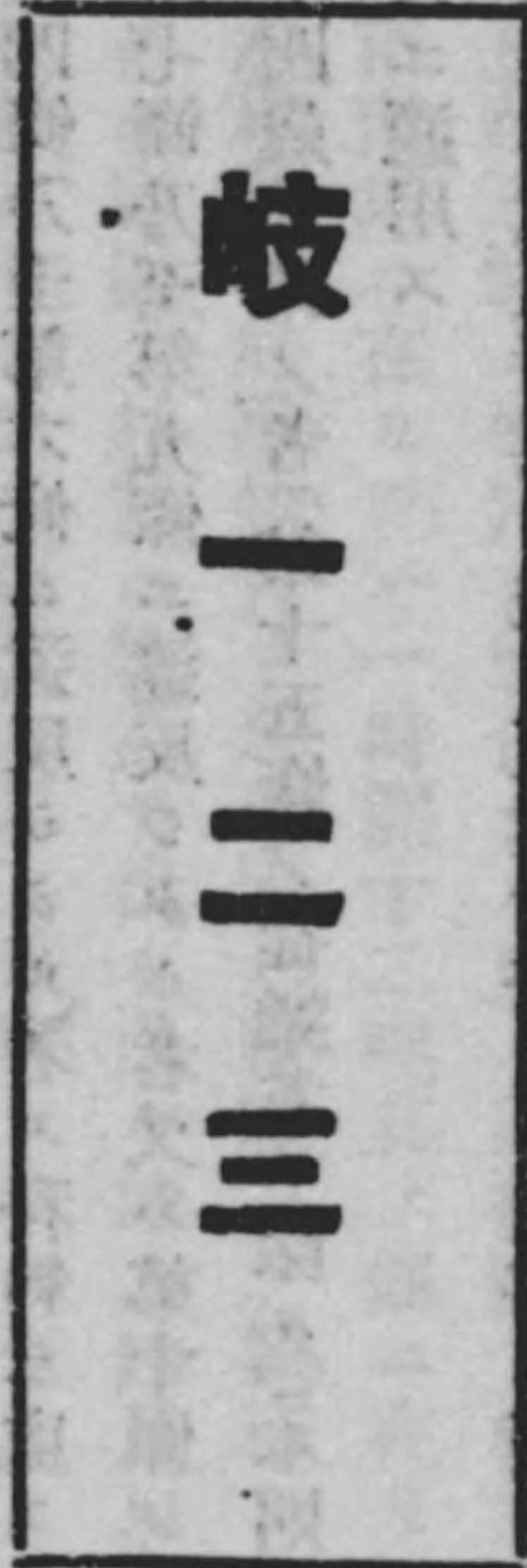
附 則

第三編 保安 第五章 交通、通信 第四款 自轉車、自動車

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本則施行ノ際現ニ使用スル自轉車ニシテ規則第二條及第三條ノ規定ニ適合セサルモノハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ改
 造又ハ裝置ヲ爲スヘシ
 本則施行ノ際現ニ自轉車ヲ所有スル者ハ本則施行ノ日ヨリ六十日以内ニ第四條ニ依ル手續ヲ爲シ第五條ノ番號札ヲ標示ス
 ヘシ

○別記難形

八寸



容易ニ腐蝕シ難キ金屬製ノモノニシテ黒地ニ白文字トス文字モ亦容易ニ磨滅若ハ剝離シ難キモ
 ノナルヲ要ス

●自轉車取締規則執行心得

(大正十一年五月二十二日
 岐阜縣訓令甲第二十五號)

第四條 大正十一年六月縣訓令甲第二八號改正

第一條 自轉車取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第四條ニ依ル届出アリタル時ハ規則第五條ノ制式ニ遵ヒ車輛番號ノ指示ヲ
 爲スヘシ

前項車輛ノ記號ハ警察署名ノ頭字トス但シ左ノ各署ハ各下記ノ記號ヲ用フヘシ

- 高田警察署 田
- 高富警察署 富
- 高須警察署 須
- 八百津警察分署 百
- 八幡警察署 幡

第二條 警察官署ハ第一號様式ニ依リ自轉車臺帳ヲ作製シ規則第四條ノ届出アリタルトキハ其住所、氏名、年齢(法人ニ
 在リテハ名稱、事務所所在地、代表者住所、氏名)車輛ノ種類届出ノ年月日及指示シタル番號ヲ登錄スヘシ
 異動アリタルトキハ其都度加除訂正スヘシ

○第一號様式

車輛番號	種類	名稱	届出年月日	廢止年月日	備考	使用者	
						住所	氏名

記載例

- 一 種類ハ原動機裝置ノ有無及二輪、三輪「オートベツト」ノ區別ヲ記載スルコト
- 二 備考欄ニハ参考事項ヲ記載スルコト

●自轉車取締規則改正實施ニ關スル件

(大正十一年五月二十三日 保第五七四〇號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

這般自轉車取締規則改正實施相成候處右改正ノ要旨ハ近時頻々トシテ發生スル自轉車ノ盜難豫防方法並ニ乘用者ノ取締方法トシテ記番號ヲ標記セシムルト及自轉車ニ容器又ハ荷受ケヲ裝置シ小貨物運搬ヲ爲スモノ漸次増加ノ傾向アルヲ以テ之ニ制限ヲ加ヘ交通ノ安全ヲ期セントスル趣旨ニ出テタルモノニ有之其他本則ニ規定ナキ事項ハ總テ道路取締令ノ適用ヲ受クル義ニ候條御含ミノ上之カ趣旨ヲ一般ニ周知セシムル様御配意相成度

追テ記番號札ハ之ヲ實施セル他府縣ノ成績ニ鑑ミ玆瑠鐵器製ノ如キモノヲ適當ト認メ規定シタルモノニ有之又或府縣ニ於テハ記番號札ノ購入ヲ全然放任シ置キタル爲メ商人間ノ競争等ニ依リ各管內區々ニ涉リテ統一スル所ナク取締上面白カラサル結果ヲ惹起シタル實例モ有之候條豫メ商人ヲシテ自轉車營業組合等ト協商ヲ遂ケシメ縣下全般ニ涉リ一定ノ記番號札ヲ附セシムルノ方針ヲ取り商人間無益ノ競争ヲ惹起セサル様特ニ御配意相成度候

記番號指示申請書別紙ノ通り
車輛記番號指示申請書

- 一、住所
 - 二、營業所
 - 三、氏名、年齢
 - 一、自轉車
 - 一、種類
 - 一、名稱
 - 一、鑑札番號
- 第 號
- (原動機裝置)

右自轉車使用可致ニ付車輛記番號指示相成度候

大正 年 月 日

警察署長 殿

●自轉車取締規則實施ニ關スル件

(大正十一年六月二十一日 保第六八二〇號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

自轉車取締規則實施ニ就テハ銳意努力セラレ居ルコトト思料セラレ候處積荷ノ制限及制動機等ノ取締ニ付テ左記ノ通り心得ラレ度爲念及通牒候也

記

- 一 自轉車ニ物品ヲ搭載又ハ攜帶シテ乘車スル場合ノ制限トシテハ該取締規則第七條第三號及第四號ニ示スカ如ク一般的ニ長大過重又ハ危險物件ノ搭載又ハ攜帶ヲ禁シ容器ヲ裝置スルモノニ限り更ニ其容器ノ外側ニ物品ヲ出スコトヲ禁止セリ其他荷臺ノ積荷ニ關シテ其容積重量制限ニ就テ特別ノ規定ナキハ前記一般ノ規定ヲ適用スル趣旨ニ有之而シテ第三號ニ所謂長大又ハ過重物件ト認定スヘキ標準ニ就テハ具體的ニ之ヲ明示シ難キモ要スルニ事實上ニ於ケル交通妨害又ハ危險ノ点ト運轉ノ難易等ヲ考慮シテ判斷スヘキモノニ有之又容器ヲ裝置スルモノニ在リテハ第四號ノ規定ニ依リ物品ヲ容器ノ外側ニ出スコトヲ得サル結果トシテ長大物件認定ノ問題ヲ生セサルモ第三號ノ規定カ一般的ナル結果過重又ハ危險物ヲ搭載シ得サルカ如キ其制限一般自轉車ニ於ケルト更ニ異ナルコトナキ義ニ付キ之等取締ニ就テハ寬嚴宜シキヲ制シテ法ノ目的ヲ達成スル様致度
- 二 俗ニ實用自轉車ト稱スル足踏自轉車ニハ何等ノ制動裝置ナキヲ以テ第二條ニ依リ制動裝置ヲナサシムルノ要アリ
- 三 規則改正ノ結果既ニ標示セル番號札ニシテ其位置上部ニ偏シ記號力荷受ノ下ニ隠レルモノヲ往々見受ケラルルニ付キ番號指示ノ際相當注意相成度

●自動車取締令

(大正八年一月十一日)
內務省令第一號

附則 大正一二年二月內務省令第四四號改正

第一條 本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用キ軌條ニ依ラスシテ運轉スル車輛ヲ謂フ

第二條 自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トス但シ地方長官ハ道路、區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指定シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 轍ハ護謨製ノモノタルヘキコト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ニ異ナルモノヲ用ウルコトヲ得
 - 二 各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキコト
 - 三 變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ晴易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキコト
 - 四 蒸汽、瓦斯又ハ油其ノ他爆發性者ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ櫃、管及氣筒竝電氣裝置等ハ堅牢ニ作り漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘキコト
 - 五 運轉ニ際シ甚シキ騒響ヲ發シ又ハ有臭者ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セサル構造タルヘキコト
 - 六 車輛ノ總重量八百封度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及逆行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキコト
 - 七 適當ナル音響器ヲ備フヘキコト
 - 八 車輛ノ前面ニハ二箇以上、後面ニハ一箇以上ノ相當光力ヲ有スル燈火ヲ備ヘ後面燈火ハ運轉手ノ座席ヨリ消燈シ得サル様裝置スヘキコト
- 第五條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ
商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ得

検査ニ合格シタルトキハ検査ノ證明ヲ爲シ車輛番號ヲ指示ス

検査證明ノ爲検査證ヲ交付セラレタルトキハ車體内部ニ之ヲ標示スヘシ

第六條 自動車ノ主タル使用地ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨後ノ使用地ノ地方長官ニ届出テ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ

検査ニ合格シタル自動車ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地ノ地方長官ニ届出

ツヘシ其ノ主タル使用地ノ商品トシテ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地ノ地方長官ニ届出

第七條 自動車ノ構造裝置ニシテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 原動機
- 二 爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ櫃、管
- 三 氣筒及曲柄
- 四 制動機、變速機及換向機
- 五 電氣裝置 電路ヲ除ク
- 六 車蓋
- 七 車體

第八條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ定ムル所ニ依リ検査又ハ試運轉若ハ運搬等ノ爲メ一時自動車ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行ヒ必要ト認メタルトキハ使用ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ使用ノ禁止ヲ命セラレタルトキハ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者ハ其ノ構造裝置ニ付危害ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘシ

第十一條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ニ届出テ検査證ヲ返納シ其ノ

他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十二條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營ムトスル者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ營業地ノ地方長官其ノ他ノモ
ノハ營業所々在地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル營業ノ免許ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓受又ハ相續スルコトヲ得ス

第十四條 營業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ廢止前
營業地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 運轉手タラムトスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ
交付ス

運轉手免許證ハ甲乙ノ二種トシ甲種免許證ヲ有スル運轉手ハ各種ノ自動車ヲ運轉スルコトヲ得乙種免許證ヲ有スル運轉
手ハ特定又ハ特種ノ自動車ニ非サレハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス

第十六條 運轉手ノ免許ハ試験ニ合格シ左ノ各號ノ一二該當セサル者ニ之ヲ與フ
一 十八歳未満ノ者
二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者
三 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

運轉手ノ試験ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ自動車ノ構造、取締規則及實地ノ技能ニ關シ之ヲ行フ
第十六條ノ二 現ニ運轉手タル者ニシテ運轉手免許ノ有効期間満了後仍ホ引續運轉手タラムトスル者ニ付テハ前條第一項
各號ノ一二該當セス且相當技量アリト認メタル者ニ限り前條ノ規定ニ拘ラス試験ノ全部又ハ一部ヲ省略シテ免許ヲ與フ
ルコトヲ得

第十七條 運轉手免許證ハ就業中之ヲ携帯スヘシ
第十八條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ
自動車ノ検査證明ヲ毀損シタルトキハ地方長官ニ願出テ更ニ其ノ證明ヲ受クヘシ

第十九條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ運轉手ハ遲滞ナク免許證ヲ返納スヘシ
一 第二十七條ニ依リ免許ノ取消又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ
二 免許ノ有効期間ヲ經過シタルトキ
運轉手死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキハ其ノ雇主、戸主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十條 運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五日内ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ後ノ就業地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
第二十一條 前條ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長官必要ト認ムルトキハ第十六條第二項ニ依リ試験ヲ行フコトヲ
得

前項ノ試験ニ合格セサルトキハ其ノ道府縣内ニ於ケル就業ヲ停止スルコトヲ得
第二十二條 運轉手ヲ雇入レタル者ハ五日内ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
運轉手ヲ解雇シタル者ハ十日内ニ運轉手ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
第二十三條 車輛番號ハ車輛ノ前面及後面略易キ箇所ニ標示スヘシ
後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ

第二十四條 検査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコトヲ得ス
第二十五條 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ
前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業員ハ被害者ノ救護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官吏在ル
トキハ其ノ指示ニ從フヘシ
運轉手其ノ他ノ從業員ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇主、自動車使用者ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及車輛番號
ヲ警察官吏ニ申告シ、警察官吏在ラサルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項ヲ通告スルニ非サレハ自動車ノ運轉ヲ

繼續スルコトヲ得ス

前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運轉手其ノ他ノ從業員ハ遲滯ナク前各項ノ事實ヲ警察官吏ニ申告スヘシ

乗用者ハ運轉手其ノ他ノ從業員カ前四項ノ措置ヲ爲スニ付之ヲ妨クルコトヲ得ス

第二十六條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十二條ノ規定ニ依ル營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一 正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營業ヲ開始セザルトキ

二 營業ヲ繼續スルニ適セスト認メタルトキ

三 公安上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

四 營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得

一 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ

二 第十六條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者、又ハ第九條第一

項、第二十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ

拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第十七條

第十九條、第二十條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分

ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キテ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ

第三十一條 營業用又ハ家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令

ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰

則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十三條 自動自轉車ノサイドカー附及オートベツドノ類ニ付テハ其運轉者ニ對シ第三條、第二十五條及其ノ罰則ノ規定

ヲ適用スルノ外本令ヲ適用セス

前項ノ外特種ノ自動車ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ規定ニ依ル構造裝置ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第三十五條 本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行前ニ於テ自動車ノ検査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月内ニ、其ノ他ノ地

方ニ在リテハ三箇月内ニ本令ニ依リ検査又ハ免許ヲ受ケヘシ

前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル試験ノ全部又ハ一部ヲ省略

スルコトヲ得

第三十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

● 自動車取締令施行細則

(大正八年二月十二日 岐阜縣令第一號)

附則

大正一一年六月縣令第三四號、七月第三九號、一三年三月第二二號、昭和二年四月第四七號改正

第一條 自動車取締令又ハ本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ願届書類ハ營利ヲ目的トスルモノニ在リテハ主タル營業所其ノ他ノモノニ在リテハ住所地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 自動車ハ二間以上ノ幅員(並木敷又ハ溝渠敷アル道路ニアリテハ之ヲ除キタル部分)アル道路ニアラサレハ通行スルコトヲ得ス但シ警察官吏ノ承認ヲ得タル場合又ハ特種ノ小型自動車ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一定ノ路線又ハ區間ニ依ル自動車營業ニアリテハ危險ノ有無其ノ他特別ノ事由ニ依リ前項ノ幅員ニ斟酌ヲ加ヘ許可スルコトアルヘシ

第三條 自動車ノ最高速度ハ市街地ニ在リテハ一時間十二哩其ノ他ニアリテハ一時間十六哩夜間ニ在リテハ一時間八哩トス

第四條 自動車取締令第五條第一項第二項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 車輛ノ種類、名稱及型式
- 二 車輛ノ自重
- 三 乘客定員又ハ載貨定量
- 四 車臺ノ材料、構造及圖面 (最大部ニ於ケル長サ、幅及高サ、軌間並ニ軸間距離、車輛ノ大サ其ノ他主要部ノ構造及寸法ヲモ記載スルヲ要ス)
- 五 車體ノ材料、構造及圖面 (最大部ニ於ケル長サ、幅及高サ、幅及高サ、客室ノ大サ又ハ積荷室ノ容積ヲモ記載スルヲ要ス)
- 六 原動機ノ種類、名稱、馬力數及圖面
- 七 氣筒、曲柄、冷却裝置ノ構造
- 八 制動機、變速機、換向機、逆進機ノ構造

九 電氣裝置

十 警音機、消音機、速度計其ノ他附屬機械器具ノ構造

十一 燃料容器、傳送管ノ材料及構造、燃料貯藏量及消費量

十二 製造所名及製造年月日但シ古品ニ在リテハ其ノ經歷、車輛使用ノ程度、大修繕又ハ構造變更ノ要點ヲ附記スヘシ

第五條 特種ノ自動車ニ在リテハ自動車取締令第四條第二號ノ制動機及第八號前面ノ燈火ハ各一個ニ減少スルコトヲ得

哩以上ノ速度ヲ出スコト能ハサル自動車ニ在リテ同條第三號ノ速度計及變速機ヲ省略スルコトヲ得

第五條ノ二 降雨雪又ハ道路泥濘ノ際自動車ヲ運轉スルトキハ泥土又ハ汚水ノ飛散ヲ防止スヘキ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第六條 自動車取締令第七條ノ願書ニハ車輛ノ種類名稱、検査年月日、検査番號及構造裝置ノ變更部分ヲ記載スヘシ

第七條 自動車取締令第八條但書ニ依リ自動車ノ試運轉又ハ運搬ヲ爲サムトスル者ハ其ノ事由、路線及日時ヲ記載シ出發地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ運轉中許可證ヲ携帯スヘシ

第八條 検査ヲ受ケタル後其ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱ノ所在地)ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第九條 自動車取締令第六條第一項ノ願書ニハ第四條各號ノ事項ヲ記載スヘシ

自動車取締令第六條第二項ノ願書ニハ讓受ノ場合ニ於テハ讓渡人ノ連署、相續ノ場合ニ於テハ之カ事實ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スヘシ但シ本縣以外ノ検査ニ係ルモノハ本則第四條各號ノ事項ヲ記載スヘシ

第十條 自動車ノ定期検査ハ毎年五月及九月ノ二回知事ノ指定シタル日時場所ニ於テ之ヲ行ヒ臨時検査ハ知事ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ行フ

検査ノ結果必要ト認メタルトキハ修繕又ハ特別ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ一時検査證ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十一條 自動車取締令第十二條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ路線又ハ區間カ本縣以外ニ涉ルトキハ關係地知事ノ連名ヲ要ス

一 本籍、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地代表者ノ氏名

二 營業所

三 營業ノ種類及車輛數

四 營業ノ路線又ハ區間並ニ其ノ地名及圖面但シ國縣道以外ニ係ルトキハ管理者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

五 駐車場又ハ貨物積卸場ノ位置及圖面但シ他人ノ所有ニ係ルトキハ使用承諾書ヲ添付スヘシ

六 定時ニ發着スルモノニ在リテハ發着時間及回數

七 客車ニ在リテハ賃錢額、貨自動車ニ在リテハ賃貨額、貨車ニ在リテハ運賃額

知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

許可ヲ受ケタル後第一項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第一項第一號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

知事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

第十一條ノ二 本則ニ於テ自動車取締令第十二條ニ據ル營業ヲ左ノ四種ニ區別ス

一 乗合自動車

二 貨(乘用)自動車

三 貨物自動車

四 貨(貨物)自動車

第十二條 自動車取締令第十三條ノ願書ニシテ讓受ニ係ルトキハ讓渡人連署シ相續ニ係ルトキハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スヘシ

第十三條 自動車取締令第十四條但書ノ願書ニハ廢止ノ事由ヲ詳記スヘシ

第十四條 自動車取締令第十五條ノ願書ニハ左ノ各號ヲ具スヘシ

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 甲種、乙種ノ區別但シ乙種ニシテ特定ノモノハ其ノ自動車番號、特種ノモノハ其ノ自動車名

三 履歷書

四 戶籍抄本

五 視力、聽力、色盲等ニ關スル醫師ノ健康診斷書

六 最近ノ撮影ニ係ル寫眞二部(小判形半身)

第十五條 自動車取締令第十六條第二項ノ取締規則トハ自動車取締令、自動車取締令施行細則其ノ他道路並交通取締ニ關スル法規ヲ謂フ

第十六條 運轉手縣内ニ於ケル住所ヲ移轉シ又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第十七條 車掌タラムトスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月日及履歷ヲ記載シ戶籍抄本、最近ノ撮影ニ係ル寫眞二部(小判形半身)ヲ添ヘ知事ニ願出許證ヲ受クヘシ

免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ知事ニ願出ヘシ

第十八條 車掌ノ免許ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニ之ヲ與フ

一 十六歳未満ノ者

二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三 其ノ他知事ニ於テ不適當ト認ムル者

第十九條 車掌免許證ハ就業中之ヲ携帯スヘシ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク免許證ヲ知事ニ返納スヘシ

- 一 車掌ヲ廢業シタルトキ
- 二 第二十二條ニ依リ車掌ノ免許ヲ取消サレ又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ
車掌死亡又ハ行衛不明トナリタルトキハ雇主、月主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
車掌住所ヲ移轉シ又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ
- 第二十一條 車掌ヲ雇入レタル者ハ五日以内ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ知事ニ届出ヘシ
車掌ヲ解雇シタルトキハ十日以内ニ車掌ノ氏名ヲ知事ニ届出ヘシ
- 第二十二條 車掌ニシテ自動車取締令又ハ本則ニ違反シタルトキ又ハ不適當ト認メタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ就業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第二十三條 自動車ノ車掌、運轉手從業中ハ洋服ニ靴ヲ穿テ獨逸型帽又ハ烏打帽ヲ用フヘシ
- 第二十四條 運轉手又ハ車掌就業中ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但シ貸自動車ニ在リテハ第十三號ノ事項自家用自動車ニ在リテハ第六號第七號並第十三號ノ事項ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 所定ノ服裝ヲ爲スコト
 - 二 運轉手ハ運轉中運轉手臺ヲ離ルヘカラサルコト
 - 三 喫煙又ハ飲酒ヲ爲シツツ若ハ酩酊シテ業務ヲ執ルヘカラサルコト
 - 四 定員外ノ人員ヲ乗車セシメサルコト但シ十歳未満ハ二人ヲ以テ一人トシ四歳未満ハ定員ニ算入セス
 - 五 積載定量ヲ超ヘ又ハ車體ノ前後左右ニ突出シテ貨物ヲ積載セサルコト
 - 六 客席以外ニ客ヲ乗載セサルコト
 - 七 名義ノ何タルチ間ハ所定額賃錢以外ノ金品ヲ請求スヘカラサルコト
 - 八 諸車ト並行シ又ハ競走スヘカラサルコト
 - 九 自動車二輛以上連續行進スル場合ハ後車ハ前車トノ距離二十間以上ヲ保ツコト

十 雜沓ノ場所又ハ街角、橋上、坂路等ヲ行進スルトキ若ハ進路ニ人車馬等アルトキハ三十間以上ノ距離ヨリ音響器ヲ鳴ラシツツ徐行スヘキコト

十一 番人チ附セサル鐵道踏切チ通過スル際ハ一旦踏切前ニ停止シ安全ナルコトヲ確カメタル上通過スヘキコト

十二 夜間ハ燈火ヲ點スヘキコト

十三 營業路線又ハ區間外ニ乗出ササルコト

第二十五條 知事ニ於テ必要ト認メタルトキハ許可ニ條件ヲ附シ若ハ特別ノ命令ヲ爲スコトアルヘシ

第二十五條ノ二 運轉手ニ對シテハ其ノ免許期間内ト雖猶ホ試験ヲ行フコトアルヘシ

第二十六條 (削除)

第二十七條 工事ヲ竣リタル駐車場又ハ荷物積卸場ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十八條 駐車場ニハ晴易キ場所ニ賃錢表及發着時間表ヲ揭示スヘシ

第二十九條 客車ニハ營業中車體内部ニ賃錢表ヲ標示スヘシ

第三十條 營業用自動車ヲ運轉スルニハ一輛毎ニ運轉手、車掌各一名ヲ附スヘシ但シ知事ノ許可ヲ得テ運轉手チシテ車掌ノ業務ヲ兼ネシムルコトヲ得

運轉手ノ免許證ヲ有スル者ニ非サレハ自動車ヲ運轉スルコトヲ得ス

第三十一條 警察官吏ニ於テ必要ト認メタルトキハ行車又ハ停車ヲ禁シ徐行其ノ他行爲不行爲ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條 検査證ハ第一號様式、運轉手車掌免許證ハ第二號様式、車輛番號ハ第三號様式ニ依ル

第三十三條 第五條ノ二第七條第八條第十一條第二項乃至第四項第十六條第十七條第十九條乃至第二十一條第二十三條第

二十四條第二十七條乃至第三十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條第二十五條第三十一條ノ命令又ハ條件ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第三編 保安 第五章 交通、通信 第四款 自轉車、自動車

第三十四條 本則ハ自動車取締令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年二月十五日ヨリ施行)

本則施行前ニ於テ車掌ノ免許ヲ受ケタル者ハ本則施行後三箇月以内ニ本則ニ依リ免許ヲ受ケヘシ

○第一號様式 (用紙厚紙)

自動車検査證							
車輛ノ種類	用途	検査番號	使用者姓名	乗客定員又ハ荷物積載量	検査年月日	及検査官印	
					大正 年 月 日		
					大正 年 月 日		

四寸五分

○第二號様式

三寸五分

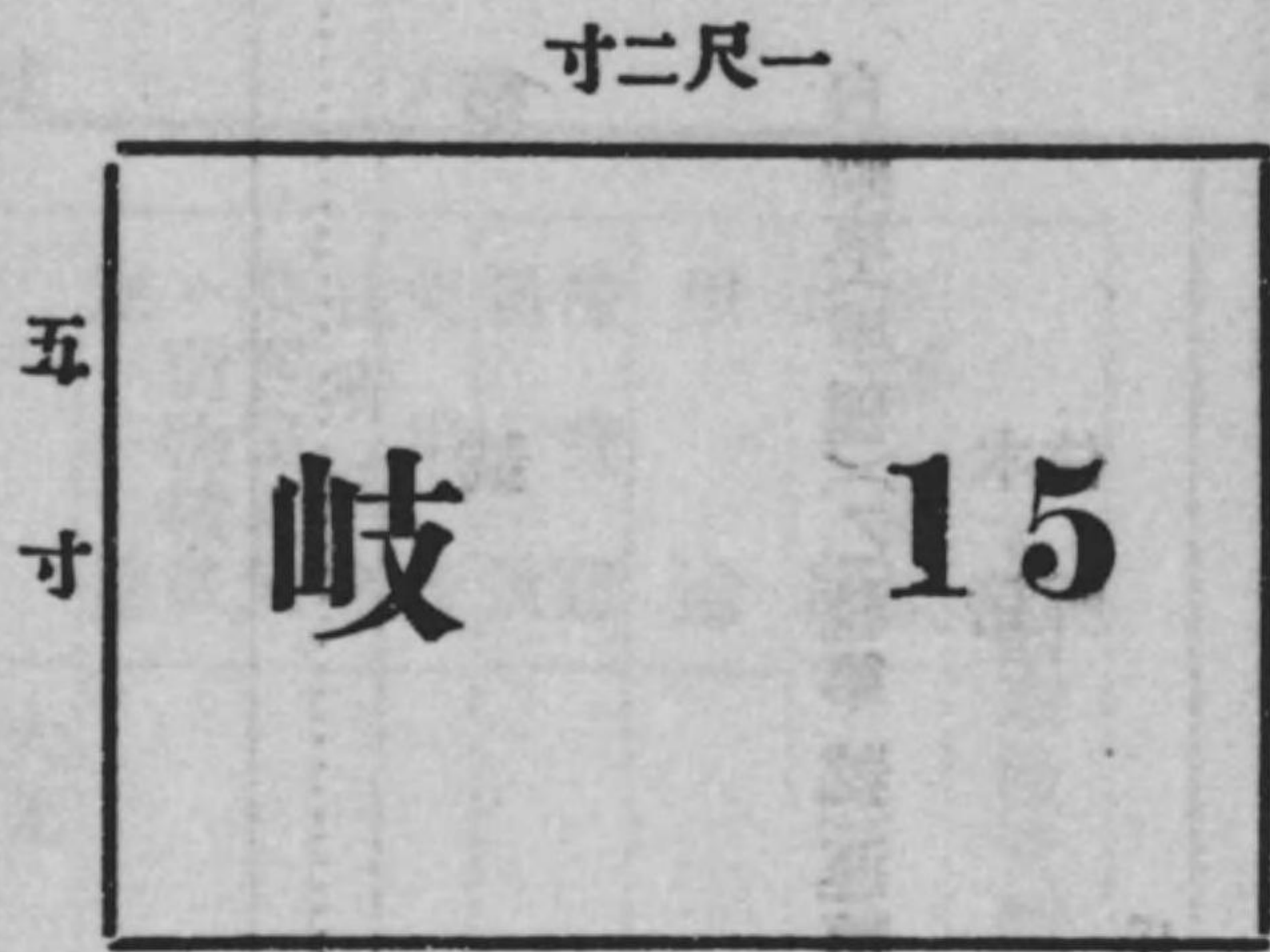
<p>第 號</p> <p>自動車(甲種)(乙種第號)運轉手(車掌)免許證</p> <p>住所籍 氏 生 年 月 日</p>	<p>大正 年 月 日</p> <p>岐 阜 縣</p>
--	------------------------------

第三編 保安 第五章 交通、通信 第四款 自轉車、自動車

裏面					
届出年月日	住所異動	取扱者印			寫 眞
大正 年 月 日					寫 眞
大正 年 月 日					
大正 年 月 日					
大正 年 月 日					
大正 年 月 日					

○第三號樣式

(金屬板)
黒地ニ白字



●自動車取締令施行細則取扱手續

(大正八年二月十二日)
岐阜縣訓令甲第二號

警察部 警察署 警察分署

- 第一條 施行細則第七條ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ支障ナシト認ムルモノハ其ノ事由、路線及日時ヲ記載シタル許可證ヲ交付スヘシ
- 第二條 施行細則第十一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ但シ路線又ハ區間カ他ノ所轄ニ涉ルトキハ關係事項ノ調査進達方移牒スヘシ
 - 一 同條所定事項ヲ具備スルヤ否

- 二 出願人ノ資力、信用ノ程度及起業遂行ノ確否
 - 三 路線又ハ區間カ競願ニ係ルトキハ出願者雙方ノ關係詳細
 - 四 出願ノ路線又ハ區間カ既特許ノ軌道、既免許ノ無軌條式電車又ハ既許可自動車營業路線又ハ區間ニ係ルトキハ是等營業者ニ及ホス影響
 - 五 軌道又ハ無軌條式電車ト競願ニ係ルトキハ永遠ニ涉ル地方交通ノ關係
- 第三條 施行細則第十二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ關係事項ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
 - 第四條 施行細則第十三條ノ願書ヲ受理シタルトキハ營業ヲ繼續スルニ堪ヘサルノ狀態ナルヤ否及廢業ノ止ムヲ得サル事由アルヤ否ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
 - 第五條 施行細則第十四條ノ願書ヲ受理シタルトキハ自動車取締令第十六條第一項各號ニ抵觸セサルヤ否ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
 - 第六條 施行細則第十七條第一項ノ願書ヲ受理シタルトキハ同第十七條各號ニ抵觸セサルヤ否ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
 - 第七條 自動車取締令第二十二條ニ依リ營業ノ免許ヲ取消シ又ハ停止スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ詳具スヘシ
 - 第八條 自動車取締令第二十七條ニ依リ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ就業ヲ停止スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ詳具スヘシ
 - 第九條 施行細則第二十二條ニ依リ車掌ノ免許ヲ取消シ又ハ就業ヲ停止スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事實ヲ詳具スヘシ
 - 第十條 警察部及營業者又ハ使用者ノ所轄警察官署ニ於テハ第一號樣式ノ營業者臺帳、第二號樣式ノ車輛臺帳、第三號樣式ノ運轉手車掌臺帳ヲ備ヘ整理保存スヘシ

○第一號樣式 (用紙美濃紙)

考 備	貨 錢 額	又ハ區間	營業路線	許可番號	種 別	許可年月日廢業 屆出又ハ許可年 月日	住 所	營 業 者
					號	大正 年 月 日	氏 名	營 業 所
				岐阜縣指令保第 號				
			營業所 支店又ハ出張所 在所 駐車場又ハ荷物 積卸場又ハ位置					

○第二號樣式 (用紙美濃紙)

備 考	車 輛 檢 査			車 輛 及 重 量 類	原 動 力 機 力 種 類 及 馬 力 數	動 力 ノ 種 類	番 檢 査 號 證 別	種 別
	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日					
	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日					
	及檢查官印	車輛檢查年月日	乘客ノ定員又ハ 荷物積載量	車 輛 ノ 寸 法	營 業 者 又ハ 商 用 者 住 所 名	長	幅	高
	大正 年 月 日	大正 年 月 日						

種別	免許證番號	免許年月日		本籍	氏名	勤務別
		返納年月日ハ	廢業又ハ			
自動車	第 號	大正 年 月 日				何々會社 ニ被雇中
甲種運轉手	第 號	大正 年 月 日				獨立營業
自動車	第 號	大正 年 月 日				
乙種運轉手	第 號	大正 年 月 日				
自動車	第 號	大正 年 月 日				
車掌	第 號	大正 年 月 日				

● 自動車取締令施行細則取扱手續ニ關スル件

(大正十三年七月二十三日
 保第四九一二號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

- 一 自動車取締令施行細則第四條ノ願書ハ所轄警察署ニ提出スヘキ副本ニ付テハ同條第五項ノ欄面ハ之ヲ省略スルコト
- 二 運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルモノ其再交付ヲ願出タルトキハ之ヲ受理シ支障無シト認ムルトキハ直ニ假免許證ヲ交付シ然後願書進達相成度
- 三 右ノ通御取扱相成度此段及通牒候也

● 自動車事故報告方ノ件

(大正九年八月十八日
 保第八二三五號通牒)

警察部長ヨリ警察官署長宛

自動車取締上必要有之候條事故發生ノ場合ハ左記各項ヲ具シ報告相成度此段通牒候也

記

- 一 事故發生ノ年月日及場所
- 二 營業者及自動車所有者ノ住所氏名又ハ會社名
- 三 運轉手及車掌ノ住所氏名
- 四 車輛番號
- 五 發着地名
- 六 事故ノ狀況
- 七 營業者又ハ所有者カ負傷者ニ對スル待遇ノ狀況

八 責任者刑事訴追ノ願末(處分トナリタルトキハ其旨追報ノコト)

●自動車駐車場(車庫)構造仕様ニ關スル件

(大正十五年八月二十六日
保第一〇八二五號通牒)

警察部長ヨリ各警察署長宛

自動車取締令第十一條ニ據ル營業願書ニ記載スヘキ事項中第五號駐車場(車庫)ノ構造仕様ニ付テハ爾今左記ニ準據セシメ
ラレ度及通牒候也

記

- 一 駐車場(車庫)ノ内壁ハ腰高五尺以上ヲ土壁亞鉛板張り其ノ他不燃質物ヲ以テ圍繞シ柱其ノ他ノ木部ヲ露出セシメサル
コト
- 二 駐車場(車庫)ニシテ其ノ一部ヲ他ノ用途ニ供シ又ハ既設建物ノ一部ヲ駐車場(車庫)トシテ使用スルトキハ駐車場(車
庫)ト他ノ用途ニ供スル部分トチ區別シ適當ナル防火方法ヲ講スヘキコト
- 三 駐車場(車庫)内ニ揮發油其ノ他ノ油類ヲ藏置スルトキハ不燃質物ヲ以テ築造シタル適當ナル藏置所ヲ設クヘキコト
- 四 駐車場(車庫)内ニ適當ナル消火器又ハ消火用砂ヲ設備スヘキコト
- 五 駐車場(車庫)ハ自動車一輛ニ對シ其ノ周圍ニ一尺以上ノ空地ヲ保有セシムヘキコト

●自動車賃錢額許可標準規定ノ件

(大正十五年九月十八日
保第一一六五五號通牒)

警察部長ヨリ各警察署長宛

現今自動車賃錢額許可標準ハ最モ好況時代タリシ大正八年七月ノ規定ニ係ルモノニシテ現時ノ狀態ニ徴スレハ高率タルヲ
以テ種々調査ノ結果今回別表ノ通り許可標準額ヲ規定相成候ニ付テハ爾今出願者ニ對シテハ之カ標準額ニ據ラシメラル

ハ勿論既許可營業者ニ在リテモ右標準額以上高率ナル賃錢ヲ定ムルモノニ對シテハ本年十一月末日迄ニ夫々變更ノ手續ヲ
履行セシメラレ度及通牒候也

追テ右期間中ニ標準額以下ノ賃錢ニ變更スルコトヲ得サル事情アルモノニ對シテハ其ノ事由ヲ詳ニ具申告セシメ意見ヲ
附シ進達相成度申添候

自動車賃錢額許可標準

- 一 乗合自動車賃錢
 - 坦道 二哩四分 (一里) 參拾錢以下
 - 險道 二哩四分 (一里) 四拾錢以下
- 二 貸自動車賃錢
 - 六人乘及箱型五人乘 一時間 四圓以下
 - 五人乘 一時間 參圓五拾錢以下
 - 六人乘及箱型五人乘 一日 參拾圓以下
 - 五人乘 一日 貳拾五圓以下
- 但一日ハ十時間トシ半日ハ此ノ割合トス
- 客待 一時間 壹圓五拾錢以下
- 三 貨物自動車賃錢
 - 重量扱 一貫目 二哩四分(一里) 壹錢五厘以下
 - 容積扱 一立方尺 同 貳錢以下
 - 一噸積 同 貳圓以下
 - 同 六圓以下

同 一日 四拾圓以下

但シ一日ハ十時間トシ半日ハ此割合トス

●自動車運轉手試験規則

(昭和二年四月二十三日 岐阜縣令第四十六號)

第一章 運轉手免許試験

第一條 自動車運轉手免許試験ハ本章ノ定ムル所ニ依リ毎月一回之ヲ行フ但シ事宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ
サイドカー附リヤカー附等特種自動車ノ運轉手試験ハ出願ノ都度之ヲ行フ

前二項ノ試験期日及場所ハ之ヲ受験者ニ通知ス

第二條 自動車運轉手免許試験ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ行ハス

- 一 自動車取締令第十六條第一項第一號又ハ第二號ニ該當スル者若ハ瘋癲病者
 - 二 色盲又ハ視力不良ナル者
 - 三 聽力不良ナル者
 - 四 傳染性疾患アル者
 - 五 生命身體ニ關スル罪、略取誘拐ノ罪、猥褻ノ罪、詐欺恐喝ノ罪、強窃盜ノ罪及自動車取締令並同施行細則違反ニ據リ處罰セラレタル者ニシテ改悛ノ情ナキ者
 - 六 本縣又ハ他府縣ニ於テ運轉手免許ヲ取消サレタル者但シ取消後一年ヲ經過シタル者ニシテ支障ナシト認ムルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 七 粗暴ノ性癖アルカ又ハ素行不良ナル者
 - 八 其ノ他公安風俗ヲ害スル虞アル者又ハ運轉手トシテ不適當ナリト認ムル者
- 前項第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ身體檢査ヲ行フコトアルヘシ

第三條 自動車運轉手免許試験ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 甲種試験
 - 二 乙種試験
 - 三 就業地變更試験
- 甲種試験ハ甲種免許證ヲ乙種試験ハ乙種免許證ヲ得ムトスル者就業地變更試験ハ自動車取締令第二十條ニ該當スル者ニ對シ之ヲ行フ

第四條 自動車運轉手免許試験ハ之ヲ學科試験及實地試験ノ二科目トシ學科試験ニ合格シタル者ニアラサレハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 自動車運轉手免許試験ハ警察官吏並技術官立會ノ上之ヲ行フ

第六條 學科試験ハ關係法規及自動車ノ構造ニ關シ之ヲ行フ

就業地變更試験ニ在リテハ自動車ノ構造ニ關スル事項ヲ省略ス

第七條 關係法規ニ關スル試験ハ左記法令其ノ他運轉手トシテ必要ナル事項ニ對シ筆答セシム

一 自動車取締令

二 自動車取締令施行細則

三 道路取締令

四 道路取締令施行細則

第八條 自動車ノ構造ニ關スル試験ハ自動車各部ノ構造名稱機能及故障ノ兆候原因應急措置並其ノ修理ノ方法等ニ付キ筆答セシム

第九條 實地試験ハ甲種試験ニ在リテハ二種以上、乙種試験ニ在リテハ特定又ハ特種ノ自動車ニ就キ其ノ取扱並操縦上ノ技能ヲ檢定ス

前項ノ自動車ハ當廳ニ於テ之ヲ指定ス

第十條 試験ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ平均六十點以上ヲ合格トス但シ一科目四十點ニ滿タサルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 學科試験ニ合格シ實地試験ニ合格セサル者ニ對シテハ次回ノ試験ニ限り學科試験ヲ免除ス

第十二條 本縣ニ於テ乙種自動車運轉手免許ヲ受ケタル者甲種免許ヲ受ケムトスルトキハ學科試験ヲ省略ス

第十三條 本縣ニ於テ自動車運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ其ノ有効期間經過後引續キ運轉手タラムトスル者ニ對シテハ試験ノ全部ヲ省略スルコトアルヘシ但シ有効期間滿了期日迄引續キ六月間運轉ニ從事セサル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 陸軍自動車隊長、飛行聯隊長、氣球隊長、野戰重砲兵第七聯隊長及第八聯隊長、第一戰車隊長、高射砲第一聯隊長、陸軍歩兵學校長、陸軍野砲兵學校長、陸軍重砲兵學校長、下志津陸軍飛行學校長ノ技術證明書ヲ有スル者（證明ノ日ヨリ一年以内ノ者ニ限ル）ニ對シテハ必要ト認ムル場合ノ外實地試験及自動車ノ構造ニ關スル試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第二章 運轉手考査試験

第十五條 自動車取締令施行細則第二十五條ノ一ニ規定スル試験ハ第三條乃至第十條ノ規定ニ準シ之ヲ行フ

第三章 附則

第十六條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本則施行前出願シタル者ニ對シテハ本則ニ依リ試験ヲ行フ

第五款 船 舶

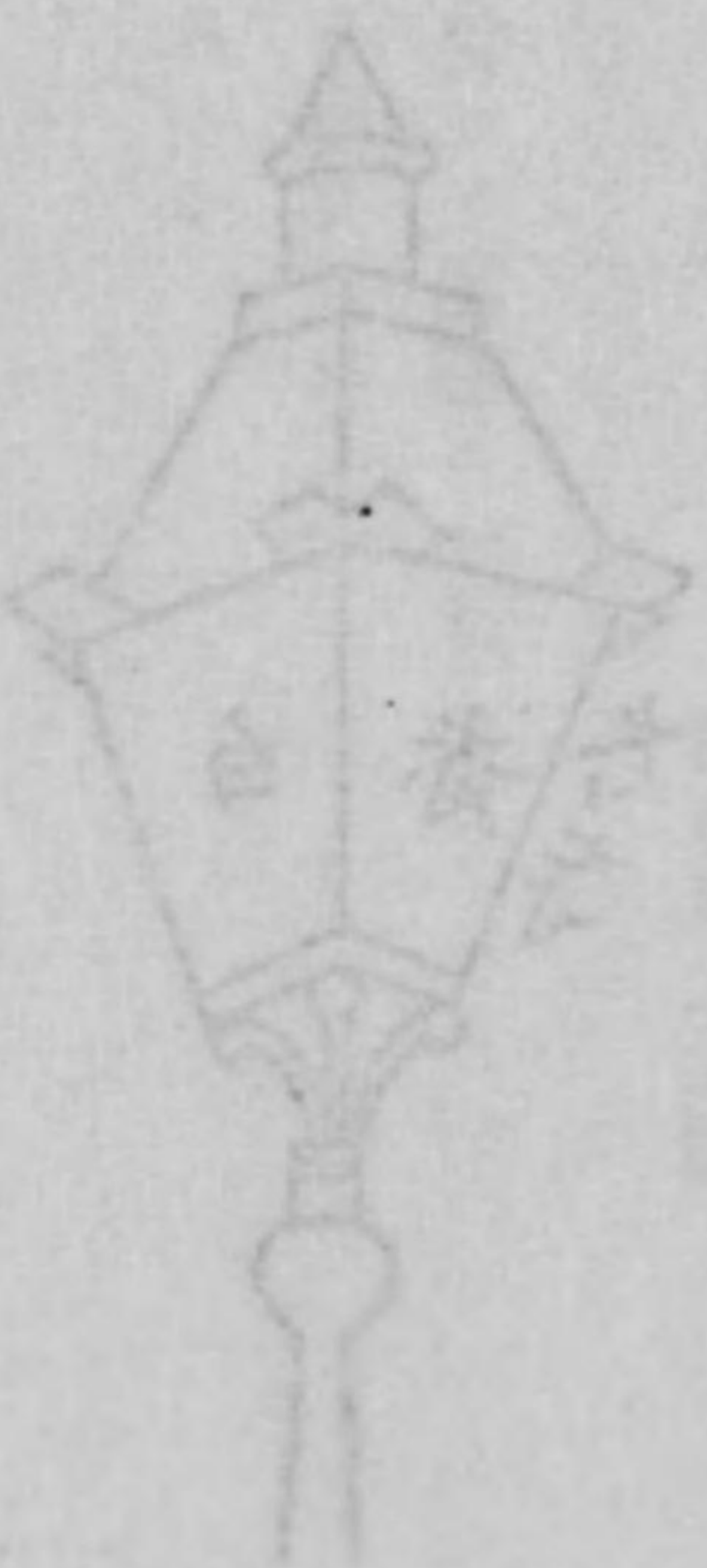
● 乗客船營業取締規則

（明治二十八年五月三日 岐阜縣令第二十七號）

附則 明治三五年六月縣令第三〇號、四二年七月第四四號、四五年七月第三八號改正
乗客船營業取締規則左ノ通之ヲ定ム但シ横越渡船營業者ハ本則ニ依ルノ限ニ在ラス

第一條 乗客船營業（賃錢ヲ得テ荷船ニ人ヲ乗船セシムル者モ含蓄ス）ヲ爲サムトスル者ハ族籍住所氏名年齢及左ノ各項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受ケヘシ

- 一 船籍
- 一 乗客船ノ種類容積
- 一 定製場
- 一 航通スヘキ川名
- 一 發着寄繫ノ場所日時及航回數
- 一 乗載定員（一坪ニ付八人以内貨物ハ十五貫目ヲ以テ一人ニ積算ス）
- 一 船夫ノ定員
- 一 賃錢



相續ニ依リ乗客船ノ營業ヲ繼續スル者ハ免許ヲ受ケタルモノト看做ス
前項ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二條 營業者ハ船夫ヲ雇入レタルトキ又ハ異動アリタルトキハ其ノ住所氏名年齢ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第三條 營業者ハ毎年八月所轄警察官署ニ届出テ船體ノ検査ヲ受ケ其ノ證印ヲ受ケヘシ新ニ營業セムトスル者又ハ船體ヲ

買受讓受修繕ヲ加ヘタルトキハ其ノ都度船體ノ検査ヲ受ケ其ノ證印ヲ受ケヘシ但シ船舶検査法ニ依リ船體ノ検査ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 廢業又ハ廢船シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ニ届出テ検査證印ノ削除ヲ請フヘシ

第五條 營業者ハ乘客ヲ取扱フヘキ場所及船體ニハ發着寄繫ノ場所日時及定員賃錢ヲ揭示シ置クヘシ

第六條 發着寄繫ノ場所外ニ於テ乘客ヲ乗降セシムヘカラス

第七條 營業者ハ袖ニ左ノ標識ヲ掲クヘシ



第八條 營業者ハ乘客ヲ取扱フヘキ場所及船中ニ乘客人名簿ヲ備置キ乘客ノ住所職業氏名及年齡發着寄繫ノ場所日時ヲ記載シ警察官吏ノ點檢ニ供スヘシ

第九條 出水大風等ノ爲メ危險ナリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ其ノ航行ヲ止ムルコトアルヘシ

第十條 何等ノ名義ヲ以テスルモ定員外ノ人ヲ乗載シ若クハ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第十一條 本則第一條乃至第八條第十條ニ違反シタル者及第九條ニ依ル停止ノ命令ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ料科ニ處ス

本則ニ規定シタル違犯行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
第十二條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ依リ之ニ適用スヘキ料科ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル料科ノ刑ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

● 乘客船營業取締規則執行手續

(明治二十八年五月 指示第二六號)

乘客船營業取締規則執行手續左ノ通相定メラル此旨心得ヘシ

- 一 規則第一條ノ願書ヲ受ケタルトキハ調査ヲ遂ケ意見ヲ付シテ進達スヘシ
- 二 規則第三條ノ検査ハ其日ヲ定メ便宜ノ場所ニ於テ之レヲ行フヘシ
- 三 同條ノ検査證ハ左式ニ依リ營業者ヨリ差出サシメ檢印スヘシ

四 寸

第何號
何人乗乘客船
明治二十八年 月 日檢
明治 年 月 日檢
署烙印

- 四 検査證ハ船體見易キ場所ニ釘付セシムヘシ
- 五 警察官吏ハ時時乗客ヲ取扱フヘキ場所並ニ發著寄繫ノ場所ヲ巡視スルハ勿論發著寄繫ノ場所外ニ於テ客ヲ乗降セシムル等ノコトナキヤテ視察シ不取締ナキヲ期スヘシ
- 六 警察署分署ニ於テハ諸臺帳中左式乗客船ノ部ヲ設ケヘシ

年月日	許番	號	船籍	乗客種類	容積	定乘場	定乘員	載員	船夫	營業者住所
										氏名

船舶取締ニ關スル件

名古屋逓信局長ヨリ標記ノ件ニ關シ別紙ノ通り照會有之候條取締上參考ノ爲此段及通牒候也

(大正十五年四月二十三日)
名海第一七號

名古屋逓信局長ヨリ知事宛

凡ソ船舶ハ海洋ヲ航行スル大型船ハ勿論湖川港ヲ航行スル小型船ト雖モ旅客運送、貨物輸送或ハ洩船等用途ノ如何ヲ問ハス總噸數五噸以上ニシテ機械力ニヨリ航行スルモノハ船舶法ニ依リ船舶國籍證書ヲ或ハ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有シ且ツ船舶検査法ニヨリテ船體及機關ノ検査ヲ受ケ尙船舶職員法ニ依リ海技免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘキ規定ニ有之候處近時往々小型船ニシテ一小區域ノ航海ニ從事スルモノアリテハ單ニ縣令ノ取締ヲ受クルノミヲ以テ航行差支ナキモノト誤解スルモノアリ如斯ニシテ一朝事故發生ノ場合ハ及ホス影響少カラス遺憾ノ次第ト被存候ニ就テハ御管下營業者ニ

對シテ行違無之様乍御手数數可然御示達相成様致度及依頼候也

船舶航行取締ニ關スル件

(大正三年二月六日)
保第一三一三號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

船舶乗組員取締方ニ關シ別紙寫之通管船警保兩局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條御所轄内ニ於ケル平水航路航行ノ船舶ニシテ規定外ノ人員ヲ搭載シ因テ人畜ノ危險ヲ醸生スルカ如キコト無之様相當御取締相成度依命此旨及通牒候也

船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘシ

四 平水航路ノミヲ航行スル帆船

第四十八條 航路ヲ分チテ左ノ四種トス

四 平水航路

第五十二條 平水航路トハ湖、川、港内及左ニ掲ケル各區内ノ航路ヲ謂フ(第一區ヨリ第三十區迄アルモ略ス)

穀物運搬ノ解船ニ對スル取締方ノ件

(大正四年三月二十四日)
保第二三五六號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

本件ニ關シ別紙寫ノ通農商務省農務局長ヨリ内務省警保局長ニ申越候旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上爲參考此旨及通牒候也

(大正四年二月十九日)
農第一〇〇二四號

農務局長ヨリ警保局長宛

大日本米穀會幹事長中村富三郎ヨリ大正三年十二月十五日付テ其ノ第七回大會ノ決議トシテ當省ニ建議書ヲ提出シタ

ル事項中ニ左記事項有之候處右ハ各地港灣ニ於テ本船積卸穀物ヲ運搬スル船中包装中ノ穀物ヲ窃ニ抽出シ又ハ繩切レ、亂侵等ニ對シ殊更ニ其ノ穀粒ヲ漏出セシメテ之ヲ拾ヒ取ルカ如キ弊習アルニ對シ一層嚴重ニ水上警察ノ取締ヲ望ム趣旨ニ可有之相當理由アルモノト被認候條爲御參考此段申進候也

記

一 主要穀物ノ取引ノ改善發達ヲ圖ル爲政府ニ於テハ各府縣積出地及荷揚地ニ於ケル穀物船ニ對スル水上ノ取締ヲ一層嚴重ニセラレ度キコト

● 鵜飼遊覽船取締規則

(明治四十三年五月九日 岐阜縣令第十五號)

附則 大正一三年八月縣令第六四號改正

鵜飼遊覽船取締規則左ノ通定ム

- 第一條 鵜飼遊覽ノ目的ヲ以テ船艇ヲ貸付シ又ハ遊客ヲ乗船セシムルヲ以テ營業トナサムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 - 一 本籍、住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其名稱事務所所在地代表者ノ氏名)
 - 二 船體ノ種別、船名、長、幅、乘客ノ定員、船夫ノ員數
 - 三 繫泊所ノ位置
 - 四 營業スヘキ航路ノ區域
 - 五 貸料又ハ乗船賃
 - 六 鵜飼觀覽ニ關シ鵜飼漁業者ト特別ノ契約アルトキハ其契約書ノ謄本
- 第二條 同一地域ニ於テ二以上ノ營業者アルトキハ組合ヲ作り之レカ規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ組合ニ加入セサルモノハ營業ヲナスヲ得ス

第三條

營業用ニ供セムトスル船艇ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其ノ證ヲ受ケルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス前項ノ外營業用船艇ハ毎年五月繫泊所所轄警察官署ノ指定シタル日時場所ニ於テ定期検査ヲ受クヘシ尙警察官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時船體ノ検査ヲ行フコトアルヘシ

船體検査證ハ船内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第四條

遊覽船ニ使用スル船夫ハ船艇ノ操縦ニ熟練ナルモノヲ選ヒ其ノ住所氏名生年月日ヲ具シ營業者ヨリ所轄警察官署ニ届出鑑札ヲ受クヘシ

鑑札ハ之ヲ船夫ニ携帶セシムヘシ

第五條

營業者ハ左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 一 廢業又ハ廢船シタルトキ
- 二 船夫ノ使用ヲ廢シタルトキ
- 三 營業者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキ
- 四 船夫鑑札又ハ船體検査證記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ
- 五 船夫鑑札又ハ船體検査證ヲ亡失毀損シタルトキ

第六條

營業者ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ最寄警察官吏ニ届出ヘシ

- 一 乘客ニ死傷アリタルトキ
 - 二 衝突坐礁其ノ他ノ事項ニヨリ船體ニ甚シキ破損ヲ生シタルトキ
 - 三 橋梁、制水工、測量標、景水標、護岸、根圍杭等ヲ破損シタルトキ
- 第七條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 監督者ナキ十四歳未満者又ハ精神ニ異狀アリト認メタル者ニ船艇ヲ貸與スヘカラス
 - 二 料金以外ノ金錢ヲ收受スヘカラス

三 正當ノ理由ナクシテ客ノ乗船ヲ拒絕シ若ハ定員外ニ客ヲ乗船セシムヘカラス
 四 船夫ヲ附セスシテ船艇ヲ貸與スヘカラス但警察官署ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニアラス
 第八條 船夫ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 定員外ニ客ヲ乗船セシムヘカラス

二 老幼婦女等乗船若ハ上陸ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ加フヘシ

三 酩酊シテ業ヲ執リ又ハ航運中猥リニ飲食スヘカラス

四 不體裁ノ服装ヲ爲シ又ハ粗暴若ハ猥褻ノ言行ヲ爲スヘカラス

五 鵜飼漁船トハ常ニ二間半以上ノ間隔ヲ保チ其ノ漁業ヲ妨碍スヘカラス

六 濫リニ免許區域外ニ航行スヘカラス

七 船艇及附屬品ハ發船前嚴密ニ検査シ若シ破損ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ堅牢ナルモノト取換フヘシ

八 航行中ハ衝突轉覆等ノ過チナキ様注意スヘシ

九 就業中ハ鑑札ヲ携帯スヘシ

十 猥リニ乗客ヨリ金品ヲ收受スヘカラス

十一 前各號ノ外遊船ノ秩序ニ關シテハ警察官ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 一時限リ料金其ノ他ノ報償ヲ得テ鵜飼遊覽ノ爲メ船艇ヲ貸付シ又ハ遊客ノ乗船ヲナサシムトスルモノハ其ノ都度第一條ニ準シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ第四條第六條第七條第八條ノ規定ヲ遵守スヘシ

第十條 警察官ニ於テ危害豫防上必要ト認ムルトキハ遊船ノ航行區域、定員、時間ノ制限若ハ船夫ノ増員變更又ハ發船若ハ航行ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 遊船營業者、船夫ニシテ公安風俗ヲ害シ又ハ組合規約ニ違背シ若シ就業上不適當ト認メタルトキハ之カ許可ヲ

取消シ又ハ鑑札ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 左ノ各號ノ事項ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

一 第一條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條ニ違反シタルモノ

二 第十條ノ命ニ從ハサルモノ

本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタルモノハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

第十三條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ科料ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス但其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニアラス

營業者ハ其ノ代理人ト主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カラルコトヲ得但第七條ノ場合ハ此限リニアラス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル科料ノ刑ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十四條 本則第一條第三條乃至第八條及第十條乃至第十三條ノ規程ハ鵜飼遊覽ノ目的ニ非スシテ船艇ヲ貸付シ又ハ客ヲ乗船セシムル者ニ之レヲ準用ス

● 鵜飼遊覽船取締規則取扱手續

(明治四十三年五月十四日 岐阜縣訓令乙第百十二號)

第一條 規則第一條ノ願書ヲ受ケタルトキハ出願人ノ身元ヲ調査シ性行善良ニシテ船體其ノ他支障ナシト認ムルモノニ限リ許可ヲ與ヘ第一様式ノ原簿ニ記載スヘシ

乗載定員ハ一坪(方六尺)八人ノ割ヲ以テ計算スヘシ但十二歳以下ハ二人ヲ以テ一人ト見做ス

第三編 保安 第五章 交通、通信 第五款 船舶

- 第二條 規則第二條ノ規約ニ對シ認可ヲ與ヘムトスルトキハ意見ヲ附シ警務長ノ指揮ヲ受ケヘシ
- 第三條 規則第三條ノ検査證ハ第二様式ニ據ルヘシ
- 第四條 規則第四條ニヨル船夫使用届ヲ受ケタルトキハ體格及身元ヲ調査シ左ノ事項ニ該當セサルトキハ第三様式ノ鑑札ヲ下付スヘシ
 - 一 白痴、癲癩、其他ノ不具者
 - 二 六十歲以上十八歲未満ノ者
 - 三 身體強壯ナラサル者
 - 四 船艇操縦ノ技術ナキ者
 - 五 素行不良ニシテ性質粗暴ナル者
 - 六 酒癖其他ノ惡癖アル者
 - 七 傳染性疾患アル者
- 第五條 規則第十條ノ制限若ハ停止ヲ命シタルトキハ直ニ其事情ヲ具シ警務長ニ報告スヘシ
- 第六條 規則第十一條ニ依リ許可ヲ取消シ又ハ鑑札ノ失効ヲ命スルノ必要アリト認ムルトキハ其狀況ヲ詳記シ知事ニ具申スヘシ

第一様式 (用紙美濃紙)

船		航行區域	船艇位置	船艇泊置	年廢月日	營業許可年月日	船名	長幅	坪數	乘員	船夫
鑑札番號及下付年月日	解雇届出年月日									定員	定員
	住所氏名		者ノ概要	鵜飼漁業	乘船賃	貨料	船名	長幅	坪數	乘員	船夫
	夫										
	船										

第三編 保安 第五章 交通、通信 第五款 船舶

第三編保安 第五章交通、通信 第五款船舶
第二樣式 定刻用紙

名	船 檢				號	人船 員夫	定乘 員載	者所 名有	檢 查 證
	日	月	年	年					
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日					
何 警 察 署 印	日	日	日	日					

六寸

五寸

第三樣式 木質適宜

第 號

○ 鵜飼遊覽船船夫鑑札

營業者氏名(又ハ會社名)雇人

住 所

氏 名

生年月日

二寸三分

明治 年 月 日

○ 岐阜縣何警察署

印烙

第三編保安 第五章交通、通信 第五款船舶

第六款 航空

●航空法

(大正十年四月九日
法律第五十四號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、凧、航空船及飛行機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一 日本國又ハ日本ノ公共團體

二 日本臣民

三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責

任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ

四 前號ニ掲クル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ

關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ニ付行政官廳ノ檢定ヲ受クヘシ

堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ
一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ
一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解散セラレタルトキ
三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解散セラレタルトキ

三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時に抹消登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登録證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乘員

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

八百六十三

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

八百六十四

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乗シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乗員ハ技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技術證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技術證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乗員ハ技術證明書及航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乗シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シ共同シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ從事セサルトキ 第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日没前ニ限リ他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者運滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他ハニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

八百六十五

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空ニ於テ「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ掲クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スル

モノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査處分及處罰ニ付テ之ヲ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機力故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ他ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ遲滞ナク届出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付テ之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 航空機ニ備付クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基

キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ク
ルコトヲ得

第七章 罰則

第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效タラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危険ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル
者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ罰金ニ處ス

第五十三條 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ檢査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千
圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第十一條ノ檢査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若
ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタ
ル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依リ制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依リ禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三
條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ
懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ
氏名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登録證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項
ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

八百六十九

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル場航證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタル者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●航空取締規則

(大正十年三月十八日 陸軍、内務省令)

第一條 本令ニ於テ航空機ト稱スルハ飛行機、航空船及氣球ヲ謂フ

第二條 航空機ト稱スルハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、航空機ニ付離陸又ハ著陸ト稱スルハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第三條 航空機ヲ航空ノ用ニ供セムトスルトキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ逡信大臣ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ

逡信大臣ハ前項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテ其ノ航空定期及積載量ヲ定メ場航證明書ヲ交付ス

場航證明書ノ有効期間ハ六月以内トス

前項ノ有効期間満了前航空機ノ再検査ヲ願出テタルトキハ逡信大臣ハ其ノ有効期間ヲ再検査ノ日ヨリ起算シ更ニ六月以内ニ於テ延期スルコトアルヘシ

場航證明書ハ航空機ノ操縦席附近ニ之ヲ標示スヘシ

第三條 航空機ハ前條ノ検査ニ合格シタルモノニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス但シ試験ノ爲メ地方長官ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル場所ノ上空ニ於テ航空スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機ニハ逡信大臣ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ標識ヲ附シ且所有者又ハ管理者ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ表示スヘシ

第五條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者又ハ管理者ハ逡信大臣ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ航空機ノ日誌ヲ備付ケ

所有者若ハ管理者又ハ操縦者ニ於テ之カ記入ヲ爲スヘシ

第六條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者若ハ管理者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ逡信ナク其ノ旨逡信省ニ届出ツヘシ

第七條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機ヲ讓受ケ若ハ相續シタル者又ハ其ノ航空機ノ管理者ト爲リタル者ハ逡信ナク其ノ旨逡信省ニ届出ツヘシ

第八條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機滅失シ若ハ破壊シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ逡信ナク其ノ旨逡信省ニ届出テ場航證明書ヲ返付スヘシ

第九條 第二條ノ検査ニ合格シタル航空機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ逡信大臣ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ

一 機體又ハ發動機ヲ變更シタルトキ

二 機體又ハ發動機ノ要部ニ變更ヲ加ヘタルトキ

第三編 保安 第五章 交通、通信 第六款 航空

八百七十一

第十條 遞信大臣ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十一條 遞信大臣ハ前二條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ其ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ航空機ノ所有者又ハ管理者カ前條ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ故ナク忌避シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ使用ノ制限又ハ停止ヲ命セラレタルトキハ遲滯ナク堪航證明書ヲ提出シ禁止ヲ命セラレタルトキハ遲滯ナク堪航證明書ヲ返付スヘシ

第十二條 航空機ノ操縦士タラムトスル者ハ遞信大臣ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ
遞信大臣免許ヲ與フルトキハ別ニ定ムル所ニ依ル操縦士免狀ヲ交付ス

第十三條 遞信大臣ハ操縦士ニ對シ必要アルトキハ其ノ能力ノ試験ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 操縦士ニ非サレハ航空機ヲ操縦スルコトヲ得ス但シ練習ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル場所ノ上空ニ於テ操縦シ又ハ操縦士ト同乘シ共同シテ操縦スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 操縦士左ツ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ其ノ就業ノ制限若ハ停止ヲ命シ又ハ免許ノ取消ヲ爲スコトアルヘシ

- 一 第十三條ノ試験ニ依リ操縦士タルノ能力ヲ闕クト認メタルトキ
- 二 第十三條ノ試験ヲ拒ミ、妨ケ又ハ故ナク忌避シタルトキ
- 三 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者ト爲リタルトキ
- 四 航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ
- 五 公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ
- 六 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
- 七 前各號ノ外操縦士タルニ適セスト認メタルトキ

前項ノ規定ニ依リ就業ノ制限又ハ停止ヲ命セラレタルトキハ遲滯ナク操縦士免狀ヲ提出シ就業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ遲滯ナク操縦士免狀ヲ返付スヘシ

第十六條 操縦士其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク操縦士免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第十七條 操縦士就業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨遞信省ニ届出テ操縦士免狀ヲ返付スヘシ

第十八條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケサル場所、水上ニ在リテハ地方長官ノ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得ス但シ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ航空機ヲ著陸セシメタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ理由ヲ具シ遲滯ナク警察官署又ハ警察官吏ニ申告スヘシ

第十九條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 地方長官ハ保安上必要アルトキハ場所ヲ指定シテ航空ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十一條 飛行機ハ人家ノ稠密スル市街地ノ上空ニ在リテハ離陸及著陸ノ場合ヲ除クノ外千「メートル」以上ノ高度ヲ保ツニ非サレハ航空スルコトヲ得ス

第二十二條 危険ヲ生スル虞アル物件ハ航空機ヨリ之ヲ投下スルコトヲ得ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ主催者又ハ當該航空機ノ操縦士ハ豫メ其ノ航空ノ日時、場所其ノ他計畫ノ概要ヲ具シ遞信大臣ニ願出テ其ノ認可ヲ受クヘシ

一 二百「キロメートル」以上ノ無著陸又ハ連續航空ヲ爲サムトスルトキ
二 航空競技ヲ爲サムトスルトキ

第二十四條 本令施行地外ヨリ本令施行地内ニ航空セムトスル者ハ其ノ航空機ノ種類、堪航證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫、出發地、經過地、到着地、發着ノ日時及操縦者ノ氏名並其ノ操縦士免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫ヲ具シ遞信大臣ニ願出テ其ノ認可ヲ受クヘシ

臣ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ本令施行地内ヨリ本令施行地外ニ航空セムトスル者亦同シ

第二十五條 航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ狀況ヲ具シ遲滞ナク警察官署又ハ警察官吏ニ申告スルシ

第二十六條 航空機ノ堪航證明書又ハ操縦士免狀ヲ亡失シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨逋信省ニ届出ツヘシ

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第二項ノ規定ニ依ル航空定限ニ違反シ又ハ其ノ積載量ヲ超エテ人又ハ物件ヲ搭載シ航空シタル者

二 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三 第十條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル検査又ハ試験ヲ拒ミ又ハ妨ケタル者

四 第十一條第一項ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者

五 操縦士ニシテ當該操縦士免狀ノ認ムル制限ヲ超エテ操縦シタル者

六 第十五條ノ規定ニ基ク制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

七 第二十條ノ規定ニ基ク航空ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者

八 第三條、第十四條、第十八條第一項、第十九條、第二十一條、第二十二條又ハ第二十四條ノ規定ニ違反シタル者

第二十八條 左ノ各號チ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 航空機ノ日誌ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

二 第二條第五項、第四條、第五條、第十二條第三項、第十八條第二項、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者

三 故ナク第十條又ハ第十三條ノ検査又ハ試験ヲ受クルコトヲ忌避シタル者

第二十九條 第六條乃至第八條、第十一條第二項、第十五條第二項、第十六條、第十七條又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十條 本令ニ規定スル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附則

第三十一條 本令ハ大正十年三月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本令施行ノ際現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一月内ニ第二條ノ規定ニ依ル検査ヲ願出ツヘシ

前項ノ検査ヲ願出テタル航空機ハ其ノ検査ヲ終了スル迄引續キ之ヲ使用スルコトヲ得

第三十三條 本令施行ノ際現ニ航空機操縦者タル者ハ本令施行ノ日ヨリ一月内ニ第十二條ノ規定ニ依ル免許ヲ願出ツヘシ

前項ノ免許ヲ願出テタル者ハ其ノ許可ノ處分アル迄航空機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

●飛行機ニ對スル一般公衆注意ノ件

(大正八年十一月四日 保第一一五七一號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

飛行機ニ對スル危險豫防ノ爲メ一般内知方ニ付別冊ノ通り航空第二大隊長ヨリ照會有之候條可然御取計可相成此旨及通牒候也

第一章 觀覽ニ就テノ注意

第一 飛行場附近ニ於テ飛行ヲ觀覽セムトスル者ハ係員ノ指示スル場所ニ於テスルハ勿論飛行機ハ離陸若クハ着陸ニ際シ地面ニ接シテ長ク低空ヲ飛行シ其ノ離着陸ノ方向ハ常ニ危險ヲ伴フコト多キヲ以テ可成該方面ニ位置セサル如ク注意スヘシ

通常飛行機ハ風向ニ正對シテ離陸若ハ着陸スルモノトス

第二 飛行機ハ着陸又ハ離陸ノタメ最少限長サ約四町幅約二町ノ地積ヲ要スルヲ以テ此區域内ニハ假令標示若クハ警戒員ノ配置ナキ場合ト雖モ絕對ニ立入ラサルヲ要ス若シ一人タリトモ此地域内ニアルトキハ操縦者ハ之ヲ避ケン爲メ操

縦ニ困難ヲ感シ其結果不慮ノ災害ヲ招キ若ハ飛行ヲ不可能ナラシムルコトアレハナリ

第三 飛行機、同格納庫並ニ油庫ノ近傍ニ於テ喫煙若クハ點火ヲ禁ス

第二章 飛行機ノ不時着陸ニ對スル

注意

第一 飛行機着陸ノ状態ニアルヲ認メタルトキハ近傍ニアル者ハ成シ得ル限り着陸ノ爲メ空地ヲ設クルコトニ努ム可シ

(第一章第一、第二參照)之カ爲メ速ニ着陸方面ヲ避ケテ一測ニ退去スルカ若クハ最近ノ障害物(林木、家屋、堤防、溝渠等)ニ近接スルヲ要ス若シ之ヲ避クルノ暇ナキトキハ直ニ其位置ニ伏臥ス可シ如何ナル場合ト雖モ四散混亂ス可カラス是レ操縦者ノ着陸位置撰定ヲ困難ナラシメ却テ操縦者ハ勿論觀覽者ニモ危害ヲ及ホスコトアレハナリ

飛行機ノ著陸ハ概ネ左ノ状態ニ依リ之ヲ豫知スルコトヲ得可シ

- 一 飛行機カ其他ノ上空ニ於テ漸次降下シツツ數回圓形ニ飛行ヲナストキ
- 二 發動機ノ爆音不規則ナルトキ又ハ停止セルトキ
- 三 螺旋機緩徐ニ回轉スルトキ又ハ停マルトキ
- 四 其他明ニ降下ノ状態ヲ示セルトキ

第三章 飛行機不時着陸ニ際シ地方官民ニ依頼ス可キ事項

第一 飛行機不時着陸セルトキハ最初ニ之ヲ發見セルモノハ速ニ最寄警察署、町村役場、在郷軍人分會又ハ青年會ニ通知シ左ノ處置ヲ採ラレンコトヲ希望ス

- 一 飛行機不時着陸ノ件ヲ當大隊、最寄軍隊若クハ憲兵隊ニ電報電話又ハ急使ヲ以テ通報スルコト
- 但シ其通報ハ左ノ要旨ニ依ラレタシ

軍用飛行機第何號何日午前(後)何時何分何郡何町(村)西方約何町畑(田、森)地内ニ着陸ス搭乗者無事(或ハ重輕傷等)

注意 飛行機番號ハ飛行機ノ方向舵ニ大書シアリ

二 搭乗者若シ負傷セル場合ハ速ニ最寄醫師ヲ迎ヘ手當ヲ加フルコト

三 搭乗者ニ對シ警戒、通信及修理等ノ便宜ヲ與フルコト

四 搭乗者所用ノタメ飛行機ノ所在地ヨリ去ル場合ハ搭乗者ノ依頼ニ應シ飛行機ノ警戒及取締ニ任スルコト

五 前項警戒ノタメニハ左ノ事項ニ特ニ注意スルコト

何人ト雖モ搭乗者ノ許可ナク機體ニ手ヲ觸レシメサルコト

機體ノ周圍ハ繩等ヲ以テ圍チナシ何人ト雖モ其内部ニ立入ラシメサルコト

機體ノ近傍ニテ喫煙若クハ點火ヲ禁スルコト

風強キ場合ハ搭乗者ノ指示ニ依リ機體ヲ地上ニ固定スルコト

降雨甚シキ場合ハ要部(發動機、螺旋機、匡等)ニ雨覆ヲ設ケルコト

六 飛行機ニ破傷アルトキハ速ニ搭乗者ニ對スル處置ヲ施シタル後機體ハ現状ノ儘トシ決シテ之ニ手ヲ觸レサルコト

是レ原因調査ヲ容易ナラシメンカ爲メナリ

第二 飛行機不時着陸ニ際シ萬一火災ヲ發シタル場合ハ土砂ヲ撒キ消火ニ努メ決シテ水ヲ注グ可カラス

第三 第一項ノ通知ヲ受ケタル地方官公吏又ハ公共團體ハ可成速ニ至急電報又ハ電話ヲ以テ當大隊宛通報セラレンコトヲ望ム

●民間航空機ノ事故調査ニ關スル件

(大正九年十一月十五日 保第九八〇〇號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

民間航空機ノ墜落其ノ他重大ナル事故發生シタル場合ハ之カ原因調査ノ必要有之趣ヲ以テ航空局長官ヨリ依命通牒ノ次第

預有急候條左記ニ依リ措置相成度此段依命通牒候也

左記

- 一 事故發生ノ場合ハ直接其概要ヲ航空局ニ電報シ一面當部ヘ電話速報スルコト
 - 二 航空局ハ前項ノ電報ニ接シタルトキハ原因調査ノ爲メ直チニ事務官又ハ技師ヲ派遣セララルヘク若シ派遣セラレサルトキハ其旨返電シ且航空機事故調査表ヲ送付セラルヘキニ付出來得ル限り原因ヲ調査シ之ヲ該調査表ニ記入シ尙成ルヘク寫眞ヲ附シ速ニ航空局ニ送付スルコト
 - 三 航空局事務官又ハ技師方現場ニ到達スル迄ハ傷害救護ノ爲メ必要アルモノヲ除クノ外器械ハ成ルヘク現状ノ儘存置スルコト
- 若シ止メテ得サル事由ニ依リ前項事務官又ハ技師ノ到達前之カ處置ヲ爲ス必要アル場合ニハ寫眞撮影其他ノ方法ニ依リ努メテ原因調査ノ參考資料ヲ蒐集保管スルコト

第七款 通信

●郵便法 (抄録)

(明治三十三年三月十三日 法律第五十四號)

附註 明治四〇年三月法第七號、大正五年六月第一七號改正

- 第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス
- 第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス
- 第三條 運送營業者、其ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス
- 第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ
- 第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ
- 第七條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ少シ通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第八條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得
- 第九條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十條 差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

- 第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役及千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
- 第四十二條 何人ト雖第三條ノ場合ニ於テ郵便物ノ運送ヲ拒ミ又ハ其ノ運送ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 郵便事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 本條ノ罪ハ告訴ヲ待テテ論ス

●郵便物包裝規則

(明治四十二年十月二十七日)
逓信省令第五十號

- 附則 大正四年八月逓信省令第三三號、五年十一月同第五九號改正
- 第一條 郵便規則第十二條ニ依ル郵便物ノ包裝ハ特ニ定ムル場合ノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 郵便物ハ其ノ遞送距離、容積、重量及内品ノ性質等ニ應シ摩擦、壓迫、動搖、乾燥、浸濕等ニ耐ヘ内容ヲ保護シ且他ニ損傷ヲ與ヘサル様適當ニ之ヲ包裝スヘシ
- 第三條 無封書狀、定期刊行物、書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖ハ開封ト爲シ又ハ帶紙若ハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雛形、博物學上ノ標本、農産物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ蓋ニ納ムル等容易ニ内容ヲ検査シ得ヘキ様包裝スヘシ但シ蠶種ハ郵便局ノ承認ヲ承ケテ之ヲ密封スルコトヲ得
- 第四條 小包郵便物ハ強靱ナル紙若ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ又ハ箱若ハ罐等ニ入レ毀損セサル様包裝スヘシ但シ品實形狀ニ依リ其ノ儘第二條ノ目的ヲ達シ得ヘキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ妨ケス

同一郵便區市内ニ發著スル價格表記以外ノ小包郵便物ニシテ取扱上差支ナキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ得

數箇連接シタル郵便區市内ハ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス

- 第五條 郵便物ノ保護ニ關シテハ前各條ニ依ルノ外包装上尙左ノ事項ニ注意スヘシ
 - 一 帶紙ハ遞送中最モ損傷シ易キニ依リ特ニ紙質ノ強靱ナルモノヲ使用スルコト
 - 二 蓋紙ナキ寫眞、畫、圖等ニシテ平面ノ儘ナルモノハ厚紙又ハ板等ニ挟ミテ差出スコト
 - 三 二箇以上ノ物件ヲ合裝スルトキ又ハ郵便物自體ノ重量ニ依リ包裝ヲ破損シ脫離スルノ虞アルモノハ麻絲等ヲ以テ十字形ニ結束スルコト
 - 四 汽車ノ便ナキ陸路又ハ水路ヲ經テ遠隔ノ地ニ達スヘキ郵便物ハ特ニ堅固ニ包裝スルコト
- 第六條 價格表記郵便物ハ其ノ封シ目ニ別ニ定ムル價格表記郵便物封緘紙ヲ貼附シ其ノ封緘紙ト封皮トニ掛ケテ鮮明ニ封印スヘシ
- 第七條 通貨ヲ封入スル價格表記通常郵便物ハ適當ニ包裝シ尙之ヲ別ニ定ムル價格表記郵便物封皮ニ納ムヘシ
- 第八條 鋒刃其ノ他之ニ類スル物件ハ適當ノ鞘ニ藏メ又ハ其ノ危險ノ部分ヲ覆ヒテ之ヲ箱ニ藏ムル等外覆ヲ毀損セサル様包裝スヘシ
- 第九條 流動體又ハ熔融若ハ潮解シ易キ物及臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ壘又ハ罐ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密封シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ
- 容易ニ熔融又ハ潮解セサルモ尙熔融若ハ潮解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件ハ防水布又ハ澁紙ノ類ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝スヘシ
- 第九條ノ二「セルロイド」及其ノ製作品ハ一箇毎ニ紙包ト爲シ尙各箇ノ動搖摩擦ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲シタル上堅固ナル木製又ハ金屬製ノ箱ニ藏ムヘシ

前項ノ郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「セルロイド」ト朱書スヘシ

第十條 危險性ノ藥品ハ官公署、軍隊、海軍艦船艇、軍衛、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師、製業者若ハ藥種商又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得但シ爆發性及發火性ノ藥品ハ此ノ限ニ在ラス

一 藥品ノ種類ニ應シ一定ノ容器ニ藏メ内品ノ漏出ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲スコト

二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル機堅固ナル箱ニ納ムヘキコト

三 内容ノ動搖ヲ防ク爲容器ト外箱トノ間隙ニ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト

四 二種以上ノ藥品ヲ合裝セサルコト

第十一條 生活セル病原菌及病原菌含有ノ疑アル検査材料ハ官公署、官許ヲ受ケタル細菌検査所、醫師、獸醫又ハ特別ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得

一 少許ノ分量ヲ一定ノ硝子壺、硝子管又ハ竹筒ニ納メ護謨栓ヲ施シ蓋帽ヲ以テ該栓ヲ固定シ又ハ管口ヲ溶閉シ内容ノ漏出ヲ防クコト

二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル機綿其ノ他ノ柔軟ナル物體ヲ以テ之ヲ被包シ鐵葉製若ハ金屬製ノ罐又ハ竹筒ニ入レ密封シ更ニ之ヲ堅固ナル箱ニ藏ムルコト

三 内容ノ動搖ヲ防キ且萬一破損スルモ其ノ液體ヲ吸收セシムル爲前號ノ罐又ハ竹筒ト箱トノ間隙ニ適當ノ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト

第十二條 第十條及第十一條ノ郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「危險物」ト朱記シ且差出人ノ資格ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十二月 遞信省令第五十七號ハ之ヲ廢止ス

● 通信事業専用車輛ニ關スル警察取扱方ノ件

(大正十三年十一月十九日 保第七四六一號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

通信事業専用車輛ニ警察取締法規適用ノ有無ニ關シ遞信省通信局長ヨリ照會有之候ニ付キ警察法令ハ官廳ニ對シテハ適用無之モ其適用ナキテ理由トシテ規定條項ニ違反スルノ行爲ヲ遂行スヘカラサルハ言ヲ俟タサル處ニ有之從テ自動車取締令其他之ニ類似ノ取締法令ニ付テハ交通事故類發スルノ近況ニ顧ミ交通保全上官廳亦其規定條項ニ準據セラレルコトヲ特ニ希望スル旨及回答候處郵便物遞送用サイドカー、リヤカー附自動車乘務遞送人ニ當省令自動車取締令ニ依ル運轉手免許證ヲ受有セシムルニ於テハ給與ノ厚キ他方面ニ赴クノ傾向ヲ生シ支障少カラサル趣ヲ以テ事情申越シ次第有之候ニ付遞信省ニ於テ交付シタル伎倆證明書ヲ以テ運轉手免許證ニ代フル件其他ニ關シ左記ノ通り協定致候間右ニ御承知相成度尙本件ハ伎倆證明書附與ノ件ハ急速準備致候得共之カ實施ニハ多少ノ日子ヲ要スル趣ニ有之候間別ニ通牒スヘキ實施期日迄ハ從來ノ通り被差置候様願度右申進候也

記

一 郵便物遞送用「サイドカー」「リヤカー」附自動車乘務遞送人タルヘキ者ニハ遞信省ニ於テ相當期間練習ヲ行ヒ考查上合格シタル者ニ對シ別紙雛形ノ伎倆證明書ヲ附與スルコトト爲シ之ヲ有スル者ハ自動車取締令ニ依ル運轉手免許證ヲ要セサルコト

二 伎倆證明書ハ遞送人ヲシテ常時之ヲ携帯セシメ規則違反ノ事實ヲ發見シタル場合ニ於テハ警察官ニ於テ之カ提示ヲ求ムルコトト爲シ一面當該警察官憲ヨリ之ノ事實ヲ遞信省ニ内報シ同省ニ於テハ相當戒備ノ方法ヲ講スルコト

三 遞信官省ニ於テ自動自轉車、自轉車ヲ通信事業専用トシテ設備スルトキハ車體適當ノ箇所ニ⑤ノ徽章及局整理番號ヲ表示シ其旨所轄警察官署ニ通知スルコト

第 號	何郵便局	遞送人 何 某	生年月日
自動自轉車運轉伎倆證明書		局 印	大正 年 月 日
面 割 印			
遞 信 省			

- 一 周圍ニハ花紋ヲ施ス
- 二 用紙色合ハ白色若ハ卵色トス
- 三 大サハ大體本雛形ノ通トス
- 四 本書裏面ニハ自動自轉車運轉上ノ注意事項ヲ印刷ス

●通信事業専用車輛ニ關スル件

(大正十三年十二月五日) 保第八〇〇三號通牒

警察部長ヨリ各警察官署長宛

首題ニ關シ客月十九日付保第七四六一號ヲ以テ及通牒候處今回別紙寫ノ通り名古屋遞信局長ヨリ申越候條爲參考及通牒候也

名古屋遞信局長ヨリ知事宛 大正十三年十一月二十四日 名監察第三九〇三號

本件車輛記番號表示方ニ關シテハ豫テ御協議ノ次第モ有之候處十月二十四日名監察第三五五三九號照會ノ通り這般遞信省內務省間ニ於テ纏リタル協議ニ基キ左記ノ趣旨管内通信官署ニ通牒置候條御了知置相成度候

記

- 一 一、二等郵便局、電信局、電話局及特定三等郵便局ニ對シテハ遞信省制定自轉車設備規程ノ關係モアリ車體前部ニ遞信省徽章ヲ表示シ車體後部見易キ所ニ其ノ局名及整理番號ヲ表示スルコト
- 二 普通三等郵便局ニ對シテハ車體後部見易キ所ニ⑤遞信省徽章及其ノ局名整理番號ヲ表示スルコト
- 三 前記整理番號ハ當該通信官署ヨリ所轄警察署ニ通知スルコト

●電信法 (抄錄)

(明治三十三年三月十四日) 法律第五十九號

附 大正五年三月法第一九號改正

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆電信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵

第三編 保安 第五章 交通、通信 第七款 通信

ヲキ宅地出畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ
第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 不法ニ電信、電話ヲ施設シ又ハ不法ニ施設シタル電信、電話ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ二 主務官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ撤去ヲ命シタル場合ニ於テ期間内ニ之ヲ撤去セサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

撤去ヲ命セラレタル私設ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者亦同シ

第二十八條 私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニ非スシテ之ヲ使用シノル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

私設ノ電信又ハ電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條ノ二 第二十七條、第二十七條ノ二第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十九條 第三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信、電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ鐵道用地、停車場建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ停車場建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不法ニ電信、電話ニ關スル料金を免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信又ハ電話ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シタル者

ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十四條 (削除)

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交

付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルト

キハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信若ハ電話ニ依ル通信ヲ障礙シ又ハ之ヲ障礙スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ掛ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ墜キ又ハ之ヲ汚穢シタル者

ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ
第四十一條 第二十七條、第二十七條ノ第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

●軍事ニ關スル機密事項暗號電報ノ件

(大正三年九月九日
保親第四四號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

暴風雨其ノ他ノ電報中例ヘハ「汽車不通」ナリタル爲軍隊ノ輸送一時中止トナレル等軍事ニ關スル事項ハ機密ヲ要スル場合多所有之ニ付此等ノ事項報告ハ電報ハ括弧内ニ暗號ヲ用ヒ記入シ又電話ニ依ルトキモ暗號ヲ以テ報告相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及通牒候也

●無線機器不法施設取締ニ關スル件

(大正十三年四月十二日
保第一八八一號通牒)

警察部長ヨリ各中等學校長宛

無線機器不法施設取締ニ關シ名古屋逓信局長ヨリ別紙寫ノ通依頼有之候條違反ナカラシムル様相當御留意相成度此段及通牒候也

名古屋逓信局長ヨリ知事宛 (大正十三年三月二十六日
名監話第一〇〇七八號依頼)

最近學生生徒其他ノ者ニ於テ許可ナクシテ無線機器ヲ施設スルモノ往々有之官用、商業用等ノ無線通信ニ對スル混信又ハ其秘密保持上頗ル感心スヘキ事態ト認メラレ候處不法施設ニ關シテハ大正四年法律第二十六號無線電信法第十六條ニ依リ嚴重ナル制裁ヲ規定セラレ一面ニ於テ無線科學ノ研究又ハ機器ノ實驗ヲ實際上必要トスル者ニ對シテハ同保第二條第五號ニ依リ私設出願ノ途ヲ有シ又單ニ聽取ヲ目的トスル者ハ近ク大正十二年十二月逓信省令第九十八號ニ依リ放送無線電話ノ實施ヲ見ルニ於テハ容易ニ其ノ希望ヲ達成シ得ヘキモノナルニ不知ノ故ヲ以テ禁令ニ觸ルルモノヲ生スルニ於テハ甚ダ遺憾ニ有之ニ付曩ニ左記通牒要領ノ通逓信次官ヨリ文部次官宛注意方依頼シ置キタルヲ以テ自然貴廳ニ對シ己ニ相當ノ通達アリシ義トハ思料スルモ尙此際貴管下諸學校及學生々徒ニ對シ本件ニ關スル警告ヲ發セラルル様御配意相成度尙無線機器ノ製造販賣ニ付テハ現在別段ノ取締規定無之モ販賣業者中ニハ賣付ニ急ナル餘リ不法施設ニ陷ルヘキコト判然セル場合ニ於テモ需用者ニ對シ何等注意ヲ與ヘス甚シキニ至リテハ研究實驗用施設ニハ許可ヲ要セサルカ如ク吹聴シ不法施設ニ對スル共犯關係ヲ認メラルル虞アルモノモ有之趣ニ付貴管下營業者ニ對シ機器ノ需用者ニハ法令ニ付テ充分諒解セシメタル上販賣スル様態示方御配慮相煩度及御依頼候

記

文部次官宛通牒

客年十二月二十日逓信省令第九十八號ヲ以テ放送用私設無線電話規則公布相成候處無線電話ノ私設ハ凡テ許可ヲ受クルヲ要シ不法施設ニ關シテハ無線電信法第十六條ニ對則ノ規定モ有之嚴重取締ヲ必要ト致候條學生々徒ニシテ制度ヲ熟知セサル爲不識ノ間犯則ノ所爲アルニ於テハ甚ダ遺憾ノ次第ニ付乍御手數御管下學校團體等へ行達ナカラシムル様御示達相煩度此段得貴意候

追而私設無線電話關係法令一部御參考迄ニ及送付候

● 聽取無線電話空中線ニ關スル件

(大正十四年七月九日 保第七七〇〇號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

首題ノ件ニ關シ注意方遞信次官ヨリ通牒有之候處近時はカ設置者増加セントスルノ折柄相當注意相成度別紙寫添付此段及通牒候也

遞信次官ヨリ知事宛 (大正十四年七月三日 信第一四二二號)

本件ニ關シテハ放送用無線電話規則第十四條ノ規定ノ通空中線ヲ電信電話電燈及電力線ト接近シテ建設セシメサルコトト相成リ居リ候處聽取無線電話施設者中ニハ電氣及無線科學等ニ關スル知識乏シキ者アル爲障害豫防上遺憾ノ點尠カラサルニ付該ニ之ニ關スル注意書ヲ新聞紙上ニ公表シ一般ノ注意ヲ喚起致置候處今更ニ別紙ノ通各遞信局長ニ通達致置候間御諒相成度

工務、電務兩局長ヨリ遞信局長宛 (大正十四年七月三日 信第一四二二號)

聽取無線電話ノ施設者ニシテ電氣及無線科學等ニ關スル知識ニ乏シキ者尠カラサル爲其ノ裝置工事ニ際シ不慮ノ災害ニ遭遇シ甚シキハ高壓電線ニ觸レ即死シタル例モ有之甚ダ遺憾トスル次第ニ有之尙之等施設者カ己ニ建設セル空中線中障害豫防上危險ト認メラレモ尠カラスト認メラルルニ付該ニ注意書ヲ新聞紙上ニ掲載セシメ一般ノ注意ヲ促シ置候處猶此ノ際別紙注意事項ヲ周知セシムルノ要アリト認ムルニ付施設許可ノ際之カ印刷物ヲ交付シ或ハ時々放送局ヲシテ之ヲ放送セシメ又ハ新聞雜誌等ニ詳細ナル説明ヲ附加シテ公表シ電氣學ニ關スル知識ナキ者ト雖聽取無線電話取扱上過誤ナカラシムル様警戒指導方可然御配慮相成度

別紙 遞信省 聽取無線電話空中線ヲ電信、電話、電燈等ニ接近シテ架設スルコトハ放送用私設無線電話規則第十四條ニ抵觸スルモノニ

シテ若空中線ヲ前記電線ニ接觸セシメ之ニ際害ヲ及ホシタル件ハ電信法第三十七條第三十九條及電氣事業法第十八條第九條ニ抵觸シ處罰セラルルコトアルヘシ近來往々ニシテ施設者ニ於ケル不注意又ハ電氣學上ノ智識乏シキ爲之等ノ電線ニ接觸セシメテ障害ヲ惹起シ甚シキハ人命ヲ失ヒタル實例モアリテ甚ダ遺憾ニ堪エサル所ナルヲ以テカカル事故ヲ防止スルタメ特ニ左記事項ヲ注意セラレタシ

記

- 一 空中線ハ道路ヲ橫斷シテ架設セサルコト (私設電信規則第十條第一項參照)
- 二 屋外ニ於ケル空中線ハ電信電話電燈及電力線ト交叉セサル様取付テナスコト、又之ト接近スルトキハ之等ノ電線ト少クモ一米以上離隔スルコト、猶高壓電線ト接近スルトキハ三米以上、特別高壓電線ト接近スルトキハ其相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線路ノ電柱地表上ノ高サノ一倍以上トスルコト
- 三 空中線電柱トシテ電信、電話、電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ柱ヲ利用セサルコト
- 四 空中線及其電柱ハ極メテ堅固ニ建設スルコト、電柱ニハ細キ竹又ハ丸太ヲ使用セス且ツ空中線ノ爲電柱ノ彎曲セサル様必要ニ應シ適當ナル支線ヲ設クルコト
- 五 空中線用電柱ハ暴風其他ノ爲メ故障ヲ生セサル様建設スルハ勿論ナルモ萬一倒壞シタル場合ニ於テモ空中線及其電柱カ電信、電話、電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ニ接觸セサルカ如キ位置ニ建設スルコト
- 六 屋外空中線ニハ避雷裝置ヲ設備シ且接地用「スキツチ」ヲ以テ聽取セサルトキハ常ニ之ヲ接地シ得ル様設備スルコト
- 七 屋内ニ於ケル空中線引込及地氣線竝ニ受信機其他ハ電信、電話、電燈又ハ電力線ト接觸セサル様充分離隔シ置クコト

(私設電信規則第十七條參照)

參照

電信法第三十七條

電信若ハ電話ニヨル通信ヲ障害シ又ハ之ヲ障害スヘキ行爲ヲナシタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編 保安 第五章 交通、通信 第七款 通信

同第三十九條

電信電話ノ線路若ハ其支持物ニ物品ヲ懸ケ若クハ掛ケ又ハ之ニ動物若クハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

電氣事業法十八條

電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

電氣事業法十九條

電氣事業者ノ承諾ヲ得シテ濫リニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

● ラジオ盜聽者取締方ノ件

(大正十五年三月三日 保第一七一七號通牒)

警察部長ヨリ各警察官署長宛

最近各地共ラヂオ聽取ヲ爲スモノ漸次増加アリ然ルニ此等聽取ヲ爲スモノニシテ其手續ノ簡單ナルニ不拘其ノ手續ヲナサス空中線器械等ノ裝置ヲ施シテ聽取ヲナシ甚タシキニ至リテハ故意ニ無斷聽取ヲナシツツアルモノ亦尠カラサル模様ニ有之趣キヲ以テ別紙ノ通り名古屋放送局常務理事阿部基一ヨリ申請越シ候ニ付テハ是等不法盜聽者ニ對シテハ其々取締相成居ル事トハ存シ候モ尙一層取締方遺算ナキテ期セラレ度此段及通牒候也

追テ無線電話ニ關スル規則抜萃等參考ノタメ添附置致候ニ付此旨申添候

(別紙)

謹啓陳者最近各地共ラヂオ聽取ヲ爲スモノ漸次増加ノ傾向ニ有之慶賀措ク能ハサル處ニ有之候處未ダ正規ノ手續ヲナサス空中線機械等裝置ヲ施シテ聽取ヲナシ居ルモノ尠カラサルヤニ傳ヘラレ候之レ畢竟規則ノ如何ナルモノカチ知ラス其ノ申

込手續ハ簡單ナルニモ拘ハラヌ忘却又ハ遲延スルニ起因スルモノト被存候モ内ニハ施設後久シキニ亘リ故意ニ無斷聽取ヲナシツツアルモノ亦尠カラサル模様ニ有之當局ニ於テモ實地調査又ハ放送ニ依リ注意ヲ促シ居リ候モ依然トシテ其跡ヲ斷タス却テ近來其甚シキヲ加ヘタルノ感有之遺憾ノ次第ニ有之候是等不法盜聽者ニ對シテハ從來御廳ニ於テモ相當御取締方ヲ講セラレツツアルヤニ拜承致居候得共何卒今後一層相當御配意相煩候様致度特ニ此段申請候也

大正十五年二月二十三日

社團法人名古屋放送局

常務理事 阿部 基 一

岐阜縣警察部長殿

追テ加入申込狀況及無線電話ニ關スル規則抜萃等御參考トシテ添附候

第六章 產業

第一款 肥料、害蟲驅除

●肥料取締法

(明治四十一年四月十三日
法律第五十一號)

第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供用スル物料ヲ謂フ

第二條 肥料ノ製造、輸入、移入又ハ賣買ヲ營業ト爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

肥料ノ調合又ハ製造業ニ伴フ肥料ト爲ルヘキ副産物ノ産出ハ之ヲ肥料ノ製造ト看做ス

前項ノ製造業及副産物ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 前條第一項ノ免許願書ニハ製造者ニ在リテハ製造場ノ位置、製造及藏置ニ關スル設備、肥料ノ名稱及製造方法ヲ輸入者、移入者又ハ賣買者ニ在リテハ肥料ノ名稱及營業所ノ位置ヲ記載スヘシ

前項ニ依リ願書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 肥料營業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ肥料ニ保證票ヲ添付スヘシ

第五條 當該官吏ハ肥料營業者、運送業者又ハ倉庫業者ノ店舗、倉庫、工場、船車等ニ臨檢シ物品及帳簿其ノ他ノ書類ニ就キ檢査ヲ爲シ必要ナル分量ニ限り無償ニテ肥料又ハ製造原料ヲ收去スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際肥料ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第六條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ免許ノ日ヨリ一年以内ニ開業セス又ハ一年以上其ノ營業ヲ

第三編 保安 第六章 產業 第一款 肥料、害蟲驅除

休止シタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第七條 肥料營業者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ公益上必要ト認ムルトキハ地方長官ハ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ營業者ニ對シ三年ヲ超過セサル期間肥料營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ禁スルコトヲ得
第八條 植物ノ營養ニ供用スル物料ニシテ地方長官ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタルモノハ之ヲ他ノ用途ニ供スル爲製造、輸入、移入又ハ賣買スル場合ニ限リ本法ヲ適用セス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料及原料ハ刑法第十九條ノ物ニ非サル場合ト雖之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 詐欺ノ行爲ヲ以テ免許ヲ受ケタル者
- 二 肥料ヲ偽造シ又ハ人ヲ欺罔スルノ目的ヲ以テ肥料ニ他物ヲ混和シタル營業者
- 三 偽造シ又ハ人ヲ欺罔スル目的ヲ以テ他物ヲ混和シタル肥料ヲ輸入、移入又ハ授受シタル營業者
- 四 肥料ニ虚偽ノ保證票ヲ添附シタル營業者又ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ他ノ肥料ニ使用シタル營業者
- 五 虚偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料又ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ使用シタル肥料ヲ輸入、移入又ハ授受シタル營業者

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥料及原料カ刑法第十九條ノ物ニ非サルトキト雖之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 免許ヲ受ケスシテ肥料營業ヲ爲シタル者
- 二 第七條ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 免許又ハ認可ヲ受ケサル製造方法ニ依リ肥料ヲ製造シタル營業者

四 免許又ハ認可ヲ受ケサル肥料ヲ製造、輸入、移入又ハ賣買シタル營業者

五 認可ヲ受ケスシテ製造場ノ位置又ハ製造若ハ設置ニ關スル設備ヲ變更シタル營業者

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四條ニ依ル保證票ヲ添附セサル營業者

二 第五條ニ依ル處分ヲ拒ミタル者

第十二條 肥料營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 肥料營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年六月勅令第六十六號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)
本法施行前ニ於ケル肥料ノ製造販賣又ハ販賣ノ免許ノ效力ハ明治四十一年十二月三十一日限トス

●肥料取締法施行規則(抄録)

(明治四十一年八月十三日 農商務省令第十七號)

附則 大正元年八月農令第一號 一〇年三月第四號改正

第五條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ行商ヲ爲サムトスルトキハ行商地ノ地方長官ニ願出テ行商鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ雇人其ノ他ノ從業者ヲシテ行商ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各之ヲ携帶セシムヘシ

第七條 行商者ヲ變更シタルトキ又ハ肥料營業者若ハ行商者ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキハ肥料營業者ハ二週間内ニ行商地ノ地方長官ニ鑑札ノ書換ヲ出願シ行商ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク鑑札ヲ返納スヘシ

肥料營業者死亡シタルトキハ其ノ相續人、行商者死亡シタルトキハ其ノ肥料營業者前項ニ準シ遲滞ナク行商鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 肥料ノ製造營業者第一條第二號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ肥料ノ輸入、移入ノ營業者第三條第四號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ所轄地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 肥料營業者ハ第一條第一號、第三號、第三條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止若ハ休止シタルトキハ二週間内ニ、其ノ休止シタル營業ヲ開始シタルトキハ直ニ各製造場、營業所及藏置所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

肥料營業者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ前項ニ準シ其ノ旨届出ツヘシ

第十條 肥料營業者其ノ營業ノ免許又ハ肥料取締法第三條第二項若ハ本則第八條ノ認可アリタル場合ニ於テ其ノ製造場、營業所、藏置所カニ以上ノ道府縣ニ渉ルモノナルトキハ其ノ免許又ハ認可ノ日ヨリ二週間内ニ願書及其ノ添付書類、免許書及認可書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨關係地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 肥料營業者ハ各製造場及營業所ニ其ノ營業ニ關スル願書其ノ添附書類、免許書及認可書、届書又ハ其ノ寫ヲ備ヘ置クヘシ

第十六條 保證票ニハ前條ニ規定シタル事項並肥料ノ正味量、商標及商號ノ外他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス但シ前條第二項第三號又ハ第七號ノ肥料ニシテ水ニ溶解セスシテ枸橼酸、アンモニア「液ニ溶解スル機酸ノ量百分ノ一以上ヲ含有スルモノニ在リテハ其ノ最少量ヲ記載スルコトヲ妨ケス

第十九條 肥料營業者ニシテ肥料ヲ輸入若ハ移入スルトキ又ハ輸入港若ハ移入港ニ於テ輸入若ハ移入ノ肥料ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ陸揚後遲滞ナク肥料ノ名稱、數量、仕入先並陸揚ノ場所及年月日ヲ陸揚地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ大豆油粕ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 肥料營業者ハ各營業所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓受ケ若ハ肥料營業者ニ之ヲ讓渡ス毎ニ其ノ名稱、數量、價額、年月日、相手方ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

肥料製造營業者ハ前項ノ外其ノ製造場ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ製造スル毎ニ其ノ名稱、數量及年月日ヲ記載スヘシ

第二十一條 肥料製造營業者ハ各製造場ニ於テ前年中ニ製造シタル肥料及製造ノ原料ニ供シタル肥料ニ付名稱別ノ數量及價額ヲ毎年二月末日迄ニ其ノ製造場所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

肥料營業者ハ各營業所ニ於テ前年中ニ輸入、移入、輸出又ハ移出シタル肥料ニ付前項ニ準シ其ノ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ輸出及移出ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
營業者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ届出ト同時ニ前各項ニ準シ届出ツヘシ
營業者死亡シタルトキハ相續人ヨリ其ノ届出ト同時ニ前各項ニ準シ届出ツヘシ

第二十四條 第五條、第七條乃至第十一條、第十六條、第十九條乃至第二十一條又ハ第二十六條第二項ニ違反シタル者又ハ肥料ノ效能ヲ誇稱シテ虚偽ノ廣告ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
保證票ノ添付ヲ要セサル肥料ニ虚偽ノ主成分量ヲ記載シタル票箋ヲ添付シタル者亦前項ニ同シ

●肥料取締法施行細則(抄録)

(大正十二年九月十二日 岐阜縣令第三十二號)

附則 大正一四年八月縣令第三六號改正

第三條 肥料營業者ニシテ自ラ管理ヲ爲ササル製造場營業所又ハ藏置所ニハ管理人ヲ置キ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ之ヲ變更廢止ノ場合亦同シ

第四條 肥料營業者ハ毎年二月末日迄ニ前年中縣外ヨリ搬入シタル肥料ニ付其ノ名稱別及仕入先別數量ヲ第八號書式ニ依リ届出ツヘシ

第五條 肥料營業免許證認可證又ハ行商鑑札ヲ喪失若ハ毀損シタルトキハ其旨ヲ記載シ再下附テ願出ツヘシ

第七條 法人ノ營業免許願書ニハ代表者ノ氏名ヲ記載シ定款ヲ添附スヘシ

前項ノ事項ニ變更テ生シタル時ハ遲滞ナク届出ツヘシ

第九條 本則第三條乃至第五條及第七條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

● 害蟲驅除豫防法

(明治二十九年三月二十五日 法律第十七號)

附則 明治三十五年二月法律第九號改正

第一條 此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制(第百二條)及町村制(第百二條)ヲ適用ス

第四條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制(第百二十三條)及町村制(第百二十七條)ヲ適用セス

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲ニ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十日以上二十日以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第十三條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

● 害蟲驅除豫防規則

(明治四十二年五月二十二日) 岐阜縣令第二十號

第一條 害蟲驅除豫防法第二條ニ依リ本縣下ニ於テ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類ハ左ノ二十種トス

種類	名	稱	被害作物
一	螟蟲	イネノズイムシ	稻
二	浮塵子	ウンカ	稻
三	苞蟲	イチモジセセリ	稻
四	螟蛉	イネノアナムシ	稻
五	切蛆	キリウジ	稻
六	稻蠹	イナゴ、ハネナガイナゴ	稻
七	虬蟲	ムクゲムシ、クロムクゲムシ	稻
八	椿象	イネガメムシ、ハリガメムシ、クモガメムシ	稻
九	葉蟲	ドロハムシ、クロハムシ、ヒメハムシ	稻、桑
十	象鼻蟲	イネゾウムシ、ヒメゾウムシ、ナシゾウムシ	稻、桑、梨
十一	天牛	クロカミキリ、トラフカミキリ、ホシカミキリ	桑、柑橘
十二	小蠹蟲	クロノシンクヒムシ	桑
十三	尺蠖	エダシヤクトリ、トゲシヤクトリ	桑
十四	葉捲蟲	クロノシンムシ、イトヒキハマキムシ、クロハマキムシ、オグロハマキムシ	桑
十五	黏蝻	キンケムシ、クワケムシ、チヤケムシ、ホシハマキケムシ	桑、茶、果樹
十六	避債蟲	ミノムシ	茶、果樹
十七	夜盜蟲	エンドノキリムシ、アヲノヨトウムシ	穀類、蔬菜
十八	偽瓢蟲	テントウムシダマシ、オホテントウムシダマシ	馬鈴薯
十九	介殼蟲	カヒガラムシ	桑、果樹
二十	立葉捲蟲	イネノタテハマキムシ	稻

第二條 害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ害蟲驅除豫防法ヲ適用スヘキ微菌ノ種類ハ左ノ三種トス

種類	名	稱	被害作物
一	麥黑穗病	ハダカクロホ、カタクロホ、コムギノクロホ、コムギノナマクサクロホ	麥
二	桑赤澁病	クワノアカシブビヤウ	桑
三	桑枝枯病	クワノエダカレビヤウ	桑

第三條 害蟲及微菌ノ驅除豫防方法ハ本則ニ定ムルモノノ外別ニ之ヲ告示ス

第四條 害蟲又ハ微菌田畑ニ發生シ若クハ發生ノ虞アリト認メタル作人ハ直ニ驅除豫防ニ著手シ口頭又ハ書面ヲ以テ市町村長又ハ警察官吏ニ届出ツヘシ

警察官吏前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ關係市町村長ニ通知スヘシ

第五條 市町村長前條ノ届出若ハ通知ヲ受ケタルトキ又ハ害蟲或ハ微菌田畑ニ發生シ若ハ發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ作人チシテ驅除豫防ニ著手セシメ左記事項ヲ具シ町村長ハ郡長ニ市長ハ知事ニ報告シ同時ニ關係警察官吏ニ通知スヘシ

- 一 害蟲又ハ微菌ノ名稱
- 二 發生又ハ發見ノ月日
- 三 發生ノ區域及驅除豫防方法
- 四 被害作物ノ名稱、被害見積反別及被害狀況

郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條 郡長ニ於テ作人ノ驅除豫防ヲ不完全ト認メタルトキ又ハ害蟲驅除豫防ノ必要アリト認メタルトキハ害蟲驅除豫防法第三條第一項ニ依リ期限ヲ定メ田畑作人ニ驅除豫防ノ施行ヲ命シ同時ニ前條第一項ニ列記シタル事項並期限ヲ知事ニ報告シ且關係警察官吏ニ通知スヘシ

郡長ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ不完全ニシテ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ハシムル必要アリト認メタルトキハ狀ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

第七條 郡長ニ於テ害蟲驅除豫防法第六條ニ依リ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藪稈刈株又ハ雜草ヲ拔取ル必要アリト認メタルトキハ狀ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

第八條 郡市町村長害蟲又ハ微菌蔓延ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ隣接郡市町村長ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル郡市町村長ハ直ニ之ヲ關係警察官吏ニ通知スヘシ

第九條 稻苗代ノ床地ハ幅四尺以内長サ適宜トシ各床ノ間隔ハ八寸以上ト爲スヘシ

第十條 害蟲又ハ微菌驅除豫防監督上必要ト認ムルトキハ郡ニ在リテハ郡長、市ニ在リテハ知事ニ於テ作人ニ對シ田畑標示ノ建設ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 第四條第一項ノ届出ヲ怠リタル者、第六條第一項ノ郡長ノ命ニ從ハサル者又ハ第九條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條 前條ノ違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

第十三條 本令ハ明治四十二年五月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治三十八年三月三十一日三岐阜縣令第六號害蟲驅除豫防規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二款 蠶業、茶業

蠶絲業法 (抄録)

(明治四十四年三月二十九日 法律第四十七號)

大正六年七月法律第一六號改正

第一條 本法ニ於テ蠶絲業者ト稱スルハ養蠶、蠶種製造、生絲製造、眞綿製造、殺蛹乾繭又ハ蠶種、繭、生絲、屑物類ノ賣買、仲立若ハ保管ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ蠶種製造者ト稱スルハ他人ニ讓渡スノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ蠶病ト稱スルハ微菌病、軟化病、硬化病、膿病及蠶蛆病ヲ謂フ

第四條 病兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ病蠶及蠶蠶ノ病原微生物並蠶蛆及其ノ蛹、蠶ヲ滅殺シ其ノ他蠶病豫防ノ爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ學術研究ノ爲蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シ前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第五條 蠶種製造者タラムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第六條 蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶室及蠶具ノ消毒ヲ行フヘシ

第七條 蠶種製造者ハ原蠶種ヨリ産出シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第九條 蠶種製造者ハ現ニ普通蠶種ノ蠶兒ノ掃立又ハ其ノ飼育ヲ爲ス建物内ニ於テ蠶種製造用蠶兒ノ掃立ヨリ蠶種ノ製造ヲ終ル迄ノ作業ヲ爲スコトヲ得ス

蠶種製造者ハ現ニ普通蠶種製造用蠶兒ノ飼育ヲ爲ス室内ニ於テ原蠶種製造用蠶兒ノ掃立ヨリ蠶種ノ製造ヲ終ル迄ノ作業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 蠶種製造者原蠶種ヲ製造セムトスルトキハ蠶兒ノ飼育ハ一蛾別ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法ヲ施行セサル地若ハ外國

ヨリ移入若ハ輸入シタル蠶種ニシテ一蟻別ト爲スコト能ハサルモノ又ハ主務大臣ノ指定シタル蠶種ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

原蠶種ハ框製又ハ袋製ト爲スヘシ

第十一條 蠶種製造者ハ原蠶種ト爲サムトスル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶兒、繭及母蛾ニ付検査ヲ受クヘシ
蠶種製造者ハ普通蠶種ト爲サムトスル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ掃立口毎ニ其ノ母蛾ニ付歩合検査ヲ受クヘシ
蠶種製造者ハ前項ノ歩合検査ニ合格セサル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ母蛾又ハ卵ニ付検査ヲ受クルコトヲ得但シ第十三條但書ノ期間内ニ検査ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 検査合格ノ證印ナキ蠶種及其ノ蠶兒ハ之ヲ讓渡シ又ハ飼育スルコトヲ得ス但シ第十二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル特別蠶種及其ノ蠶兒ヲ讓渡シ若ハ飼育シ又ハ第十七條但シ第十二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル蠶種及其ノ蠶兒ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 蠶種製造者ニ非サル者ハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

學術研究ノ爲ニスル場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ第十四條及前項ノ規定ニ拘ラス蠶種ノ製造又ハ蠶兒ノ飼育ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法中蠶種製造者ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得
第十七條 本法ヲ施行セサル地又ハ外國ニ於テ製造シタル蠶種ヲ移入又ハ輸入シタル者ハ其ノ蠶種ニ對シ母蛾又ハ卵ニ付検査ヲ受クヘシ但シ前條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

移入又ハ輸入前官署公署ノ證明ヲ得タル蠶種ニ對シテハ前項ノ検査ニ代ヘ其ノ證明ニ付検査ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 當該官吏吏員ハ蠶病若ハ桑ノ病虫害ノ豫防又ハ蠶絲類ノ検査ニ關シ蠶種、牛繭、桑苗又ハ蠶絲類ノ取扱ヲ爲ス者ノ店舗、倉庫、製造場、飼育場園場等ニ臨檢シ物品及帳簿其ノ他ノ書類ヲ調査シ又ハ必要ナル分量ニ限り無償ニテ物品ヲ收去スルコトヲ得

地方長官本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲アリト認ムルトキハ當該官吏吏員ヲシテ前項ニ掲ケタル場所トヲ得

ニ臨檢シ犯罪嫌疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類ヲ搜索シ若ハ之カ差押ヲ爲サシムルコトヲ得

臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第三十六條 當該官吏吏員ハ自己、親族又ハ同居者ニ對シ第十一條及第十七條ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 蠶絲業者ノ所爲ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得其ノ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐欺ノ所爲ヲ以テ第十一條又ハ第十七條ノ検査ヲ受ケタル者

二 第十四條ノ規定ニ違反シタル者

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ヲ受ケシテ他人ニ讓渡スノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造シタル者

二 第四條第一項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者

三 第七條ノ規定ニ違反シタル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十六條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第四十一條 第三十八條、第三十九條第一號第三號又ハ前條第二號ノ犯罪ニ係ル蠶種、蠶兒又ハ繭ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ價格ヲ追徴ス

前項ノ蠶種又ハ蠶兒犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十二條 第三十五條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢ノ際當該官吏吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲ササル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十三條 蠶絲業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 蠶絲業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

蠶絲業法施行手續(抄録)

(大正七年一月十五日)

岐阜縣令第一號

附註 大正七年六月縣令第二〇號、八年六月第二四號、一〇年一月第四三號、一一年一月第五六號、一五年六月第三二號改正

第三條 免許ヲ受ケタル蠶種製造者死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ戶主若ハ家族ヨリ業務ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ本人ヨリ遲滞ナク免許證ヲ返納スヘシ

第二十七條 蠶絲業法施行規則第七十四條ノ規定ニ依ル桑苗生産届書ハ毎年六月末日迄ニ様式第十七號ニ依リ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第二十七條ノ二 前條ノ生産者ハ毎年三月三十一日迄ニ様式第十七號ノ一ニ依リ前年ノ成績ヲ報告スヘシ

第二十九條 免許證、種繭検査合格證、種繭證明書、蠶卵普通蠶種検査合格證明書又ハ鑑札ヲ毀損シ若ハ亡失シタルトキハ其ノ再下付ヲ知事ニ請求スルコトヲ得但シ毀損シタルモノハ之ヲ返納スヘシ

第三十條 蠶種製造場所又ハ蠶兒飼育場所ニ於テ受クヘキ検査ニハ蠶種製造者其ノ管理者又ハ適當ナル代理人之ニ立會スヘシ

第三十一條 第三條、第二十七條ノ二若ハ第二十八條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ科料ニ要ス

○大正十一年縣令第五六號附則

從前ノ規定ニ依リ下付シタル生繭賣買者又ハ其ノ從業者ノ鑑札ハ生繭賣買業者免許證ヲ提示シ其ノ書替ヲ請求スルコトヲ得

生繭賣買業者取締規則(抄録)

(昭和二年四月二十三日)

岐阜縣令第四十五號

第一條 本則ニ於テ生繭賣買業者ト稱スルハ本縣内ニ於テ生繭ノ賣買又ハ其ノ仲立ヲ業トスル者及生絲製造業者又ハ眞綿製造業者ニシテ生繭ノ賣買ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 生繭賣買業者ニシテ生繭ノ賣買又ハ其ノ仲立ニ從事スル者ハ生繭賣買業者ト看做ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 蠶絲業法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者

二 度量衡法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコト無キニ至リタル日ヨリ一年ヲ經過セサル者

四 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

五 禁治産者及準禁治産者

六 第十四條ノ規程ニ依リ免許ヲ取消サレタル後二年ヲ經過セサル者

第十條 生繭賣買業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 收購前ノ繭ノ賣買又ハ其ノ仲立若ハ賣買ノ豫約
 - 二 故意ノ買止又ハ價格低下ノ申合
 - 三 正當ノ理由ナキ賣買契約ノ不履行
 - 四 日出前又ハ日没後ニ於ケル繭ノ賣買若ハ其ノ仲立但シ賣買契約ヲ終リタル繭ノ受授ハ此ノ限ニ在ラス
 - 五 實量ニ依ラサル繭ノ賣買(所謂込目取引)又ハ其ノ仲立
- 前項第一號ニ掲クル賣買又ハ賣買ノ豫約ハ生絲製造業者カ繭ノ生産者ト直接正量取引又ハ信用取引ヲ爲ス場合ハ之ヲ含マス

第十二條 生繭賣買業者ハ其ノ業務ヲ行フ際免許證ヲ携帯シ當該官吏員又ハ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十三條 生繭賣買業者ハ自己ノ住所氏名ヲ記載シタル帳簿ヲ具ヘ業務ヲ行フ際之ヲ携帯シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 賣買又ハ仲立ヲ行ヒタル年月日及場所
- 二 賣買又ハ仲立ノ相手方ノ住所氏名
- 三 賣買又ハ仲立ヲ爲シタル數量及一貫匁ノ價格

前項ノ帳簿ハ一年間保存シ當該官吏員又ハ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十四條 生繭賣買業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 免許ヲ受ケタル後第三條ニ該當スルニ至リタルトキ
- 二 素行不其ノ他ニ依リ公益ヲ害シ又ハ害スル虞アリト認メタルトキ
- 三 正當ノ理由ナクシテ一年間業務ヲ爲ササルトキ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 免許ヲ受ケケスシテ生繭ノ賣買又ハ其ノ仲立ヲ爲シタル者

二 第八條乃至第十二條ニ違反シタル者

三 第十三條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

四 第十四條ノ規定ニ依リ停止セラレタル期間中生繭ノ賣買又ハ其ノ仲立ヲ爲シタル者

第十六條 本則ニ依リ差出スヘキ書類ハ住所地市町村長及所轄蠶業取締所支所長ヲ經由スヘシ但シ本縣内ニ住所ヲ有セサル者ハ直接知事ニ差出スヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●茶業取締ニ關スル件

(大正十三年八月一日 農商務省令第十七號)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル製茶ハ之ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造シ若ハ讓受又ハ賣渡スコトヲ得ス但シ刑法第十九條第一號又ハ第三號ニ該當セサルモノニシテ地方長官ノ認可ヲ經テ茶素ノ原料ニ供スル爲賣渡シ又ハ讓受クルコトハ此ノ限

ニ在ラス

一 粘質物ヲ用キテ製造シタルモノ(茶粉ト海草類ヨリ製出シタル無害ナル粘質物トチ以テ製造シタルモノヲ除ク)又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ

二 物料ヲ用キテ色澤ヲ附シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ

三 腐敗シタルモノ又ハ之ヲ他ノ茶ニ混シタルモノ

四 土砂其ノ他ノ不純物料ヲ混シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

●茶業組合規則 (抄録)

(明治二十年十二月二十九日) 農商務省令第四號

略ス

第二條 茶業者ハ製造ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ナシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但二府縣以上ノ組合員全部若ハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アルトキハ其規約ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其組合規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 此規則第二條、第九條、第十條、第十一條ニ違犯シタル者ハ金 圓以上金二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●茶業組合規約ニ違背シタル者ノ件

(明治二十八年五月) 指示第三二號

明治二十年十二月農商務省令第四號茶業組合規則第十一條ニ依リ茶業組合規約ニ違背シタルモノハ同則第三十六條ニ依リ處分セラルヘキモノナルヲ以テ取締上各署ニ於テ右組合規約ヲ知ルノ必要可有之ニ付各署ヨリ其組合事務所ニ照會シ該規約一部ヲ徵シ執行事務ノ材料ニ資スヘシ尤モ向後増減變更ノ場合ハ縣廳ニ於テ認可スルニ際シ一部ヲ所轄警察官署ニ差出スヘキ旨特ニ命スルノ手續ニ付該書面ヲ受理シタルトキハ直ニ訂正加除スヘシ

第三款 畜 獸

●種牡牛検査法 (抄録)

(明治四十年四月十日) 法律第四十二號

第七條 検査ニ合格セサル牡牛又ハ證明ノ効力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡牛ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

●種牡牛検査法施行規則 (抄録)

(明治四十年六月十七日) 農商務省令第十七號

附則 明治四十二年六月農令第二二號、大正元年一月第一七號、三年一〇月第二六號、四年一〇月第二三號改正

第六條 左ノ場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ三十日以内ニ證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一 證明書ノ有効期間満了シタルトキ

一 種牡牛斃死シタルトキ

一 種牡牛ノ用ヲ廢シタルトキ

一 種牡牛検査法第三條第二項ニ依リ證明ヲ取消サレタルトキ

第七條 種牡牛ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ證明書ヲ携帯スヘシ

第八條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ノ異動ヲ生シ又ハ其ノ住所、氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ異動アリタルトキハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

證明書ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ之ヲ地方長官ニ届出テ其ノ再渡ヲ受クヘシ但シ毀損ニ因リ再渡ヲ受クル場合ニハ原證明書ヲ返納スヘシ

第九條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ帳簿ヲ調製シ種付ケテ受ケタル牝牛ノ種類、年齢、毛色、高サ、特徴、種付ケ年月日及其ノ所有者又ハ管理者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

第十條 牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ其ノ仔牛ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 地方長官ハ當該官吏チシテ種牡牛ノ狀況、仔牛ノ成績及第九條ノ帳簿ヲ調査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ種牡牛及仔牛ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第六條第七條第二項第八條乃至第十條又ハ第十二條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

●種牡馬検査法 (抄録)

(明治三十年三月二十五日) 法律第十二號

附註 明治三十二年三月法律第九二號、大正一十二年三月第六號改正

第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

●種牡馬検査法施行規則 (抄録)

(大正十二年七月二十日) 農商務省令第十八號

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ遲滞ナク證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一 證明書ノ有効期間満了シタルトキ

二 種牡馬死シタルトキ

三 種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ

四 前條ノ規定ニ依リ證明ノ效力ヲ取消サレタルトキ

第十條 種牡馬ノ種付チ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ證明書ヲ携帯スヘシ但シ第十一條ノ規定ニ依リ證明書ノ更正

又ハ再下付ヲ受クル爲證明書所持セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 種牡馬ノ所有者又ハ管理者ニ異動アリタルトキ又ハ其ノ氏名、名稱若ハ住所ニ變更アリタルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ届出テ證明書ノ更正ヲ受クヘシ

證明書ヲ毀損シ又ハ亡失シタル場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ

ハ第四號様式ニ依リ證明書ヲ下付ス

第十二條 種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ第五號様式ニ依リ帳簿ヲ調製シ種付ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十三條 牝馬ノ所有者又ハ管理者産駒ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 農商務大臣又ハ地方長官ハ當該ノ官吏又ハ待遇官吏チシテ種牡馬ノ狀況ヲ調査シ又ハ證明書若ハ第十二條ノ規定ニ依リ帳簿ノ閲覽ヲ請求セシムルコトヲ得

種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ調査又ハ閲覽ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 種牡馬ノ所有者又ハ管理者第九條、第十條、第十二條、第十三條又ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

●競馬法

(大正十二年四月十日) 法律第四十七號

第一條 馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リ競馬ヲ行フコトヲ得

第二條 競馬ノ開催ハ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ年三回開催スルコトヲ得

競馬開催ノ期間ハ毎回四日内トス

第三條 競馬ヲ開催スルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徴收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料入場者ト定メタル者ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得
勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル
勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第五條 學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス
當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ
從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條 第一條ノ法人ハ勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ實得金ノ額ヲ超エサ
ル範圍内ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法並前條ノ拂戻金ノ支給方法ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第八條 勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實得金ノ額ノ百分ノ一以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納
付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス
第九條 主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得
第十條 第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十一條 第一條ノ法人ハ每事業年度終了後三月内ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ
第十二條 主務大臣ル公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議
ヲ取消スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害ス
ト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 競馬停止
二 勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限
三 役員ノ解任

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
二 第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
二 第五條ノ規定ニ違反シタル者
三 第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者
五 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ
購買シタル者
二 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者
三 第五條第一項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
四 勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者
五 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

第三編 保安 第六章 產業 第三款 畜獸

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年六月勅令第三百二十三號ヲ以テ七月一日ヨリ施行)
本法ニ依ル競馬ヲ行フ法人ノ數ハ當分ノ内十一以內トス

競馬規程

(明治四十一年十一月十六日
閣令第一號)

第一條 明治四三年五月閣令第一〇號、四五年四月陸令第六號、大正一〇年九月第二二號改正

第一條 競馬ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル競馬會ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス但シ祭典等ニ際シ專テ娛樂ノ爲ニ
スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 競馬ハ毎年二回定期ニ之ヲ行ヒ一回ノ日數ハ四日以內トス

前項ノ外臨時ニ競馬ヲ開催セムトスルトキハ馬政長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 競馬ノ種類ハ平地競走、速步競走及障礙競走トス

第四條 馬場ハ長サ一哩幅十二間以下ニ下スコトヲ得ス

第五條 馬場、馬見所其ノ他附屬建物ハ秩序及風紀ノ維持並人馬ノ危害豫防ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第六條 競馬ヲ開催セムトスルトキハ二月前ニ開催ノ日時ヲ定メ番組ヲ具シ馬政長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ番組ニハ各競走ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱
- 二 種類
- 三 距離
- 四 賞金又ハ賞品
- 五 馬四ノ負擔量

六 其ノ他必要ノ事項

第七條 競走距離ハ一哩以上トス但シ新馬競走、撫恤競走ニ在リテハ馬政長官ノ認可ヲ經テ一哩以下ト爲スコトヲ得

第八條 (削除)

第九條 年齡明ク三歳以下ノ馬匹及馬匹改良増殖上ニ裨益ナキ馬匹ハ競走ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 各競馬會ハ毎年ノ競馬ニ内國產新馬二十頭以上ヲ出場セシムルコトヲ要ス

前項新馬ハ明ク八歳ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 各競馬會ハ競馬規則ヲ定メ競走馬匹負擔重量、發馬、審判、騎手ノ選擇其ノ他競馬施行ニ關スル詳細ノ事項ヲ

規定シ馬政長官ニ届出ヘシ

第十二條 馬政長官ハ必要ニ應シ官吏ヲ派遣シ競馬ノ施行ヲ監督セシム

第十三條 競馬ヲ終リタルトキハ一月以內ニ左ノ事項ヲ馬政長官ニ届出ヘシ

一 登錄馬數及入場馬數

二 新馬及各競走ニ於ケル優勝馬ノ名稱種類性毛色年齡體尺特徵產地血統所有者、抽籤新馬ノ購買價格購買地生産者並

三 優勝馬ノ競走時間

四 競馬開催ニ關スル經費ノ收支

五 競馬場ニ於ケル諸般ノ狀況

第十四條 競馬賞金ハ主トシテ競走距離ニ應シ其ノ額ヲ定ムヘシ

第十五條 競馬賞金又ハ賞品ハ内國產馬ニ厚クスヘシ

第十六條 個人ノ寄附ニ係ル賞金又ハ賞品ニシテ番組ヲ指定シタルモノハ前二條ニ依ラサルコトヲ得

第十七條 馬政長官ハ每期ノ競馬中豫メ番組ヲ指定シ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトヲ得

第十八條 馬政長官ノ指定シタル聯合競走ニハ特殊ノ賞金、賞品又ハ賞狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十九條 馬政長官ハ馬匹改良増殖上必要ト認ムルトキハ競馬會ニ對シ設備費又ハ開催費ヲ補助ス

設備補助金ハ馬場其ノ他ノ設備ノ取得、維持及改修ニ要スル費用ニ充ツル爲之ヲ下付ス

開催補助金ハ競馬賞金其ノ他開催費ニ充ツル爲開催ノ都度其ノ額ヲ定メ之ヲ下付ス

第二十條 競馬場内ノ秩序風紀ヲ維持ニ關スル事項ハ競馬場所在地ヲ管轄スル地方長官ハ警視總監

第二十一條 左ニ掲グル場合ニ於テハ監督官廳ハ競馬ヲ停止シ又ハ相當ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

一 競馬會ニ於テ本令ニ違反シ其ノ他不法不當ノ所爲アルトキ

二 競馬施行ニ關シ危害アリト認ムルトキ

三 競馬場内ノ秩序及風紀ヲ維持上必要アルトキ

臨檢官吏ハ急ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ處分ヲ爲シ直ニ所屬長官ニ報告スヘシ

第二十二條 本令ニ定ムルモノノ外馬政長官ハ競馬施行ニ關シ必要ノ事項ヲ競馬會ニ命スルコトヲ得

第二十三條 畜産組合法ニ依ル組合又ハ馬匹ノ改良増殖ヲ目的トスル團體ハ前各條ニ依ラス地方長官ハ警視總監

ヲ得テ競馬ヲ行フコトヲ得

前項ノ競馬ニシテ第五條、第九條、第十四條乃至第十六條ノ規定ヲ準用スルモノニ在リテハ地方長官ノ請求ニ依リ必要

ト認ムルトキハ馬政長官ハ開催補助金又ハ賞金、賞品若ハ賞狀ヲ下付又ハ授與スルコトヲ得

前項ニ規定スル競馬ニハ第十一條乃至第十三條、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開催ノ届出ヲ爲シタル競馬ニハ第六條ヲ適用セス

●競馬取締規則

(大正十四年五月四日 岐阜縣令第十八號)

附則 大正一四年七月縣令第二九號、一五年三月第一一號改正

第一條 投票ノ方法ニ依リ先著馬の中者ニ對シ景品ヲ贈與スル競馬(以下單ニ競馬ト稱ス)ヲ開催シ得ルモノハ畜産組合法

ニ依ル組合又ハ馬匹ノ改良増殖ヲ目的トスル團體タルコトヲ要ス

第二條 前條ノ競馬ヲ開催スルノ目的ヲ以テ競馬場(以下單ニ競馬場ト稱ス)ヲ設置セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ所轄

警察官署ヲ經由シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ此ノ場合ハ關係事項ノ外記載スルヲ要

セス

一 競馬開催者(以下單ニ開催者ト稱ス)ノ事務所所在地、代表者ノ住所、職業、氏名、生年月日及規約書

二 競馬場設置ノ場所並競馬場名

三 競馬場四隣二百米突以内ノ圖面

四 馬場、馬見所、下見所、檢査所、馬繫場、出入口、非常口、入場券發賣所、投票所、其ノ他工作物ノ配置圖及構造

仕樣書

五 競馬ニ關スル土地關係者ノ承諾書

六 工事落成期日

第三條 競馬場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 馬場ハ楕圓形ナルコト但シ土地ノ狀況ニ依リ圓形トスルコトヲ得

二 馬場ノ長サハ一周八百米突以上其ノ幅員十六米突以上トスルコト

三 馬場ノ周圍ニハ高サ一米突半以上ノ外柵及一米突以上ノ内柵ヲ設クルコト

四 出入口ハ人馬ヲ通シテ一ヶ所タルコト但シ適當ナル區劃ヲ設クヘシ

- 五 機敷ノ下部ニ觀覽席又ハ出入口ヲ設ケサルコト
- 六 場内適當ナル箇所ニ警察官ノ臨監席ヲ設ケルコト
- 七 出入口及非常口ノ戸ハ外開キトスルコト
- 八 競馬場内ニハ競馬ニ必要ナル家屋ノ外之ヲ建設セサルコト
- 第四條 工事ヲ竣リタル競馬場ハ當廳ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
當廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時檢査ヲ行フコトアルヘシ
- 第五條 競馬ヲ開催セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ開催十五日以前所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 一 開催團體ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、職業、氏名、生年月日
 - 二 競馬場名並其所在地
 - 三 競馬施行ノ目的
 - 四 施行期日並開閉時刻
 - 五 番組豫定數及馬匹數
 - 六 入場券及投票券添附ノ入場券ノ賣價
 - 七 先著馬ニ對スル授賞ノ等級、金額、物品ニアリテハ其ノ價格數量
 - 八 競馬並投票施行ニ關スル規程
 - 九 場内取締ニ關スル事項
 - 十 經費ノ出所
- 第六條 競馬ニ付テハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 競馬ノ爲入場スル馬匹ノ年齡ハ明ケ四歲以上ナルコト但シ九月以後ノ競馬ニアリテハ明ケ三歲ノ馬ヲ出場セシムルコトヲ得
 - 二 競争ノ距離ハ明ケ三歲ハ千五百米突以内、明ケ四歲以上ハ三千米突以内トスルコト

- 三 競馬ノ馬場ノ幅員ニ米突ニ付キ一頭ノ割合ヲ以テ行フコト
- 第七條 競馬場ニ於テハ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス
 - 一 日出前日没後ニ於テ競馬ヲ爲スコト
 - 二 精神異狀者、酩酊者、馬術不熟練者又ハ年齡十五歲未滿ノ者ニシテ乘馬スルコト
 - 三 競争中他ノ馬匹又ハ騎手ニ對シ妨害ヲ爲スコト
- 第八條 觀覽者ハ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス
 - 一 馬匹又ハ騎手ニ對シ妨害ヲ加フルコト
 - 二 馬匹ニ對シ濫ニ鞭撻ヲ加フルコト
 - 三 濫ニ馬場内ニ立入ルコト
- 第九條 同一競馬場ニ於ケル競馬ハ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス競馬ノ開催期間ハ毎回三日以内トス
- 第十條 競馬開催ノ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ前日迄ニ左記事項ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 競馬番組(馬ノ所有者及騎手ノ氏名記載ノコト)
 - 二 投票施行ノ事務ニ從事スル者ノ住所氏名年齡及其ノ分擔事務
- 第十一條 投票券添附ノ入場券ニ付テハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 投票券ハ入場券ニ添附セルモノノ外發賣スルコトヲ得ス
 - 二 入場券ハ一人一日一枚限リトス
 - 三 入場券ハ競馬開催當日競馬入口ニアラサレハ之ヲ發賣スルコトヲ得ス
 - 四 入場料額ハ五拾錢以内トス但シ等級ヲ付スルコトヲ得ス
 - 五 入場券一枚ニ添附スル投票券ハ五枚以内、投票券一枚ニ對スル料額ハ壹圓以下トス
 - 六 投票券ハ入場券ト同一紙片ニ印刷シ開催二日以上ニ互ルトキハ一日毎ニ色別ニスルコト

七 學生生徒、未成年者又ハ開催團體ノ役員、調教師、騎手、馬丁、競争馬ノ所有者其ノ他當該競馬ニ關スル事務ニ從事スル者ニ對シテハ投票券添附ノ入場券ヲ發賣スルコトヲ得ス

第十二條 前條第七號ニ該當スル者ハ投票券添附ノ入場券ヲ購買シ又ハ投票券ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 開催者及投票施行ニ關係アルモノハ各組ノ投票締切前ニ於テ其ノ出場馬匹ニ對スル投票ノ點數多寡等ヲ表示スルコトヲ得ス

締切ハ各競争馬ノ出發點ヲ發スル前ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十四條 投票券取得者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 投票券ハ讓渡スルコトヲ得ス

二 投票券ハ一競争ニ付キ一人一枚ヲ超エテ使用スルコトヲ得ス

三 同一所有者ニ屬スル馬匹ノミノ競争ニ對シテハ投票券ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 開催者ハ馬匹ヲ下見所ニ繋留シ各馬ニ對スル番號並競争回次番號ヲ表示シテ一般投票者ノ縱覽ニ供スヘシ

第十六條 開催者ハ投票ニ關スル一切ノ行爲ヲ他人ニ請負ハシムルコトヲ得ス

第十七條 開催者ハ場内見易キ場所ニ競馬及投票施行ニ關スル規程ヲ揭示スヘシ

第十八條 投票ニ關シ特ニ射倖心ヲ誘致スルカ如キ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 開催者ハ各競争毎ニ先著馬ヲ一般投票者ニ周知セシムヘシ

第二十條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ投票ヲ無効トシ施行シタル投票ハ其ノ券面相當ノ金額ヲ以テ開催者ニ於テ買戻ニ應スヘシ

投票券ニ表示セラレタル馬出場セサルニ至リタルトキハ其ノ馬ニ對スル投票ニ付亦同シ

一 其ノ組ニ參加スル馬一頭トナリタルトキ

二 同一所有者ノ馬ノミ出場シタルトキ

三 競争成立セス又ハ競争ヲ中止シタルトキ

四 競争ニ勝馬ナキトキ

第二十一條 開催者ハ投票券賣上金中ヨリ投票施行ノ爲ニ要スル費用トシテ其ノ賣上金額ノ十分ノ二以内ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ費用ハ左ノ範圍内ノモノニ限ル

一 下見所、投票所及景品若ハ景品券交付所ノ設備費

二 投票券及投票規程等ノ印刷費

三 投票施行ノ事務ニ從事スル係員給

第二十二條 開催者ハ投票の中者ニ對シ投票券賣上金ヨリ前條ノ規定ニ依リ控除シタル殘額ヲ以テ贈與ヲ爲スヘシ但シ各競争ニ於ケル贈與總金額ハ當該競争ニ於ケル投票券相當總金額ヲ超エサルコトヲ要ス但シ投票の中者ニ對スル贈與ハ物品又ハ商品券ニ限リ現金ヲ以テスルコトヲ得ス

前項ノ物品又ハ商品券ノ價格ハ投票券一枚相當額ノ五倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條 前條ニ規定スル物品又ハ商品券ハ開催者ニ於テ現金引換又ハ割引買受ヲ爲スコトヲ得ス競馬場内及其ノ附近

ニ於テハ開催者以外ノ者ト雖亦同シ

第二十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ當該競馬ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

一 許可ヲ受ケタル者不法不當ノ所爲アリト認ムルトキ

二 競馬施行ニ關シ危害アリト認ムルトキ

三 競馬場内ノ秩序及風紀ノ維持上必要アリト認ムルトキ

四 先著馬投票施行ニ關シ公安又ハ風俗ヲ害スル虞レアリト認ムルトキ

前項ノ處分ニシテ急ヲ要スル場合ハ警察官署ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ處分ニ付テハ狀況ヲ詳具シ遲滯ナク當該ニ報告スヘシ

第三十五條 開催者及投票施行ニ關係アルモノニシテ法令ノ規定若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルコトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十六條 先着馬投票施行ニ依リ剩餘金ヲ生シタルトキハ馬ノ改良増殖及馬事思想普及ノ爲之ヲ使用スヘシ

第二十七條 關係者ハ入場券並投票添附ノ入場券ノ發行數賣上枚數、殘枚數、競馬組數、的中投票數及收支計算書ヲ一日毎ニ作製シ競馬ノ終リタル日ヨリ三日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

第二十八條 當廳並警察官署ニ於テ取締上必要アリト認ムルトキハ帳簿、書類等ヲ檢閲シ必要ナル事項ヲ尋問シ又ハ命令スルコトアヘシ

第二十九條 本則第一條以外ノ競馬ヲ開催シ若ハ其ノ競馬場ヲ設置セムトスルモノハ左記事項ヲ具シ開催二日前所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 開催者ノ住所職業氏名生年月日

二 設置者ハ開催ノ場所

三 馬場ノ長幅及形狀

四 馬場及馬繫場ノ略圖

五 開催箇所及時刻

前項ノ競馬場ハ警察官署ノ檢査ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十條 前條ノ競馬場及馬繫場ノ設置ニ關シテハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一 長形馬場ハ幅六米突以上長百二十米突以上タルコト

二 橢圓形及圓形馬場ハ幅六米突以上一周百二十米突以上タルコト

三 馬場ニハ末口一粉米突以上ノ縦木及横木ヲ用ヒ柵ヲ設クヘシ

縦木ハ二米突ヲ隔テ六粉米突以上ヲ地中ニ埋メ高サ一米突半以上トシ必要ノ部分ニハ外部ヨリ支柱ヲ設クヘシ

横木ハ地盤ヨリ每半米突ヲ隔テ三段ニ結束スヘシ

出入口ハ幅二米突トシ末口一粉米突以上ノ材木ヲ二段ニ横へ拔挿ニ便利ナラシムヘシ

四 馬繫場ハ一頭ニ付キ間口二米突以上トシ其ノ下部ニ觀覽席及出入口ヲ設クルコトヲ得ス

五 棧敷ヲ設クル場合ハ高サ二米突以上トシ其ノ下部ニ觀覽席及出入口ヲ設クルコトヲ得ス

第三十一條 第二十九條第一項ノ競馬ニシテ危險其ノ他公安風俗ヲ害スル虞アリト認ムル場合ハ警察官署ニ於テ其ノ開催ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第三十二條 本則第二條第四條乃至第二十三條、第二十六條、第二十七條、第二十九條及第三十條ノ規定並第二十四條、第二十五條及第三十一條ノ處分ニ違反シ第二十八條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十三條 本則ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス

第三十四條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ係員其ノ他從業者ノ行爲ニシテ本則ニ違反シタルトキ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十五條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 明治二十八年十二月岐阜縣令第五十二號競馬取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

競馬會ニ關スル件

取締上必要ノ義有之候條爾今競馬ヲ開催スルモノアル場合ハ左ノ事項ヲ調査シ其舉行前到達ノ見込ヲ以テ報告相成度候
追テ本件ハ競馬法ニ依ル競馬會ノミニ限ラス總テノ競馬ヲ包含スル義ニ有之候

調查事項

- 一 競馬會ノ名稱(競馬法ニ依ル競馬會ニアリテハ其所在地)
- 二 競馬開催ノ日時期間
- 三 競馬開催ノ場所
- 四 主催者後援者ノ住所氏名並職業(競馬ニ依ル競馬會ニアリテハ理事ノ氏名住所職業)
- 五 入場料、木戸錢、會費其他名義ノ如何ヲ問ハス一般ヨリ徵收スル料金
- 六 景品、獎勵金、賞與金其他何等ノ名義タルヲ問ハス競馬ノ勝負ニ關シ金錢物品等ヲ授與スルコトノ有無アリトセハ其方法詳細
- 七 勝馬投票券及拂戻金ニ關スル定アルトキハ其金額及發賣拂戻ノ方法等其他詳細

野犬撲殺ニ付飼養犬ニ關スル注意ノ件

(明治三十六年十二月四日)
岐阜縣告諭第四號

近來縣下ニ於テ野犬増加シ獵リニ人ニ追迫シテ交通ノ妨害ヲ爲シ又ハ獠惡ニシテ人畜ヲ咬傷スルモノ夥カラス就テハ野犬ト認ムルモノハ漸次撲殺セシムヘキニ付飼養犬ニハ必ス飼主ノ住所氏名ヲ記シタル頸輪又ハ牌子ヲ附シ野犬ニアラサルコトヲ表示シ且ツ獠惡ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボス虞アルモノハ逸走セサル機繋留シ置キ自他ヲ患者セサル機注意スヘシ

野犬撲殺ニ付注意ノ件

(明治三十六年十二月)
通達保第五一三八號

今回畜(野)犬取締ニ關シ第四號ヲ以テ告諭相成候ニ就テハ右ニ基キ畜犬飼養者ニ對シ洩ナク其住所氏名ヲ記シタル頸輪又ハ牌子附著セシムル機注意ヲ加ヘ野犬ノ撲殺ヲ爲サントスルトキハ巡查ヲシテ撲殺者ヲ連行セシメ飼養者アル犬ヲ撲殺スル等ノコト無之機注意セラルヘシ

第四款 森林

●森林法

(明治四十年四月二十三日)
法律第四十三號

附則 明治四四年六月法律第七五號改正

第一章 總則

- 第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス
- 前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス
- 第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス
- 前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス
- 第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ
- 第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有權若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
- 第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
- 第六條 民法第二百九十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セズ
- 但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケズ
- 第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラ

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督

第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第十條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第十三條 前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内租地免スルコトヲ得

第十五條 前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得

第十七條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三章 保安林

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ墮崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
- 五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
- 六 魚附ノ爲必要ナルトキ
- 七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
- 八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

第十七條 前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得

第十八條 保安林ヲ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

第十九條 前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ

地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

第十九條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官チシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ起ユルコトヲ得ス

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體若ハ私人チシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前條第三項但書ニ依リ負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第三十七條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四章 土地ノ使用及收用

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依リ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ

失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十五條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十九條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十一條 前條條ニ依リ補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウル

コトヲ拒ムコトヲ得

第五十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セラルルモノトス

第五十三條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原形ニ復シ又ハ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十五條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル物ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府力之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 流水竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條 前數條ノ外流水竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ

三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社団法人トス

第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ

第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的及事業

二 地區

三 名稱

四 事務所

五 出資又ハ費用分擔ノ方法

六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス

監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監

督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合ノ解散

第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外林森組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト

三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト

四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト

五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト

第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森

林産物又ハ森林産物ニ關スル營業者ノ手帳、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得

第七十八條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官ニ於テ必要ト認メ主務ノ臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外火入ヲ爲スコトヲ得ス

前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ

第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命ジ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

第七十條 罰則

第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依リ驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第八十三條 森林ニ於テ其ノ産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ〔重禁錮〕又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ〔重禁錮〕及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

- 一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
- 三 贓物ヲ燃料トシテ贓物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
- 四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橋ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
- 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
- 六 森林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
- 七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
- 八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
- 九 差押ノ贓物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ
- 十 夜間犯シタルトキ

第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贓物ト看做ス

第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ク又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ〔重禁錮〕及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贓額ノ二倍力二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ〔輕〕懲役ニ處ス因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ〔重〕懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主産物ヲ燒燬

シタル者ハ五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス

第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ〔重禁錮〕及二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限者ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得

第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
第一百二條 第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ料

ニ處ス

第一百四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第八章 附則

第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十年勅令第三百四十六號ヲ以テ同四十二年一月一日ヨリ施行)

第一百六條 北海道、沖縄縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中保安林ニ關スル規定ニ限リ之ヲ施行ス
前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ得

第一百七條 本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得
前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第一百八條 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス
第一百九條 公有林又ハ社寺有林ニ付テハ本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要領ハ第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一百十條 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規程ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十一條 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第一百十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

● 森林法施行規則(抄録)

(明治四十年十二月二十六日)
農商務省令第二十一號

沿道 明治四四年七月農令第二七號改正

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定シ若ハ造林ヲ命シタル者ニ之ヲ準用ス

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ都度之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

森林法第十八條ノ規定ニ依ル告示アリタル森林ニ關シテモ亦同シ

一 森林所有者ノ變更

二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ爲シ届書ニ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依ル水ノ使用ニ關スル權利、其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ準シテ許可證ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ

前項ノ許可證ハ火入者ニ於テ火入ノ際之ヲ携帯スヘシ

第四十五條 火入ニ付延燒其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林官吏又ハ何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 火入ヲ爲シタル者ハ火氣消滅シタル後ニ非サレハ其ノ場所ヲ立去ルコトヲ得ス

第四十七條 第十條ノ規定ハ森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命シタルモノニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ

第四十九條 第四條、第十條、第二十三條第一項、第二十六條、第二十九條、第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタル者ハ料料ニ處ス

第五十條 本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

● 森林法施行手續

(明治四十年十二月二十六日)
農商務省訓令第三十號

府縣

第一條 森林法第十條第一項ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定セムトスルトキハ第一號様式及第二號様式ニ準シ施業方法書及圖面ヲ作成シ其ノ處分書ニ之ヲ添附スヘシ

第二條 地方長官森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ森林所有者ニ通知スヘシ

第三條 地方長官ハ保安林ノ編入解除及森林法第三十二條ノ處分ニ關スル調査ヲ行フヘシ

前項ノ調査ハ利害關係顯著ナルモノヨリ逐次之ニ著手スヘシ但シ保安林ノ編入解除ニ付申請アリタルトキ又ハ官廳ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ箇所ノ調査ヲ行フヘシ

第四條 保安林編入ニ關スル調査ハ其ノ編入ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分シテ之ヲ行フヘシ

- 一 土砂防止林
- 二 飛砂防止林

- 三 水害防備林
- 四 防風林
- 五 潮害防備林
- 六 積雪防止林
- 七 墜石防止林
- 八 水源涵養林
- 九 魚附林
- 十 目標林
- 十一 衛生林
- 十二 風致林

前項ノ場合ニ於テ編入ノ目的二種以上ニ涉ルモノアルトキハ其ノ主ナル目的ニ依リ前項ノ區分ヲ爲スヘシ

第五條 保安林編入解除ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ作成スヘシ

一 保安林編入調査書 第三號様式及第四號様式

二 保安林調査地圖 第五號様式

三 保安林解除調査書 第六號様式

四 保安林解除地圖 (全部解除ノ場合ヲ除ク) 第七號様式

前項ノ外必要ニ應ジ編入解除ノ區域、其ノ附近ノ地形並地物配置ノ狀態ヲ明ニシタル概況圖ヲ作成スヘシ

第六條 保安林編入解除ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル場合ニ在リテハ關係地方長官協議ノ上保安林調査ヲ爲スヘシ

第七條 地方長官ニ於テ保安林ノ解除ヲ必要ト認メ又ハ保安林解除ノ申請者ハ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ關係地方長官ニ通知シ意見ヲ求ムヘシ

第八條 森林法第二十一條ノ規定ニ依ル意見書ハ之ヲ地方森林會ニ送付スヘシ

第九條 森林法第十八條ノ通知及告示ヲ爲シタル日、地方森林會ノ開會及閉會ヲ爲シタル日ハ之ヲ森林法第二十二條ノ規定ニ依リ差出スヘキ關係書類ニ於テ明瞭ナラシムヘシ

第十條 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ルヘシ但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其ノ他必要ナル目的ノ爲皆伐ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 保安林ハ一箇所(編入調査ノ一筆)毎ニ施業ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 保安林一箇年間ノ伐採面積ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商以內トシ隔年作業ニ在リテハ其ノ商ニ隔年ノ年數ヲ乘シタル積ヨリ大ナラシムルヲ得ス但シ伐採區域ハ擇伐ニ在リテハ伐採面積三倍以上ナルヲ要ス

保育ノ爲爲ス木竹ノ伐採又ハ枯木竹、損木竹、危險木竹、若ハ支障木竹ノ伐採ハ木竹伐採ノ禁止又ハ施業方法ノ指定ニ拘ラス之ヲ行ハシムルコトヲ得但シ其ノ保安林ノ目的ヲ害スル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 散生地、無立木地又ハ荒廢地タル保安林ニ可成速ニ造林セシムヘシ

第十四條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第十五條 森林法施行規則第十二條ニ依リ認可ノ申請書ニハ損害算定書ヲ添附シ同規則第十八條ニ依リ認可申請書ニハ森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依リ負擔ノ要否及其ノ金額ニ付意見ヲ具スヘシ

第十六條 地方長官ハ保安林ニ付開墾許可ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ開墾ノ爲森林タルヲ失ハサルモノノ外之ヲ許可スルコトヲ得ス

第十七條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ關スル調査ニ付テハ左ノ書類ヲ作成スヘシ

一 開墾制限(禁止)調査書 第八號様式及第九號様式

二 開墾制限(禁止)地圖 第十號様式

三 開墾制限(禁止)解除調査

第十一號様式及第十二號様式

四 開墾制限(禁止)解除地圖(全部解除ノ場合ヲ除ク)

第十三號様式及第十四號様式

第十八條 第六條及第七條ノ規定ハ森林法第三十二條ノ規定ニ依ル處分ニ之ヲ準用ス

第十九條 森林法施行規則第十九條ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ利害關係者ニ知ラシムル爲便宜ノ方法ヲ執ルヘシ

第二十條 森林法第四十條、第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ又ハ協議ニ應セムトスル場合ニ於テ官廳ノ管理ニ屬スル物件又ハ現ニ公用ニ供スル物件ニ係ルモノアルトキハ豫メ其ノ物件ヲ管理スル官廳又ハ管理者ニ協議ヲ爲スヘシ

第二十一條 森林法第七十二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ組合ノ解散ヲ命セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 森林法第七十六條ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リ警察官署ニ於テ森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ヲ所轄區域内又ハ其ノ附近ニ在ル小林區署又ハ帝室林野管理局支廳出張所ニ通知セシムヘシ其ノ届出ニ係ル記號、印章ノ變更又ハ其ノ使用廢止ノ届出ヲ受理シタルトキ亦同シ

第二十三條 森林法第八十一條第一項ノ規定ニ依リ蟲類以外ノ動物又ハ微菌ノ驅除豫防ニ關シ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

一 動物又ハ微菌ノ名稱、其ノ方言

二 主ナル被害產物ノ種類並被害ノ狀況

三 驅除豫防ノ方法

第二十四條 森林害蟲等ノ蔓延鄰接府縣ニ及ハムトスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第二十五條 二府縣以上ニ涉リ害蟲等蔓延シタルトキハ關係地方長官協定シテ驅除豫防ヲ行フヘシ

第二十六條 森林法第七七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命セムトスルトキハ第十五號様式及第十六號様式ニ準シ造林方法書及圖書ヲ作成シ其ノ處分書ニ添付スヘシ

第二十七條 森林法第七七條ノ規定ニ依リ命スル造林ノ完了年限ハ可成速成ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 森林法第八八條ニ該當スル保安林ハ明治四十三年度末迄ニ之ヲ調査スヘシ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

一 森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止若ハ指定ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ第三號様式及第四號様式ニ準シテ作成シタル圖書ヲ添付スヘシ

二 同法第三十二條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ第八號様式及第九號様式ニ準シテ作成シタル圖書及第十號様式ニ準シテ作成シタル圖面ヲ添付スヘシ

三 第一號及第二號ノ制限、禁止又ハ指定ヲ變更、解除スルノ必要アリト認ムルトキ

第三十條 地方長官ニ於テ森林法第十一條第一項、第三十條又ハ第七十七條第二項ノ規定ニ依リ造林ヲ行ハムトスルトキハ其ノ理由及左ニ掲グル事項ヲ具シタル認可申請書ニ第十七號様式ニ準シテ作成シタル造林事業豫算書ヲ添付シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 造林費ノ徵收ニ關スル事項

二 義務者ノ資力ニ關スル事項

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 森林法第九條第一項ノ規定ニ依リ府縣令ヲ發シタルトキ

二 森林法施行規則第六條ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタルトキ

三 森林法第六十條ノ規定ニ基キテ府縣令ヲ發シタルトキ